

■ 実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。

詳細は各シラバスを参照してください。

【芸術学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	表現技術論	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
2	京都学	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
3	京都学演習Ⅰ（デザイン）	2	教養	担当：田中 正流	
4	京都学演習Ⅱ	2	教養	担当：井上 年和	配当年次：4年
5	英語演習Ⅰ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
6	英語演習Ⅱ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
7	情報基礎演習	2	教養	担当：木村 奈保	
8	英語コミュニケーション	1	教養	担当：ヒルド 麻美	
9	しごと論Ⅰ	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
10	社会活動Ⅰ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
11	メディアリテラシー	2	教養	担当：山田 秀幸	
12	社会活動Ⅱ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
13	しごと論Ⅱ	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
14	インターンシップ	2	教養	担当：山田 秀幸	
15	工芸概論	2	専門	担当：玉村 嘉章	オムニバス
16	伝統工芸概論	2	専門	担当：古閑 謙太郎	オムニバス
17	構成基礎演習	1	専門	担当：遠藤 公誉	
18	日本住居史	2	専門	担当：井上 年和	
19	色彩学	2	専門	担当：東 俊一郎	
20	デザイン概論	2	専門	担当：中井川 正道	
21	日本建築史	2	専門	担当：砂川 晴彦	
22	コンピュータデザイン演習	2	専門	担当：木村 奈保	
23	近代建築史	2	専門	担当：人見 将敏	
24	デザイン作図演習	2	専門	担当：小椋 吉隆	
25	IT活用応用演習	2	専門	担当：木村 奈保	
26	建築材料	2	専門	担当：根来 宏典	
27	インテリア設計	2	専門	担当：小椋 吉隆	
28	都市空間論	2	専門	担当：中井川 正道	
29	伝統構造学	2	専門	担当：井上 年和	
30	造形材料論	2	専門	担当：渡邊 俊博	
31	立体造形（工芸）	2	専門	担当：三木 表悦	
32	近代デザイン史	2	専門	担当：岡 達也	
33	室内意匠論	2	専門	担当：小椋 吉隆	
34	公共デザイン論	2	専門	担当：宮内 智久	
35	造形芸術論	2	専門	担当：渡邊 俊博	
36	現代芸術論	2	専門	担当：山本 太郎	
37	芸術導入演習	2	専門	担当：加納 奈都	
38	芸術導入実習	2	専門	担当：田中 秀和	
39	造形基礎演習Ⅰ（工芸）	2	専門	担当：青木 太一	
40	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ	2	専門	担当：田中 秀和	
41	造形基礎演習Ⅱ（工芸）	2	専門	担当：玉村 喜章	
42	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2	専門	担当：岡 達也	
43	専門実習Ⅰ	2	専門	担当：岡 達也	
44	専門実習Ⅱ	2	専門	担当：渡邊 俊博	
45	専門実習Ⅲ	2	専門	担当：渡邊 俊博	
46	プロジェクト演習Ⅰ	2	専門	担当：中井川 正道	
47	プロジェクト演習Ⅱ	2	専門	担当：中井川 正道	
48	プロジェクト演習Ⅲ	2	専門	担当：中井川 正道	
49	卒業制作研究	4	専門	担当：中井川 正道	
50	卒業制作・論文	6	専門	担当：中井川 正道	

■ 実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。
詳細は各シラバスを参照してください。

【建築学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	表現技術論	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
2	京都学	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
3	京都学演習Ⅰ	2	教養	担当：生川 慶一郎	
4	京都学演習Ⅱ	2	教養	担当：井上 年和	
5	英語演習Ⅰ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
6	英語演習Ⅱ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
7	情報基礎演習	2	教養	担当：宮内 智久	
8	英語コミュニケーション	1	教養	担当：ヒルド 麻美	
9	しごと論Ⅰ	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
10	社会活動Ⅰ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
11	メディアリテラシー	2	教養	担当：山田 秀幸	
12	社会活動Ⅱ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
13	しごと論Ⅱ	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
14	インターンシップ	2	教養	担当：山田 秀幸	
15	建築概論	2	専門	担当：高田 光雄	
16	伝統工芸概論	2	専門	担当：古閑 謙太郎	オムニバス
17	構成基礎演習	1	専門	担当：森重 幸子	
18	日本住居史	2	専門	担当：井上 年和	
19	色彩学	2	専門	担当：東 俊一郎	
20	デザイン概論	2	専門	担当：中井川 正道	
21	建築計画Ⅰ	2	専門	担当：人見 将敏	
22	建築CAD演習Ⅰ	2	専門	担当：新海 俊一	
23	日本建築史	2	専門	担当：砂川 晴彦	
24	建築CAD演習Ⅱ	2	専門	担当：山内 貴博	
25	建築計画Ⅱ	2	専門	担当：安田 光男	
26	建築材料	2	専門	担当：根来 宏典	
27	世界建築史	2	専門	担当：白鳥 洋子	
28	都市空間論	2	専門	担当：中井川 正道	
29	景観デザイン論	2	専門	担当：山内 貴博	
30	伝統構造学	2	専門	担当：井上 年和	
31	近代建築史	2	専門	担当：人見 将敏	
32	建築計画Ⅲ	2	専門	担当：森重 幸子	
33	都市計画	2	専門	担当：新海 俊一	
34	伝統建築図	2	専門	担当：大上 直樹	
35	京町家再生論	2	専門	担当：生川 慶一郎	
36	室内意匠論	2	専門	担当：小梶 吉隆	
37	建築計画Ⅳ	2	専門	担当：杉本 直子	
38	公共デザイン論	2	専門	担当：宮内 智久	
39	社寺建築論	2	専門	担当：大上 直樹	
40	建築設計導入実習	3	専門	担当：新海 俊一	
41	建築設計基礎演習Ⅰ	4	専門	担当：井上 晋一	
42	建築設計基礎演習Ⅱ	4	専門	担当：森重 幸子	
43	建築設計演習Ⅰ	4	専門	担当：安田 光男	
44	建築設計演習ⅡA	2	専門	担当：小梶 吉隆	
45	建築設計演習ⅡB	4	専門	担当：生川 慶一郎	
46	建築設計演習Ⅲ	4	専門	担当：井上 晋一	
47	卒業研究	6	専門	担当：井上 晋一	

■ 実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。

詳細は各シラバスを参照してください。

【芸術学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	表現技術論	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
2	京都学	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
3	京都学演習Ⅰ（デザイン）	2	教養	担当：田中 正流	
4	京都学演習Ⅱ	2	教養	担当：井上 年和	配当年次：4年
5	英語演習Ⅰ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
6	英語演習Ⅱ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
7	情報基礎演習	2	教養	担当：木村 奈保	
8	英語コミュニケーション	1	教養	担当：ヒルド 麻美	
9	しごと論Ⅰ	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
10	社会活動Ⅰ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
11	メディアリテラシー	2	教養	担当：山田 秀幸	
12	社会活動Ⅱ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
13	しごと論Ⅱ	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
14	インターンシップ	2	教養	担当：山田 秀幸	
15	工芸概論	2	専門	担当：玉村 嘉章	オムニバス
16	伝統工芸概論	2	専門	担当：古閑 謙太郎	オムニバス
17	構成基礎演習	1	専門	担当：遠藤 公誉	
18	日本住居史	2	専門	担当：井上 年和	
19	色彩学	2	専門	担当：東 俊一郎	
20	デザイン概論	2	専門	担当：中井川 正道	
21	日本建築史	2	専門	担当：砂川 晴彦	
22	コンピュータデザイン演習	2	専門	担当：木村 奈保	
23	近代建築史	2	専門	担当：人見 将敏	
24	デザイン作図演習	2	専門	担当：小椋 吉隆	
25	IT活用応用演習	2	専門	担当：木村 奈保	
26	建築材料	2	専門	担当：根来 宏典	
27	インテリア設計	2	専門	担当：小椋 吉隆	
28	都市空間論	2	専門	担当：中井川 正道	
29	伝統構造学	2	専門	担当：井上 年和	
30	造形材料論	2	専門	担当：渡邊 俊博	
31	立体造形（工芸）	2	専門	担当：三木 表悦	
32	近代デザイン史	2	専門	担当：岡 達也	
33	室内意匠論	2	専門	担当：小椋 吉隆	
34	公共デザイン論	2	専門	担当：宮内 智久	
35	造形芸術論	2	専門	担当：渡邊 俊博	
36	現代芸術論	2	専門	担当：山本 太郎	
37	芸術導入演習	2	専門	担当：加納 奈都	
38	芸術導入実習	2	専門	担当：田中 秀和	
39	造形基礎演習Ⅰ（工芸）	2	専門	担当：青木 太一	
40	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ	2	専門	担当：田中 秀和	
41	造形基礎演習Ⅱ（工芸）	2	専門	担当：玉村 喜章	
42	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2	専門	担当：岡 達也	
43	専門実習Ⅰ	2	専門	担当：岡 達也	
44	専門実習Ⅱ	2	専門	担当：渡邊 俊博	
45	専門実習Ⅲ	2	専門	担当：渡邊 俊博	
46	プロジェクト演習Ⅰ	2	専門	担当：中井川 正道	
47	プロジェクト演習Ⅱ	2	専門	担当：中井川 正道	
48	プロジェクト演習Ⅲ	2	専門	担当：中井川 正道	
49	卒業制作研究	4	専門	担当：中井川 正道	
50	卒業制作・論文	6	専門	担当：中井川 正道	

講義名	①表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松本 浩作	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中山 智博	KYOB I 芸術学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。
授業計画 授業内容	<p>全15回 オムニバス形式</p> <p>第1回 中井川正道 全体ガイダンス 第2回 岡 達也 ポスター表現 1 第3回 岡 達也 ポスター表現 2 第4回 渡邊 俊博 立体の表現 第5回 中山 智博 3Dの表現 1 第6回 中山 智博 3Dの表現 2 第7回 松本 浩作 照明の表現 1 第8回 松本 浩作 照明の表現 2 第9回 松本 浩作 照明の表現 3 第10回 杉山 英知 人にやさしい空間表現 第11回 東 俊一郎 街の色彩の表現 第12回 中井川 正道 美の表現 1 第13回 中井川 正道 美の表現 2 第14回 中井川 正道 美の表現 3 第15回 中井川正道 まとめとレポート</p> <p>*講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります</p>
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	『グラフィックデザイナーの仕事』祖父江慎 グルーヴィジョンズ 『イサムノグチ』宿命の越境者(上)(下)ドウス昌代 2003 『陰影礼賛』谷崎潤一郎 バイインターナショナル 2018 『色と光の科学 物理と化学で読み解く色彩の起源』小島憲道 講談社 2023 『人体 5億年の記憶:解剖学者・三木成夫の世界』海明社 2017
履修上の注意	講師の都合により内容、講師の変更、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術 伝統と学び 工芸概論 デザイン概論 しごと論Ⅰ、Ⅱ 発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第15回目の授業で総括する
教員の実務経験	岡達也: 京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験、デザイン史研究の実績をもとに講義する。 渡邊俊博: 素材メーカーでの実績をもとに、立体系デザインの造形や表現方法について講義する。 中山智博: 3Dスキャンを使った画像制作の実績をもとに、撮影技術等について講義する。 松本浩作: 照明メーカーでの実績をもとに、照明の基本的な知識などを講義する。 杉山英知: 建築家の実績をもとに、体の不自由な人に配慮した空間デザインのあり方について実例を示しながら講義する。 東俊一郎: 建築・インテリア設計、色彩研究の経験をもとに、空間設計における色彩理論や色彩の心理的効果について講義する。 中井川正道: デザイン設計事務所の勤務経験から得た知見をもとに講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE213L

講義名	②京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。</p> <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	<p>京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいており、国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる。京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。京都学というタイトルから京都観光・歴史文化を学ぶことを連想する場合もあるが、本講座では京都の行政を中心とした学びである。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回(オムニバス方式) ※第1回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇</p> <p>第1回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進/総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第2回 留学生施策の推進/総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第3回 時を超え光り輝く京都の景観づくり/都市計画局都市景観部景観政策課 第4回 みんなでつくる京都観光/産業観光局観光MICE推進室 第5回 博物館で学んでみませんか?/教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進担当 第6回 都心再生のまちづくり/都市計画局まち再生・創造推進室 第7回 京都市の文化財保護について/文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第8回 わたしたちの伝統産業/産業観光局クリエイティブ産業振興室 第9回 京都駅エリア活性化将来構想/総合企画局プロジェクト推進室プロジェクト推進第三担当 第10回 美術館とは何か/文化市民局文化芸術都市推進室 美術館 第11回 みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう!/保健福祉局障害保健福祉推進室 第12回 家族を守る、地域を守る消防団/消防局消防団・自主防災推進室 第13回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来/東山区役所地域力推進室 第14回 SDGs(持続可能な開発目標)とは?/総合企画局総合政策室SDGs・レジリエントシティ推進担当 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか?」/副学長 新谷裕久</p> <p>※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。</p>
成績評価	<p>受講態度(10%)、毎回講義中に実施する小レポート(90%)をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する(減点方式)。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。</p>
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する(クラスルームに添付)。
参考書 参考資料	京都市ホームページ(www.city.kyoto.lg.jp)
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等チェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として京都の行政との連携事業に携わっており、京都学について包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR102L

講義名	③京都学演習 I (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	久保田 康夫	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	藤井 容子	KYOB I 芸術学部

到達目標	1200年の歴史をもつ京都の文化的価値や現代生活との関係を学ぶ。 この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。
授業概要	本授業では、「京都」を対象とし、各専攻の専門性に基ついた歴史的知識や見識を深めることを目的とします。 京都は、日本の歴史・文化の中心地として発展し、多種多様な文化と密接に関わってきました。建築・美術・宗教・芸能・文学・民俗学・史学などの幅広い視点から京都を学び、自身の持つ専門技術と複合させて作品制作を行います。新たな「京都」の価値や魅力を発信していきます。 また、現地調査や文献調査、京都で活躍する様々な分野の専門家からのレクチャーを通じて、実証的なアプローチを身につけます。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 演習全般に関する説明（グループ編成の場合あり） 第2回 調査指導 文献調査、資料収集を行う。 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム1-調査内容の作成 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム2-調査および成果品の作成 第15回 演習プログラムの内容確認 成果品書の提出 評価 ※京都市内の調査対象に直接アプローチする。 ※スケジュールや内容は変更がある場合があります。
成績評価	履修態度および調査内容（50%）調査報告書のレベル（50%）により評価する。
教科書	特になし
参考書 参考資料	『京都府の歴史散歩上・下』京都府歴史遺産研究会編 山川出版 『アジア古都物語 京都千年の水脈』NHK出版 『景観を歩く京都ガイド』清水泰博 岩波アクティブ新書 『京都まち遺産探偵』円満字洋介 淡交社 『京都学』1巻～7巻 京都学研究会
履修上の注意	・特にフィールドワーク・校外活動の際は、規律のある行動を取るようにつけてください。 ・授業外にも制作時間を確保してください。
予習・復習指導	準備学習を行う 自身の興味（視点）と京都における調査対象を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを学習する。 調査対象を選択し視点と関係する内容を詳細に抽出する。
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財情報デザイン論Ⅰ」「文化財情報デザイン論Ⅱ」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」「伝統建築論Ⅰ」「文献-絵画資料概論」「博物館資料論」
課題に対するフィードバックの方法	進捗報告、成果品の講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる学芸員の実務経験（28年間）を活かして、学生に伝授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	④京都学演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>京都に存する史跡、名勝、歴史的建造物、伝統的建造物群保存地区、行事などの文化財に対する理解を深めるとともに、自己の観察力や洞察力、表現力、協調性、自発性を高めることを目標とする。</p> <p>この科目は、DPO-2、DPO-3に該当する。</p>
授業概要	<p>京都には山や水などの豊かな自然に恵まれ、平安京創建以来長い歴史の中で、様々な人々の生業が営まれてきた。</p> <p>社寺建築、民家などの建造物や庭園などが造られ、路地や水路などのインフラを含む歴史的町並みが形成されると、その中で茶道や華道、香道や祭り、芸能などの文化も充実し、また、これらは時代の趨勢の中で変遷し、現在みる歴史文化都市として発展してきたのである。</p> <p>当演習では、このように重層的な構造を持つ京都をフィールドワークにより体感、取材し、ポスターを作成することにより歴史文化を内外に発信することを目論む。</p>
授業計画 授業内容	<p>フィールドワークは2週間おきに土曜日に実施する。 最終回は作品（ポスター）の講評会を行う。</p> <p>第1回 5/10(土)13時～17時50分 岡崎 第2回 5/24(土)13時～17時50分 南禅寺～哲学の道 第3回 6/7(土)13時～17時50分 京都大学 第4回 6/21(土)13時～17時50分 京都御苑 第5回 7/1～24 祇園祭 第6回 7/29(火)作品講評会</p>
成績評価	受講態度、提出物、プレゼンテーションから総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書 参考資料	特になし
履修上の注意	見学、調査を行う際は、感染症の感染拡大防止に努め、規律ある態度をとること。
予習・復習指導	選定物件に対し、十分な知識を得たうえで、構想を練り練り成果物提出へつなげること。
関連科目	京都学演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に講評を行う。
教員の実務経験	<p>文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説および現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法を体得する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR407S

講義名	⑤英語演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実際経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職 京都国立博物館において20年にわたる通訳担当、京都府庁における知事付通訳等の実績を活かし、長文英訳ではない、英語によるコミュニケーションを指導する。
教員の実際経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	⑥英語演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。世界遺産の資料を読む・聞くの力をつけるために使い、地理・歴史の知識に触れながら、到達目標としては学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを旨とする。
授業概要	前期の英会話体験に基づき、視野を世界に広げ、ユネスコの世界遺産のうちタージ・マハル（インド）マチュ・ピチュ遺跡（ペルー）アルハンブラ（スペイン）フェズ旧市街（モロッコ）モンサンジェル（フランス）など、建築・美術工芸にかかわる文化遺産を中心に学ぶ。英文資料を読み、オンライン情報から英語動画を視聴し、地理・歴史を含む世界遺産の知識とともに英語の読み・聞く力をつける。また、グループで気になる世界遺産の対象を選び、自分たちで資料を調べ、簡単な英語で発表することで、英文作成、英文プレゼンの練習とする。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1・世界遺産紹介 第2週 TOEIC形式英語演習 2・世界遺産紹介 第3週 TOEIC形式英語演習 3・世界遺産紹介 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5・世界遺産紹介 第6週 TOEIC形式英語演習 6・世界遺産紹介 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8・世界遺産紹介 第9週 TOEIC形式英語演習 9・世界遺産紹介 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11・世界遺産紹介 第12週 TOEIC形式英語演習 12・世界遺産紹介 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14・世界遺産紹介 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 時間のある時に常にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英語は言語ですので、とにかく出席して声を出すようにしてください。語学は貪欲にならないとなかなか身につけません。受け身にならず、自分から自分の力を高めるように、他の学生が指名されている時も、必ず自分でその回答を考えることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 などを使って、語彙を増やしてください。毎回の授業でわからなかった箇所は必ず後でおさえるようにしてください。
関連科目	英語演習I 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職。京都国立博物館において20年にわたる通訳担当、京都府庁における知事付通訳等の実績を活かし、長文英訳ではない、英語によるコミュニケーションを指導する。
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	⑦情報基礎演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生において演習、実習、講義等の授業内で必要とされる基礎的なPCスキルを習得する。 ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopの基本的操作を習得する。 ・自分の意見を人に伝えるためのプレゼンテーション力や協調性を身につける。 <p>この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>大学での様々な講義、演習、実習等の受講時に、必要とされるPCアプリケーションの基本的操作を習得することを目的とする。</p> <p>レポート作成や、課題提出方法、プレゼンテーションの方法を学び、各授業でスムーズに対応出来るようにする。</p> <p>大学ではプレゼンテーションをする機会が多いため、PowerPoint等を使用したプレゼン資料作成をアプリケーションのスキル習得と共に学生同士のコミュニケーションを図る。</p> <p>またデザイン系ソフト（AdobeIllustrator、AdobePhotoshop）ではロゴやイラスト、広告作成、生成AIを利用した画像編集など自由に描画、編集する為の基本操作を学ぶ。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 1回/1コマ</p> <p>第1回 【オリエンテーション】 大学生活において必要なPC操作 第2回 【プレゼンデータ作成】 ～わたしの好きなもの～ 第3回 【グループ内プレゼン大会】 プレゼンテーションをしてみよう 第4回 【入門】 Adobe Illustratorを使ってポスターを模写してみよう 第5回 【基礎1】 Adobe Illustratorの基本操作（パス・パスファインダー） 第6回 【基礎2】 Adobe Illustratorの基本操作（文字・整列） 第7回 【基礎3】 Adobe Illustratorの基本操作（レイヤー・トリムマーク） 第8回 【基礎4】 Adobe Photoshopの基本機能 AIを利用した画像編集①（選択範囲） 第9回 【基礎5】 Adobe Photoshopの基本機能 AIを利用した画像編集②（調整レイヤー） 第10回 【基礎6】 Adobe Photoshopの基本機能 AIを利用した画像編集③（切り抜きマスク） 第11回 【基礎7】 Adobe Photoshopの基本機能 第12回 【基礎知識】 印刷データとしての取り扱い 第13回 【実践課題】 コンセプトに沿った作品を作ってみよう 第14回 【実践課題】 制作日 第15回 【合評】 投票しよう！ 優秀作品のプレゼンテーション、総評</p> <p>※毎回練習課題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% <p>以上を総合して評価する。</p>
教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>参考資料：「世界一わかりやすい Illustrator 操作とデザインの教科書」技術評論社 「世界一わかりやすい Photoshop 操作とデザインの教科書」技術評論社</p> <p>※上記資料は授業では使用しません。</p>
履修上の注意	<p>毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。</p> <p>マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。</p> <p>ソフトのインストールは受講前に済ませておくこと。</p> <p>設定時に必要なID、パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。</p>
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて作品作りに取り組むこと。 ・課題ごとに試作したものは整理し、まとめておくこと。
関連科目	<p>「コンピュータデザイン演習」 「メディアリテラシー」 「芸術導入実習」 「工芸・デザイン基礎実習I」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回授業内にて適宜対応する。</p> <p>課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。</p>
教員の実務経験	<p>木村奈保：印刷会社に写真製版、レタッチャー、広告デザイナーとして6年半勤務。 加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年</p> <p>Illustratorを使用したデジタル表現の作家活動でのノウハウと、DTPやレタッチの技術や知識と経験を活かし、Illustrator、Photoshopを使用した編集技術と表現方法を幅広く学び、「想いをかたちにする」ための演習を行う。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	⑧英語コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBU 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。大学周辺の東山エリアの紹介ができるように、地元について学びながらそれを英語で表現する。さらにエリアを広げて、京都の名所、歴史や文化を学びながらそれを英語で表現する。また、自分の専門分野における活動や制作について英文プレゼンを含め、簡単に英語で紹介する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 TOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。必要に応じて教室で指示します。
関連科目	英語演習I 英語演習II 英語演習III
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職 京都国立博物館において20年にわたる通訳担当、京都府庁における知事付通訳等の実績を活かし、長文英訳ではない、英語によるコミュニケーションを指導する。
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	⑨しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。 <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>オムニバス形式／全15回</p> <p>第1回 新谷 裕久（教授/大学企画・広報） 第2回 高田 光雄（教授/建築家） 第3回 川尻 潤（特任教授/陶芸家） 第4回 堀木 エリ子（客員教授/和紙デザイナー） 第5回 前田 尚武（京セラ美術館企画推進ディレクター） 第6回 塚本 カナエ（非常勤講師/プロダクトデザイナー） 第7回 宮本 貞治（特任教授/木工家） 第8回 旗 邦充（数寄屋大工） 第9回 コシノ・ジュンコ（客員教授/デザイナー） 第10回 阿部 祐二（客員教授/俳優/リポーター） 第11回 国広 ジョージ（客員教授/建築家） 第12回 中井川 正道（教授/環境デザイン） 第13回 大西 英玄（清水寺成就院住職） 第14回 久保田 康夫（フォトグラファー） 第15回 三木 表悦（特任准教授/漆芸家）</p> <p>新谷裕久：広報業務の実績をもとに、大学広報の仕事内容について講義する。 高田光雄：建築の研究実績をもとに、京町屋の歴史、建築家の職能について講義する。 川尻潤：陶芸作家の実績をもとに、造形論、作家等の生業について講義する。 堀木エリ子：和紙工芸作家の実績をもとに、伝統工芸の継承等について講義する。 前田尚武：キュレーション、建築家としての実績をもとに、企画立案などを講義する。 塚本カナエ：プロダクトデザイナーの実績をもとに、プロダクトデザインの歴史などを講義する。 宮本貞治：木工家の実績をもとに、木の素材や性質、加工技術等について講義する。 旗邦充：数寄屋建築の実績をもとに、木材の選定、加工等について講義する。 コシノジュンコ：ファッションデザインの実績をもとに、デザイン活動等を講義する。 阿部祐二：俳優、レポーター等の実績をもとに、目標、進路、仕事の意義等について講義する。 国広ジョージ：建築家としての実績をもとに、異文化経験、著名な建築体感等を講義する。 中井川正道：景観設計の実績をもとに、景観上の美しさについて講義する。 大西英玄：清水寺住職の経験をもとに、仕事や物事のとらえ方等解釈について講義する。 久保田康夫：写真家としての実績をもとに、被写体に対する構図等について講義する。 三木表悦：漆芸作家としての実績をもとに、造形の発想等について講義する。 ※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は昨年の講師）</p>
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	<p>「手仕事の日本」柳宗悦 岩波文庫 「機嫌のデザイン まわりに左右されないシンプルな考え方」 秋田道夫 ダイヤモンド社 「グラフィックデザイナーの仕事」祖父江慎 グルーヴィジョンズ 「建築家になりたい君へ」隈研吾河出書房新社 「みんなの家 建築家一年生の初仕事」光嶋裕介 アルテスヴィジョンズ</p>
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。 小レポート作成において生成AIの使用を禁止する。使用が発覚した場合は相応の処分を行う。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを15回目の授業内で行う。
教員の実務経験	授業内容に記載済 中井川正道：景観設計の実績をもとに、大きな構築物の景観への影響、景観上の美しさとは何かについて講義する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA101L

講義名	⑩ 社会活動 I		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOBUI 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOBUI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBUI 建築学部
講師	加納 奈都	KYOBUI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBUI 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOBUI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBUI 芸術学部
教授	井上 年和	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。</p> <p>この科目は、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動Iでは、「ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成」を主目的としている。社会活動IIでは、ボランティア活動の発展・応用として「指導的立場としての行動力の育成」を主目的としているので、社会活動IとIIを合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日=1イベント (1point) としてカウントする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新日吉神宮神幸祭支援活動 2point (5/11) / 70名程度 (男女関係なし) ×1日 2. 下御霊神社還幸祭行列 2point (5/18) / 20名程度 (男子のみ) ×1日 3. 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point (7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名) 0.5日 ×3 4. 祇園祭巡行支援活動 2point (7/24) / 5名 (木曜日の授業のない男子のみ: 4年生等) ×1日 5. 七条大橋・真教学区清掃活動 1point (6/7, 8/7, 9/7, 12/7) / (10~50名) 0.5日 ×4 6. 真教学区夏祭り 2point (8/30夕方~夜) / 30~100名 ×1日 7. 豊国神社森林保全活動 2point (9月上旬) / 20~30名 ×1日 8. 真教学区体育祭準備 1point (10/4PM) / (30名程度) ×0.5日 9. 真教学区体育祭 2point (10/5) / (30~100名) ×1日 10. KYOBUI祭支援活動 1point (10/31AM-PM, 11/1AM-PM, 11/2AM-PM, 11/3AM-PM) / (30~250) 0.5日 ×8 11. 東山ふれあい広場支援活動 2point (11月上旬) / 10~20名 ×1日 12. 伝統芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1point (6, 9, 11, 12, 1, 2月: 夕方) / (10~50名) 0.5日 ×6 13. オフキャンパス支援活動 1point (5/25, 6/15, 7/20, 7/27, 8/3, 8/10, 8/24, 9/21, 10/19) / (10~50名) 0.5日 ×18
成績評価	<p>実習態度 (30%)、小レポート (70%)</p> <p>実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する (減点方式)。</p> <p>5つの課題 (5イベント) の実習とレポート提出をもって修了とする。</p> <p>予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。</p>
教科書	<p>必要に応じて、資料を適宜配布する。</p>
参考書 参考資料	<p>実習を通して適宜紹介する。</p> <p>フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。</p>
履修上の注意	<p>学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策 (3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等) を徹底すること。</p>
予習・復習指導	<p>予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。</p> <p>具体的な日程については事前に掲示する。</p>
関連科目	<p>1年次は、伝統文化科目である「京都学」で学ぶ地域社会との関連性が高い。</p> <p>2年次には引き続き「社会活動II」を選択することが望ましい。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>一実習 (1コマ) に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。</p>
教員の実務経験	<p>実務教職員が担当</p> <p>担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Iについて包括的に講義することができる。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>COM-CA102P</p>

講義名	⑪ メディアリテラシー		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・情報にアクセスする際は、データ・AIの利活用などを通じて「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーを高める。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から話を聞き、発信する側の思いや取り組みを知る。 ・さらに、新聞でいえば「国際面」「社会面」「政治面」それぞれの主役である外交官、警察関係者、政治家らから直接話を聞くことで、ニュース報道からだけでは見えない側面を自ら発見する。 <p>この科目は、DP0-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>メディアリテラシーとは、新聞やテレビ、インターネットなどから発信される情報を正しく理解し、また、ときには自ら情報を適切に発信する能力のこと。AIなどの技術が急速に発達している近年のデジタル社会においては、これに加えて「デジタル時代の読み・書き・そろばん」とも言われる「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーが求められています。</p> <p>本講座では、AI翻訳を活用して英字情報に積極的にアクセスするほか、日々のニュースの主役である外交官、政治家、警察関係者らをゲストスピーカーとして招き、メディアのフィルターを通さない1次情報に接してもらいます。さらに、第一線で活躍するメディア関係者からも話を聞き、メディアの現状と課題に対する理解を深めます。ゲストの回は質疑応答の時間を設けるので、積極的に質問を。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス：メディアリテラシーとは — メディア情報を大学生活にどう生かすか 第2回 メディアの種類と特性 — 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第3回 メディアを巡る諸問題(1) — 誤報、客観報道と情報操作 第4回 メディアを巡る諸問題(2) — 実名報道 第5回 英字メディアのリテラシー(1) 第6回 英字メディアのリテラシー(2) 第7回 テレビ局の仕事 第8回 新聞社の仕事 第9回 FMラジオ局のさまざまな取り組み — 音楽からアートまで 第10回 ソーシャルメディアの功罪 第11回 ニュースの主役(1) — 警察 第12回 ニュースの主役(2) — 外交官 第13回 ニュースの主役(3) — 政治家 第14回 動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介） 第15回 情報収集・分析のプロたち — インテリジェンスとは</p> <p>※予定は目安です。変更になる場合があります。</p>
成績評価	毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。
教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書 参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会） ※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	<p>情報誌の編集、米全国紙のダイジェスト版の翻訳、新聞の取材、インタビュー、紙面連載に携わる。その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長として年間2万件を超えるビザの発給業務のほか、カンボジア-日本の二国間交流や各国公館との国際交流に従事。新聞のインタビューでは政治家、外交官らを取材し、紙面紹介した。新聞社における自らの体験に加え、テレビ、ラジオの報道・制作現場の声を伝えるため、さらに日々のニュースの主役ともいえる警察官、外交官、政治家などの声に直接触れる機会を設けるため、メンバーをゲスト講師として招いている。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA103L

講義名	⑫ 社会活動Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>高度な社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。</p> <p>この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動Ⅰでは、ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成を主目的としている。また社会活動Ⅱでは、ボランティア活動の発展・応用として、指導的立場としての行動力の育成を主目的としている。したがって社会活動ⅠとⅡを合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日=1イベント(1point)としてカウントする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 鴨川トレッキング&清掃活動(新入生引率) 1point (4/19) / 250名×0.5日 新日吉神宮神幸祭支援活動 2point (5/11) / 70名程度(男女関係なし)×1日 下御霊神社還幸行列 2point (5/18) / 20名程度(男子のみ)×1日 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point (7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名) 0.5日×3 祇園祭巡行支援活動 2point (7/24) / 5名(木曜日の授業のない男子のみ:4年生等)×1日 七条大橋・貞教学区清掃活動 1point (6/7, 8/7, 9/7, 12/7) / (10~50名) 0.5日×4 貞教学区夏祭り 2point (8/30夕方~夜) / 30~100名×1日 豊国神社森林保全活動 2point (9月上旬) / 20~30名×1日 貞教学区体育祭準備 1point (10/4PM) / (30名程度)×0.5日 貞教学区体育祭 2point (10/5) / (30~100名)×1日 KYOB I祭支援活動 1point (10/31AM-PM, 11/1AM-PM, 11/2AM-PM, 11/3AM-PM) / (30~250) 0.5日×8 東山ふれあい広場支援活動 2point(11月上旬) / 10~20名×1日 伝統工芸館・鴨川七条ギャラリ―展示活動 1point (6, 9, 11, 12, 1, 2月:夕方) / (10~50名) 0.5日×6 オープンキャンパス支援活動 1point (5/25, 6/15, 7/20, 7/27, 8/3, 8/10, 8/24, 9/21, 10/19) / (10~50名) 0.5日×18
成績評価	<p>実習態度(30%)、小レポート(70%)</p> <p>実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する(減点方式)。5つの課題(5イベント)の実習とレポート提出をもって修了とする。</p> <p>予約した課題において欠欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。</p>
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	<p>実習を通して適宜紹介する。</p> <p>フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。</p>
履修上の注意	<p>学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策(3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等)を徹底すること。</p>
予習・復習指導	<p>予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。</p> <p>具体的な日程については事前に掲示する。</p>
関連科目	1年次の「社会活動Ⅰ」に引き続きを選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習(1コマ)に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
教員の実務経験	<p>実務教職員が担当</p> <p>担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Ⅱについて包括的に講義することができる。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA204P

講義名	⑬ しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOBUI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<p>将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。</p> <p>この科目は、DP0-1、PD0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>1年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚としごとの意義をいろいろな職業の中からオムニバス形式で幅広く学ぶ。3年次の「しごと論Ⅱ」では、芸術・建築分野の専門的な学びを習得したうえで、オムニバス形式による教員の専門的テーマから具体的なイメージを深く学ぶことにより、将来の就職への方向性を明確にする。専門分野の講師は学内のみならず、他大学（3大学教育研究連携校）の講師も担当している。しごと論ⅠとⅡは合わせて修得することがキャリア形成の育成に繋がるので望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス方式 / 全 15 回</p> <p>第 1 回（竹脇 出）建築分野の成り立ちについて 第 2 回（玉村 嘉章）木工について 第 3 回（宮内 智久）建築とキュレーションについて 第 4 回（三木 表悦）漆芸について 第 5 回（中野 仁人）京都工芸繊維大学連携授業：デザインについて * 第 6 回（渡邊 俊博）ウインドウディスプレイと装飾について 第 7 回（安田 光男）ミラノでの「しごと」について 第 8 回（川尻 潤）陶芸について 第 9 回（井上 年和）歴史的建造物の保存修理について 第 10 回（中井川正道）環境デザインについて 第 11 回（白鳥 洋子）建築デザインのライフ・ワークについて 第 12 回（岡 達也）文化財情報デザインについて 第 13 回（井上 晋一）集合住宅の調査と設計について 第 14 回（津村 健一）美術と造形について 第 15 回（新谷 裕久）防災・安全衛生管理について 総括</p> <p>* 京都工芸繊維大学連携事業に基づく授業</p>
成績評価	<p>受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠等による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。</p>
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法）について復習し、関連用語（作品・作家・技法）についても調べるなど理解を深めておくこと。</p>
関連科目	1年次開講科目である「しごと論Ⅰ」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	<p>実務経験教員が担当 担当教員は、12年間歯科医療に携わり、さらに20年以上労働安全衛生コンサルタントとして、学校の環境安全衛生管理に携わってきた。しごと論Ⅱについては、どんな職業についても関係のある労働安全衛生の観点から包括的に講義することができる。</p>
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-CA305L

講義名	⑭ インターンシップ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する ②社会人として必要な知識やスキルを身につける ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める</p> <p>この科目は、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を体験するカリキュラム。3年次前期の事前学習を通じて業界研究、職業研究を行いながら就業体験を希望する企業、事業所等を見つける。原則として夏季休暇中の5日間（各日8時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンテーションによって振り返りを行う。特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。講義では、電話やメールのマナー、文章の書き方など、社会人として身につけておく必要のある素養を養う。</p>
授業計画 授業内容	<p>■令和5年度の予定</p> <p>①事前学習（1） ガイダンス ②事前学習（2） 業界研究＜1＞ ③事前学習（3） 業界研究＜2＞ ④事前学習（4） マナー教育 ⑤事前学習（5） 実習計画書作成 ⑥実 習 夏季休暇中、原則として5日間の実習スケジュールを実習先と相談のうえ各自が設定 ⑦事後学習（1） 報告書の書き方指導 ⑧事後学習（2） 報告書評価</p> <p>* 予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること</p> <p>■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など</p> <p>* 原則として学生が自ら実習先を開拓する。帰省先等での実習も可。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する</p>
成績評価	事前・事後学習、実習先での学びや行動、実習報告書により総合的に評価する
履修上の注意	<p>・履修したものの実習に行かなかった場合は成績が「不可」となるので注意すること。その場合、後期の履修取り消し期間内に取り消しの手続きができる。特に夏休みに建築士試験対策講座などを受講する者は注意を要する。</p> <p>・コロナの感染拡大以来、インターンシップを受け入れる企業や事業所が減少している。そのため、上記の日数や時間数に満たない場合でも、一定の配慮を行う。</p>
予習・復習指導	インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される。1コマあたり1・5時間の予習・復習が必要。
関連科目	「キャリア支援講座Ⅰ・Ⅱ」の講義を兼ねる。
課題に対するフィードバックの方法	実習先の選定などの相談や質問を随時受け付ける。
教員の実務経験	塾・予備校講師／国会議員秘書（議員会館勤務）／情報誌の編集、新聞の取材・インタビュー・連載企画／外国領事館での国際交流、査証発給業務などを経験。特に新聞社でロータリークラブを担当した際は、企業経営者らのインタビューを通じ、さまざまな業界の実情や経営者の考え方に触れてきた。インターンシップが充実したものになるよう、業界や受け入れ先に関する情報収集をきめ細かくサポートする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA306P

講義名	⑮ 工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOBU 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く工芸全般の意味を理解する。 ・ 工芸に対する広い視野を身につける。 ・ 工芸に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、に該当する。</p>
授業概要	<p>広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。また、近代から現代に至る工芸界の新しい潮流について考察を行ってゆく。産業としての伝統工芸について、業種ごとに成り立ちや技術的・意匠的特色について、また世の中での位置づけなど、概要を認識し理解する。ものづくりの高度な技について、工学的な側面からの理解を深める。伝統工芸品を成立させる構造、意匠、技法、材料などの諸要素と、伝統工芸の産地を取り巻く地理的条件などのさまざまな要素の、密接な関連性について学び、工芸に対し更に認識を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス / 全 15 回</p> <p>第 1～3回 陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める。(横山直範)</p> <p>第 4～7回 物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ。(青木太一)</p> <p>第 8～10回 木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する。(玉村嘉章)</p> <p>第11～14回 伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する。(遠藤公誉)</p> <p>第 15 回 総括 (玉村嘉章)</p> <p>※順番が前後する場合や担当者が変更になる可能性があります。</p>
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』(東京国立近代美術館工芸課編淡交社)
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	<p>配布資料や講義内容から、専門用語(作品・作家・技法など)について復習し、関連用語(作品・作家・技法など)についても調べるなど理解を深めておくこと。</p> <p>1コマに対し4時間の復習をすること。</p>
関連科目	「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	京もの認定工芸士/家具製作一級技能士など陶芸、漆芸、木工、彫刻の各工芸に長年携わってきた講師が工芸の歴史、技法、材料、道具等について概論として分かり易く解説する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-BA101L

講義名	⑩伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。 伝統工芸のあらましを理解するとともに、今日の伝統工芸の立ち位置を把握・理解する。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。																																													
授業概要	本講義では、伝統工芸業界の幅広い分野に触れ、各分野の基礎的な知識を身につけることを目的とする。 日本の伝統工芸は、長い歴史の中で培われた技術や美意識を継承しながらも、時代とともに変化・発展した。そしてその中で様々な課題に直面している。こうした現状を踏まえ、本講義では、伝統工芸の実務経験を豊富に持つ現役の作家や職人による講義を通じて、技法や素材の特性、制作プロセスのみならず、現代の工芸が直面する社会的・経済的な諸問題について学ぶ。また毎回の小レポートによって、主体的に考察する力を養う。																																													
授業計画 授業内容	オムニバス／全15回 <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>古閑 謙太郎</td><td>概論</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>八田 誠二</td><td>友禅・西陣</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>渡邊 晶</td><td>刃物</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>龍村 周</td><td>錦織作家</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>猪飼 祐一</td><td>京焼</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>藤井 収</td><td>漆芸</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>小島 秀介</td><td>桐箱</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>井上 楊彩</td><td>人形</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>石田 正一</td><td>竹工芸</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> </table> <p>※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。詳細については第1回目の概論において説明します。</p>	第1回	古閑 謙太郎	概論	第2回	須藤 拓	截金	第3回	須藤 拓	截金	第4回	八田 誠二	友禅・西陣	第5回	渡邊 晶	刃物	第6回	大菅 直	文化財修理	第7回	大菅 直	文化財修理	第8回	龍村 周	錦織作家	第9回	猪飼 祐一	京焼	第10回	藤井 収	漆芸	第11回	中村 佳之	京こま	第12回	小島 秀介	桐箱	第13回	井上 楊彩	人形	第14回	石田 正一	竹工芸	第15回	中村 佳之	京こま
第1回	古閑 謙太郎	概論																																												
第2回	須藤 拓	截金																																												
第3回	須藤 拓	截金																																												
第4回	八田 誠二	友禅・西陣																																												
第5回	渡邊 晶	刃物																																												
第6回	大菅 直	文化財修理																																												
第7回	大菅 直	文化財修理																																												
第8回	龍村 周	錦織作家																																												
第9回	猪飼 祐一	京焼																																												
第10回	藤井 収	漆芸																																												
第11回	中村 佳之	京こま																																												
第12回	小島 秀介	桐箱																																												
第13回	井上 楊彩	人形																																												
第14回	石田 正一	竹工芸																																												
第15回	中村 佳之	京こま																																												
成績評価	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
教科書	必要に応じて適宜資料を配布																																													
参考書 参考資料	『工芸の見かた・感じかた』（東京国立近代美術館工芸課：編）淡交社 『明日への伝統工芸』（浅見 薫著）財京都伝統工芸産業支援センター その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。																																													
履修上の注意	・内容、スケジュールは変更になることがあります。 ・レポート内容と講義内容に齟齬がみられる場合は、提出されていても欠席の扱いとなります。																																													
予習・復習指導	各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と感じることについて調べる。1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。																																													
関連科目	「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。																																													
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。																																													
教員の実務経験	古閑 謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事してきた経験を活かして、学生に伝授する。 様々な伝統工芸に長年携わってきた講師が伝統工芸の歴史、技法、特徴、業界の現状等について概論として分かり易く解説する。 登壇講師全員、美術工芸作家としての経験あり。																																													
教員の实務経験有無	あり																																													
科目ナンバリング																																														

講義名	⑪ 構成基礎演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>領域・分野の枠を横断する形で、さまざまな素材と技法に接することを通じ、自身の見識を広げものづくりや発信における発想力を養い、展開する力を身につけるための一助にする。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>自身の専攻では触れる機会の少ない素材を扱う中で、デザインやものづくりにおける発想力・構想力を拡張してゆくきっかけとする。主に紙などを使い張り子の仮面(またはかぶり物)を1点以上制作するが、意匠のアイデア抽出や使用する素材の選択と入手方法、原型の制作方法についても自身でまず考え、関連する情報を収集する。中空の立体物として成立可能な構造・形状・十分な強度の確保と、表面の質感・色彩など様々な仕上げ方との兼ね合いを、実際に手を動かして作品を制作する過程で体感し、自身にとっての今後のものづくりに対しての考察を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション (授業について・レクチャー)</p> <p>第2回 ラフスケッチ・試作</p> <p>第3回 ラフスケッチ・試作</p> <p>第4回 進捗確認 デザイン案決定</p> <p>第5回 制作</p> <p>第6回 制作</p> <p>第7回 制作</p> <p>第8回 進捗確認・制作</p> <p>第9回 制作</p> <p>第10回 制作</p> <p>第11回 制作</p> <p>第12回 進捗確認・制作</p> <p>第13回 制作</p> <p>第14回 制作</p> <p>第15回 作品発表・講評</p>
成績評価	評価ポイント：実習態度 (30%)、成果物 (50%)、制作記録ノート (20%)
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	三井秀樹 『形的美とは何か』
履修上の注意	<p>作業においては、担当教員とコミュニケーションをよく取るようにする。</p> <p>予習・復習をすることで自身の選択した材料・技法を深く理解するように努める。</p> <p>自身の経験の振り返りのため、作業工程を記録しポートフォリオを作成する。</p>
予習・復習指導	<p>配布した資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。</p> <p>① 1コマに対し0.5時間の事前学習をすること</p> <p>② 1コマに対し0.5時間の復習をすること</p>
関連科目	立体造形、造形基礎演習ⅠⅡ
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う
教員の実務経験	<p>遠藤公誉 京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員</p> <p>加納奈都 デジタルアート作家(裏柳翠)として活動歴6年</p> <p>構成を実践してきた教員により、その基礎概念および応用方法を実践的に教授する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA103S

講義名	⑩ 日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	「住居」は、人間が生活を送る上で欠かせない存在であるが、日本では縄文時代から現代に至るまで、竪穴式住居から宮殿、寝殿造や書院造など様々な変遷を経て発達してきたことがわかっている。また、住居の発達に伴い、まちなみや集落、都市が形成されてきた。本講義では、日本の伝統的な住居や都市について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 史跡と古墳 第2回 原始的な住居と集落 第3回 都城と宮殿 第4回 寝殿造 第5回 書院造 第6回 城郭 第7回 武家屋敷 第8回 都市と村落 第9回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	クラスルームに教材を添付する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	教材をプリントし毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA104L

講義名	⑱ 色彩学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 東 俊一郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	色彩の基礎知識を基に、体系的かつ理論的に捉えることができる。 色彩の活用方法を理解し、色彩計画を立案・説明できる。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	本講義では、色彩に関する基礎的知識の習得に加え、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、工芸など多様な分野における色彩活用の事例を通じて、色彩デザインの手法を体系的に学びます。 色彩は極めて広範な主題であり、一授業内でその全容を網羅することは困難です。そこで本講義では、色彩に関する知識の習得にとどまらず、観察によって知覚される色の変化に着目し、物理的・心理的側面を含めた色彩を多面的に捉える力を育成します。加えて、実制作の現場で色彩を扱う専門家による講演を通じて、創作活動における実践的な色彩の捉え方や、色彩デザインの新たな可能性についての理解を深めます。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 色彩の基礎-1 (色の表示、混合) 第 3 回 色彩の基礎-2 (色の混合、心理的効果) 第 4 回 色彩の基礎-3 (配色) 第 5 回 色彩の基礎-4 (演習) 第 6 回 色彩演習-1 第 7 回 色彩演習-2 第 8 回 色彩演習-3 第 9 回 色彩の実践事例 (都市) 第 10 回 色彩の実践事例 (建築) 第 11 回 色彩の実践事例 (プロダクトデザイン) 第 12 回 色彩の実践事例 (工芸) 第 13 回 色彩の実践事例 (アート) 第 14 回 色彩検定 第 15 回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、授業毎のレポート (40%)、演習課題の評価 (40%)
教科書	『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』(日本色研事業株式会社) 『PCCS カラートーンサークル』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
教員の實務経験	街並み景観や建築・インテリアにおける色彩研究を行う。色彩を活用した空間設計の実績をもとに、色彩理論の習得および実践を指導する。
教員の實務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-BA105L

講義名	⑩ デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広義のデザインについて理解する。 ・ 近代以降のデザイン動向を認識する。 ・ 今後の社会とデザインの関わりを考える。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>本講義では、「デザイン」という言葉や概念がどのように変遷してきたのかを理解し、語義の変遷、歴史的な展開、現代社会における役割などを多角的に学ぶ。グラフィックやプロダクト、ランドスケープデザインや環境デザインを含む多様な分野を総合的に考察し、特に現代におけるデザインの役割について深く掘り下げ、技術の進歩や社会課題とデザインがどのように関連しているかを探る。デザインが単なる美的要素ではなく、社会と相互に影響し、課題と対峙する手段として活用されていることを理解する。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回 デザインの意味・語源 第3回 デザインの歴史① 第4回 デザインの歴史② 第5回 デザインの歴史③ 第6回 デザインの現在 第7回 デザインと情報・メディア① 第8回 デザインと情報・メディア② 第9回 プロダクト・インテリア・空間デザインの世界 第10回 プロダクトデザイン① 第11回 プロダクトデザイン② 第12回 インテリアデザイン 第13回 シビックデザイン 第14回 ランドスケープデザイン 第15回 景観デザイン</p>
成績評価	各回的小レポート（50%）と期末レポート（50%）を数値化し、総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	<p>『カラー版世界デザイン史』美術出版社、1995年 柏木博『20世紀はどのようにデザインされたか』晶文社、2002年 仙田佳穂『もっと知りたいバウハウス』東京美術、2020年 浦一也『旅はゲストルーム』知恵の森文庫、2004年 川島宙次『民家のデザイン』（日本編）（海外編） 水曜社、2016年</p>
履修上の注意	毎回講義内容の感想を提出して、理解度を確認する。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 講義内容に関連するデザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、理解を深めておくこと。
関連科目	近代デザイン史
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭に前回の感想と質問に回答する。
教員の実務経験	<p>岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、プロダクト、インテリア、ランドスケープ、シビックデザインの歴史、デザインのスタイル、考え方、方法論、社会的役割等について講義する。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	㉑ 日本建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川 晴彦	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>今日まで残る伝統の日本建築に関して、その歴史的・文化的価値を理解するための基礎的な知識を学ぶ。またこうした文化財建造物の維持・保全・修理に関わる基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2及びDP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>伝統建築のうち、とくに社寺建築を中心に「様式」や「形式」の時代的変遷、その「建築的特徴」について遺構、史料に基づき解説する。そのことで伝統的建造物とされる建物のその価値とは何かを解釈するための基礎的な知識を習得することができる。そして伝統建築から日本文化の豊かさを理解することも目指せる。また現行の文化財建造物の保存・修復について、その制度や理念、手法を概説する。そのことで今日までに目にすることのできる伝統的景観がどのように維持・保全されてきたのかその仕組みや社会背景を理解することができる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回の授業計画は次の通りである。</p> <p>第1回 導入～建築史学の様式史観と文化財保存の歴史 第2回 伝統建築の基礎用語と形式概念 第3回 神社建築（1）古代の社殿～伊勢・出雲・住吉～ 第4回 神社建築（2）中世の社殿 第5回 寺院建築（1）仏教建築の伝来～飛鳥時代の建築～ 第6回 寺院建築（2）和様の誕生～奈良時代の建築～ 第7回 寺院建築（3）国風化の進展～平安時代の建築～ 第8回 寺院建築（4）中世の新しい様式 第9回 寺院建築（5）中世の新しい仏堂 第10回 社寺建築（1）安土桃山時代の優美な建築 第11回 社寺建築（2）江戸時代の多様な建築 第12回 生産過程からみた建築史～大工・木材・資源～ 第13回 造形・細部意匠からみた美意識の建築史～木割・絵様・彫刻～ 第14回 近代の日本建築 第15回 歴史的建造物の保存と修理技術</p> <p>第1回では「日本建築史」の導入として建築史の歴史がどのように始まり現在に至るのかを概説する。また建築史の発見が「文化財保存」の制度と密接に関わり現在までに至っていることが説明される。</p> <p>第2回では伝統建築を理解するための基礎的な用語、概念を解説する。</p> <p>この基礎知識をもとに第3回から第11回までわたって神社建築、寺院建築のそれぞれを古代→中世→近世と時代順に解説してゆく。こうして時代ごとの「様式」「形式」の変遷の理解を目指す。</p> <p>第12回以降では発展的に視点を変えて、大工職人や資源の観点から建築史を解説したり、細部意匠や美意識の観点からみた建築史としての通史的解説を試みる。観点を定めることで日本建築史の理解が深まる授業構成としている。</p> <p>そして近代化以降の和風建築の歴史、現行の文化財建造物の保存制度や修理技術などを概説する。</p>
成績評価	授業への参加度（10%）業中のクイズ（20%）および定期試験の結果（70%）により評価を行う。
教科書	授業資料をオンラインで配布する。
参考書 参考資料	<p>主要参考書としては次を挙げる。</p> <p>日本建築学会『日本建築史図集』彰国社（解説：日本の歴史的建造物の図版集として） 近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版（解説：日本建築の細部名称に詳しい解説書として）</p>
履修上の注意	配布資料を閲覧できるようにPCほかタブレットなどを持参すること。必要なメモをとれるようにすること。
予習・復習指導	1コマに対して4時間の復習をすること。
関連科目	日本住居史ほか伝統建築に関わる科目
課題に対するフィードバックの方法	授業中のクイズは次回以降の授業中に、期末試験に対する解説はクラスルームにより行う。
教員の実務経験	主に曹洞宗大本山總持寺（神奈川横浜）および總持寺祖院（石川能登）の境内における諸殿堂の保存修理工事に関わった。文化財建造物修理の工事監理や修理工事報告書執筆の経験を活かし、構造・技法・様式等の観点から専門的な社寺建造物の解説を行う。
教員の実務経験有無	有

講義名	㉔ コンピュータデザイン演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	グラフィックソフトAdobe Illustrator、Adobe Photoshop、それぞれのアプリケーションの特徴やグラフィックデザインの意義の理解を深め、独自のビジョンを形にするための技術を取得すること。また、AI生成に関する知識を深め、AI生成技術を正しく利用したデータ活用方法を習得することを目的とする。
授業概要	この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。 情報基礎演習で学んだIllustrator、Photoshopを活用し、色々なテーマに沿った課題をこなしながらそれぞれのソフトの特徴を深く知る。まずは、Illustratorを使っての模写。この工程により日常目にしているデザインについて考えると同時にIllustratorのたくさんの機能に触れることができる。徐々に使い方が構成力がつく。Photoshopでは、画像編集に便利な機能を学び、デジタルカラーに挑戦することで、現実ではあり得ないような画像表現が出来るようになる。また、進化を続けるAI生成の特性を理解した上で、どのように利用することが有効なのかを考えながら活用方法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 1回/2コマ 第1回 【オリエンテーション】アプリケーションの基本操作 第2回 【生成AI】AIの活用について。AI生成機能を使ったポスター制作 第3回 【Illustrator応用①】模写からデザインツールを学ぶ 第4回 【Illustrator応用②】模写からデザイン構成や要素を学ぶ 第5回 【Illustrator応用③】名前のロゴ化 第6回 【Illustrator応用④】取り扱い説明書 第7回 【Illustrator応用⑤】取り扱い説明書 第8回 【Photoshop応用①】色の調整方法 第9回 【Photoshop応用②】画像の加工方法 第10回 【Photoshop応用③】画像の編集方法 第11回 【Photoshop応用④】デジタルカラー 第12回 【最終課題】架空のクライアントを想定した〇〇 第13回 最終課題 制作日 第14回 最終課題制作日、提出日 第15回 合評会 ※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。
成績評価	・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% 以上を総合して評価する。
教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	『なるほどデザイン』 筒井 美希（著）エムディエヌコーポレーション 『けっきょく、よはく。』 ingectar-e（著）ソシム 『ほんとに、フォント。』 ingectar-e（著）ソシム ※授業では使用しない。
履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 ソフトのインストールは受講前に済ませておくこと。 設定時に必要なID、パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。 ※本授業の履修条件として 「情報基礎演習」を履修済み、もしくはIllustrator、Photoshopの基本操作が出来る者とする。
予習・復習指導	PCアプリケーションの操作方法は、授業で習うことよりも、自分で作りたいものを作る最善の方法を常に考えたり調べたりの方が身に付く。触らなければ忘れてしまうので出来る限り活用すること。 ・1コマに対し、0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて作品作りやコンペなどに活用すること。 ・日頃から目に入ってきた気になる広告は写真に撮るなどし、まとめておくこと。 ・課題で作成した制作物はしっかりと整理し、まとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」 「メディアリテラシー」 「芸術導入実習」 「工芸・デザイン基礎実習I」
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内にて適宜対応する。 課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。
教員の実務経験	木村奈保：印刷会社に写真製版、レタッチャー、広告デザイナーとして6年半勤務。 加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 Illustratorを使用したデジタル表現の作家活動でのノウハウと、DTPやレタッチの技術や知識と経験を活かし、Illustrator、Photoshopを使用した編集技術と表現方法を幅広く学び、「想いをかたちにする」ための演習を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	②③ 近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>① 現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。</p> <p>② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。</p> <p>本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。近代化過程の内容を理解するには、建築の歴史を単なる様式史として捉えずに、建築の生産の技術（計画・設計・施工等）を様々な面（思想、価値観、社会制度等）から捉えることが重要である。また、各国・地域の様々な試みを捉えることも同様に重要である。上記の視点から、代表的な建築家とその作品の紹介（図面・写真等）をふまえながら、近代の始まりから現代に至るまでの流れを解説する。講義は、大きく4つ（プレ・モダニズム、モダニズム、ポスト・モダニズム、そして日本の近現代建築）に分けて解説していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス / プレ・モダニズム（1）工業化時代の建築と技術 2. プレ・モダニズム（2）近代建築における伝統性と近代性 3. プレ・モダニズム（3）世紀末ヨーロッパの建築 4. モダニズム（1）建築のアヴァンギャルド 5. モダニズム（2）大量生産社会の建築 6. モダニズム（3）アメリカにおける近代建築 7. モダニズム（4）近代を代表する建築家1 8. モダニズム（5）近代を代表する建築家2 9. モダニズム（6）近代建築の成立と成熟 10. モダニズム（7）近代建築のひろがりと変容 11. ポスト・モダニズム（1）近代建築への懐疑と超克 12. ポスト・モダニズム（2）建築のポスト・モダン／21世紀の建築 13. 日本の近現代建築（1） 14. 日本の近現代建築（2） 15. 日本の近現代建築（3） <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	定期テスト（60%）及び小レポート（40%）により総合的に評価する。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書 参考資料	鈴木博之著『近代建築史』、中谷礼仁著『実況 近代建築史講義』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>予習：教科書の熟読。</p> <p>復習：講義内容の整理、また興味を持った内容について書籍等で理解を深めること。</p>
関連科目	「日本住居史」「日本建築史」「世界建築史」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。 その経験を生かし本授業では、建築設計・意匠的視点から代表的な建築作品や歴史の流れを解説する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA205L、AATDE203L

講義名	⑭ デザイン作図演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
非常勤講師	藤巻 佐有梨	KYOB I 芸術学部

到達目標	ものづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達ツールの獲得を目指す。この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 透視図法の基礎的原理を学習し、3次元の空間を2次元の平面上に表現する手法を理解する。 線による描画手法の演習を通して、建築物の外観・内観に加え、人物、樹木などをスケッチとして描く手法を身につける。 都市や建築や室内、エレメントまでを対象として、様々な表現への理解と手法について演習を行う。 建築物を対象とし、プロポーション、ディテール、素材などについて観察して読み取る目を養う。 手描きによるスケッチを素材としてデータ加工する手法の演習を行い活用できるようにする。 これまでの作品のポートフォリオや名刺を制作し実際の就職活動にも利用できるスキルを習得する。
授業計画 授業内容	全15回/1回2コマ 第1回：オリエンテーション、線の練習、線による描写演習導入 第2回：透視図法の基礎（1）：一点透視図法、スケッチ演習 第3回：透視図法の基礎（2）：二点透視図法、スケッチ演習 第4回：表現手法演習（1）：線による描写演習、外観スケッチ 第5回：表現手法演習（2）：線による描写演習、外観スケッチ、ディテール 第6回：表現手法演習（3）：線による描写演習、インテリア透視図基礎1 第7回：表現手法演習（4）：線による描写演習、インテリア透視図基礎2、外観スケッチ 第8回：空間表現演習（1）：ディテールスケッチ 様々な表現 第9回：空間表現演習（2）：外観スケッチ 町家外観・内観 第10回：空間表現演習（3）：町並みスケッチ 第11回：複合表現演習：都市景観、世界遺産 第12回：プレゼンテーション（1）：ためになる画像データ表現1 第13回：プレゼンテーション（2）：ためになる画像データ表現2 第14回：プレゼンテーション（3）：ポートフォリオ作成 第15回：プレゼンテーション（4）：ポートフォリオ発表、名刺デザイン 総括
成績評価	受講態度（30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 川北英 初学者の建築講座『建築家が使うスケッチ手法』—自己表現・実現のためのスケッチ戦略— 市ヶ谷出版 フランシスD.K. チン『建築ドローイングの技法』彰国社
参考書 参考資料	授業開始時に掲示または配付される資料（クラスルームまたは紙）を参考にする。
履修上の注意	鉛筆（2B）、消しゴム、練消し、カッター、および初回に配布するスケッチブックを毎回持参すること。PCを持参（クラスルームに課題掲示）すること。
予習・復習指導	1回の演習（1コマ）に対して2時間の予習復習をすること。任意の建築物や、関連科目において自らが設計した作品などを対象として、各自でスケッチの練習を行うこと。教科書『建築ドローイングの技法』の第1～3章を読んでおくこと。また、『建築家が使うスケッチ手法』Chapter 1～2を読み、鉛筆で線の練習をしておくこと。授業後には、各回授業の内容に関連する教科書ページについて読んでおくこと。
関連科目	建築設計基礎演習Ⅱ、建築設計演習Ⅰ・ⅡA・ⅡB、建築デザイン演習Ⅲ、卒業制作
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとにその日書いたスケッチ・作図（学生・教員）を見ながら講評を行う。最終回には、作成したポートフォリオに対して全体での講評を行う。
教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務及び設計教育の経験豊富かつドローイング能力を有する教員による演習指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA206S

講義名	②5 I T活用応用演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	K Y O B I 芸術学部
講師	加納 奈都	K Y O B I 芸術学部
講師	杉山 英知	K Y O B I 芸術学部

到達目標	<p>①Adobeのモーショングラフィックスやビジュアルエフェクトが作成できるafter effectsと動画編集に特化したPremierProの基礎的な操作方法、動画作成方法、編集方法を習得することを目標とする。</p> <p>②3DCGソフトMayaの使い方を習得し、Mayaを使って自分のイメージする形をモデリングできるようになる。さらにそれらのモデルを使ってアニメーションを作れるようになる。</p> <p>③インテリア・建築の表現方法の一つであるCADソフトの使い方を学ぶ。身近にあるインテリア作品、建築作品をCADを使いトレースすることで、基本的な操作方法の習得を目標とする。</p> <p>この科目は、DPI-1、DPI-2、DPI-4に該当する。</p>
授業概要	<p>①AfterEffectの基本的な操作方法の習得に向けて毎回簡単な練習素材を用いながら色々な機能を身につけていく。また作成した映像とPremiere Proとの連携方法の習得を目指す。映像の加工やモーショングラフィックスを使用し、視覚的な要素を駆使して情報やストーリーを伝える手法を学び、映像を通じて効果的なコミュニケーションを実現していく。</p> <p>②3DCGソフトMayaの使い方を学び、3DCGのモデリングとアニメーションの技術を習得する。ポリゴンモデリング、質感設定、照明、レンダリング（最終画像生成）、アニメーションを学ぶ。3DCGの表現を学ぶことで広く造形センスの向上を目指す。3DCGの技術習得そのものを目的にしてもよいし、3DCGをツールとして使い自身の専門分野の造形表現を目指してもよい。</p> <p>③CADソフトの使い方を習得するために、身近にある家具の作図から始め、インテリア空間の作図、建築作品のトレースと少しずつスケール感を変えた作図を行っていく。手書きの図面と同じように、さまざまなスケール感を体験することでCADソフトのメリットとデメリットを把握し、操作方法の習得へと繋げる。同時に、PCを使ったデータのやり取りなど、実社会で行われているデータ管理に関する基礎知識も習得していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回/1回2コマ</p> <p>※この授業は下記①②③の3つのクラスの中から1つ選択し、その選んだクラスの授業を15回受講する。 (途中からのクラス変更はナシ)</p> <p>①AfterEffectクラス 第1回 【オリエンテーション】 AfterEffectとPremiere Proインストール 第2回 【AfterEffect基礎知識①】 便利ツールのインストール、名前アニメーション 第3回 【AfterEffect基礎知識②】 エフェクト使ってみよう 第4回 【AfterEffect基本操作①】 シェイプアニメーション 第5回 【AfterEffect基本操作②】 オリジナルイラストでアニメーション 第6回 【AfterEffect基本操作③】 モーショングラフィックスを学ぶ 第7回 【AfterEffect基本操作④】 3Dカメラを使ってみよう 第8回 【AfterEffect基本操作⑤】 まとめ（ここまでの復習） 第9回 【AfterEffect基本操作⑥】 Premiere Proとの連携 第10回 【AfterEffect基本操作⑦】 2D写真を3Dへ 第11回 【AfterEffect基本操作⑧】 最終課題テーマ発表 アイデア出し 第12回 【AfterEffect応用】 最終課題素材集め 第13回 【AfterEffect応用】 最終課題制作日 第14回 【AfterEffect応用】 最終課題制作、提出日 第15回 【合評会】</p> <p>②MAYAクラス 1. 3DCG概説、Maya基本 2. ポリゴンモデリング基本1 3. ポリゴンモデリング基本2 4. ポリゴンモデリング 実習1 コロ助を作る 5. ポリゴンモデリング 実習2 ボケモンを作る 6. ポリゴンモデリング 実習3 コーヒーカップ、部屋を作る 7. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 1 8. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 2 9. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 3 10. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 4 11. 質感設定、照明、レンダリング 12. アニメーション基本 13. アニメーション バウンドするボール 14. アニメーション キャラクターアニメーション1 15. アニメーション キャラクターアニメーション2</p> <p>③CADクラス #1 : CADの概要説明、設定について、課題1「家具の作図（手書き S=1/5）」 #2 : 課題1「家具の作図（CAD S=1/5）」* #3 : 課題2「自分の部屋の作図（手書き+CAD S=1/30）」 #4 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・平面図 S=1/30）」 #5 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・展開図 S=1/30）」 #6 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・展開図 S=1/30）」* #7 : 課題3「住宅作品の解説」 #8 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S=1/100）」 #9 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S=1/100）」 #10 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S=1/100）」</p> <p>※①～③全てのクラスにおいて理解状況に応じて、適宜内容や順番を調整、変更する場合があります。</p>

成績評価	①AfterEffectクラス：学習状況、授業態度30%（出欠を含む）、課題提出70%で成績評価を行う。 ②MAYAクラス：学習状況、授業態度30%、課題提出70%で成績評価を行う。 ③CADクラス：毎回の講義後に提出する途中経過の状況（50%）課題の提出状況（50%）
教科書	①AfterEffectクラス：毎回必要に応じて資料をデータ配布。 ②MAYAクラス：毎回必要に応じて資料をデータ配布。 ③CADクラス：ベクターワークスパーフェクトバイブル 2023/2022対応 ※購入は任意。必要な資料は適宜配布。
参考書 参考資料	①AfterEffectクラス：図解できちんと理解するAfter Effects モーショングラフィックスパーフェクトガイド 石坂アツシ（著）、山下大輔（著）ラトルズ ②MAYAクラス：Autodesk Maya トレーニングブック 第4版 出版社：ポーンデジタル ③CADクラス：住宅巡礼（中村好文）、住宅巡礼ふたたび（中村好文）など
履修上の注意	履修上の注意 ①AfterEffectクラス ・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・わからないことはメモをとり、必ず調べておくこと。 ・作成したデータは毎回必ずまとめておくこと。 ②MAYAクラス ・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・作成したデータは毎回必ずまとめておくこと。 ③CADクラス 手書き及びPCを使った実習を行います。筆記用具、スケッチブック、PCを持参すること。また、CADソフトは指定のソフトをPCにインストールしてから講義に臨むこと。
予習・復習指導	①AfterEffectクラス ・1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 ・目に止まった映像作品などがあつたら参考にし、どう作られているのかを考えてみること。 ②MAYAクラス ・1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 ・気になる映像作品やモデリングに対しよく観察することを心がけること。 ③CADクラス 1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 事前学習：事前に指示するテキスト該当部分の操作を試し、不明点を明確にしておく。 復習：講義で行った作業を反復することで、操作方法を習得しておく。
関連科目	「デザイン作図演習」「専門実習Ⅰ」「専門実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	①AfterEffectクラス：授業内で適宜対応する。また必要に応じてクラスルームにてコメントする。 ②MAYAクラス：授業内で適宜対応する。 ③CADクラス：講義ごとにまとめと質疑応答を行う。また、課題ごとに講評・質疑応答等を行う
教員の実務経験	木村奈保：印刷会社に写真製版、レタッチャー、広告デザイナーとして6年半勤務。 加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰11年、資格学校講師歴12年 その実務経験よりCADソフトによる設計図面の書き方や表現方法、MAYAによる家具や照明のモデリング、AfterEffectによる動画を用いたプレゼン方法を指導していく。実務レベルで求められる技術の基本を学ぶことで、今後の講義における表現方法の幅を広げることを目的とする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	㊼ 建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 根来 宏典	KYOB I 建築学部

到達目標	建築物の設計に必要となる材料選定の基本を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	古来、素材を活かした建築手法が伝統的に継承されてきた。それら技術の発達によって新しい建築表現へと繋がっている。建築は言うまでもなく素材や材料を組み合わせられてつくられる。設計図を描くうえで、材料のことを知らずして、リアリティのある設計は行えない。デザイン、構造、施工、環境といった建築のすべての分野と強く関連しているのが建築材料である。材料の歴史、特徴、性質、種類、使い方への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学んでいく。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義① 第3回 木材についての講義② 第4回 木質材料についての講義 第5回 植物材料についての講義 第6回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第7回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第8回 コンクリートについての講義 第9回 セメント・コンクリートについての講義 第10回 石についての講義 第11回 土・漆喰・石膏についての講義 第12回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第13回 ガラス、プラスチックについての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験	建築家としてアトリエ系設計事務所を構えて21年の教員が担当する。素材の探求を通じて、職人文化と現代の暮らしを紡ぐ建築のあり方を追求しており、その実務経験を活かしたリアリティのある教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA211L

講義名	⑦ インテリア設計		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 建築学部
	加藤 信喜	
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	主にインテリアデザインに必要な作図を修得する。 ・三面図および天井伏図、透視図等 ・創作作図による計画力およびプレゼンテーション力を身につける。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	インテリアデザインは空間の用途（ライフスタイル・目的行為等）を条件に設計を行う行為である。企画立案、設計与件設定、図面制作、透視図制作、プレゼンテーション等までの一連のデザイン行為を順番に指導する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 第2回 作画基礎（添景・1点透視図） 第3回 作画基礎（家具・2点透視図） 第4回 作画基礎（2点透視図） 第5回 作画展開（1点透視図） 第6回 インテリア課題提示、エスキスの作成 第7回 インテリア平面図の作成 第8回 インテリア平面図の作成 第9回 インテリア透視図の作成 第10回 インテリア透視図の作成 第11回 インテリアスケッチの作成 第12回 インテリア課題提示、事例調査、企画立案 第13回 コンセプト作成、図面作成 第14回 図面作成、プレゼンテーション準備作業 第15回 講評会
成績評価	授業態度（40%）課題作品、プレゼンテーション（60%）として評価する。
教科書	適宜資料配布を行う。
参考書 参考資料	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	課題作品の提出期限を厳守する。 インテリアプランナー合格者の実務試験免除科目に該当する。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	デザイン作図演習
課題に対するフィードバックの方法	授業内のチェック及び課題後の講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	国内外での商業店舗・展示空間設計の実績をもとにインテリア設計を指導する。
教員の实務経験有無	あり
科目ナンバリング	

講義名	㊸ 都市空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBUI 芸術学部

到達目標	都市空間のほとんどが日本固有の風土や文化、テクノロジーや社会体制等の影響下に形成されていることを理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本における都市空間の生成において、特に集住のライフスタイル、争い、災害、自然環境との関係による空間形成の構造や形態、交通手段、新しいライフスタイル等の影響等、多岐にわたる都市形成の要因を理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス（都市空間の意義、役割） 第2回 都市空間概念の誕生 第3回 都市空間の生成その1（地形） 第4回 都市空間の生成その2（縄文集落） 第5回 都市空間の生成その3（まちの発生） 第6回 都市空間の防御（争い） 第7回 都市空間の防御（社会形成） 第8回 都市空間の防御（水害） 第9回 都市空間の防御（地震） 第10回 ネットワークと都市空間（道路/鉄道） 第11回 ネットワークと都市空間（交通） 第12回 自然環境と都市の関係（農地、里山、自然地） 第13回 自然環境と都市の関係（公園） 第14回 自然環境と都市の関係（庭園） 第15回 総括/レポート
成績評価	受講態度30%、レポート70%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	『風土』和辻哲郎 『作庭記』 田村剛 『日本建築史図録』
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭に置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	「建築概論」「社寺建築論」「景観デザイン論」など
関連科目	「日本住居史」「社寺建築論」など
課題に対するフィードバックの方法	最終レポートのフィードバックによる。
教員の実務経験	デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、集落から都市までの空間形成の変遷、空間認識と空間設計の関係等について講義を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA321L

講義名	㊹ 伝統構造学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	伝統構造とは、日本で古来から受け継がれてきた社寺や古民家などの建築構造を主に示す。しかし、近年では海外から伝わった煉瓦造や鉄筋コンクリート構造、鉄骨造なども歴史的建造物として文化財となるものが増加してきた。 本講義では、伝統的な木造建築を中心に、その他の建築種別についても、基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を全般的に理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 歴史的建造物の地震被害 第2回 耐震対策の歴史 第3回 伝統工法と在来工法 第4回 基礎の工法 第5回 伝統木造の工法(1) 床組 第6回 伝統木造の工法(2) 軸組 第7回 伝統木造の工法(3) 小屋組 第8回 伝統木造の工法(4) 軒廻り、妻飾り 第9回 伝統木造の工法(5) 雑作 第10回 屋根の工法 第11回 壁の工法 第12回 木造以外の歴史的建造物 第13回 伝統工法の耐震技術 第14回 伝統工法の構造設計 第15回 在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	教材をクラスルームにアップする。
参考書 参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	構法計画Ⅰ・Ⅱ、日本住居史、日本建築史
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物、歴史的建造物の設計監理 歴史的建造物の修復に携わった経験が豊富であることから、現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法に精通している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA322L

講義名	◎ 造形材料論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>素材とは何か？日常目にする造形は何でできているのか？身近なものから理解を深め、普段我々がしている「モノ」たちを素材という観点から考察できるよう知識を深めていく。素材の扱い方、素材の魅力、素材の表現方法を成形された造形から読み取る力をつけていく。実践を通して扱ってきたデザイナーによる素材の扱い方を作品を通し、考え方と共に学んでいく。</p> <p>前半では、プロダクトにおける素材とは何か？演習も交えた内容で素材と触れ合いながら学ぶ。後半は、デジタル社会における素材とは何かを共に考え、インタラクティブの世界を見ながらデジタル素材について学んでいく。</p> <p>ディプロマポリシー：DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>前半1～10週目は、遠藤による素材についてのディスカッション。 後半11～15週目は、渡邊によるデジタル素材についてのディスカッション。</p> <p>前半では工芸や近現代の産業における様々なものづくりにおいて、手仕事や機械製造の現場において使用される各種素材について解説する。原料が流通・加工され材料の状態になり、更にどのような経緯を通じて我々の手元に届くのか、またどのような分野での活用がなされているかを概観する。</p> <p>後半の授業では、デジタル上の素材について解説を行っていく。今やインタラクティブの世界は身近な存在になり、当たり前のように接している現状がある。またIT0 (Internet of things) は家電から移動手段、買い物からコミュニケーション手段まで様々な状況下において浸透している。現在の状況はどのような構造で我々の生活に入り込んでいるのかを最新の状況を踏まえて解説を行っていく。</p> <p>授業計画による昨年事例と一部異なる場合があります。 本年度授業まえの最新情報を優先していきます。</p>
授業計画 授業内容	<p>1～10週 素材論(遠藤公誉)</p> <p>1週目：手漉き和紙について 2週目：現代製紙産業による紙素材について 3週目：漆の加飾素材について①貝 4週目：漆の加飾素材について②金属箔粉 5週目：木と竹について① 6週目：木と竹について② 7週目：金属について①鉄と銅 8週目：金属について②銅とその他のベースメタル 9週目：石油と合成樹脂について① 10週目：石油と合成樹脂について②</p> <p>11～15週 デジタル世界における材料論(渡邊俊博)</p> <p>11週目：インタラクティブの世界1 12週目：インタラクティブの世界2 13週目：インタラクティブの世界3 14週目：デジタル素材を使ったGIFアニメーション作り 15週目：GIF課題発表</p>
成績評価	<p>トータル出席数 1～10週目の総合評価（毎回課される小レポートの平均点） 14週で作ったアニメーション評価 上記の総合評価により成績を評価する。</p>
教科書	必要に応じてクラスルーム内でインフォメーションする。
参考書 参考資料	必要に応じて告知、配布する。
履修上の注意	授業中のゲーム、Youtube鑑賞、睡眠、会話など授業の妨げを行った場合は、単位を取消とする。提出物の期限厳守、遅延による提出は認めない。
予習・復習指導	1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 授業内容を理解し頭に入れることが重要と考える
関連科目	造形芸術論
課題に対するフィードバックの方法	特になし
教員の実務経験	渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員 講義の中で紹介する様々な素材や造形の知識に基づいて講義を行っている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE307L

講義名	⑨ 立体造形 (工芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	立体造形は、素材の性質や構造、接合部の強度などの制約を受ける。それらを理解した上で、芸術的価値やデザインの価値を有する造形表現を思考し実行する力、「工芸力」を身につける。 この科目は DP0-1、DP0-2 DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	立体物を創造する場合の考え方の一例として、線・面の構成で考えることが出来る。つまり1次元2次元の造形の良し悪しが3次元の立体の成果につながる。加えて重力、環境などの影響を考慮するという複雑な思考と判断力が必要となる。 昨今では様々な形でコンピューターを活用した造形機器が社会に浸透しており、手わざの必要なく造形できるようになりつつあるが、根源的には自身の手や指先を含む人が作るという行為なしにはモノづくりは成立しない。 便利な機器も、作り出すのは機械ではなく人の手が生み出してきた。素材に触る。技を学ぶ。修練する。削る。もっと良い方法がないか考える。また削る。工芸においても社会においても大切なリズムである。 本科目では素材として「竹」などを活用して各自で調査、調達、修練を大きな要素としながら造形に取り組み、素材の違い、特徴などの理解を深め価値ある造形物への思考力表現力など工芸に必要な力を養う。また、場合によって複数メンバーで課題に取り組む場合もある。
授業計画 授業内容	全15回/週1回 第1回 オリエンテーション 授業概要説明 第2回 編み体験 第3回 基礎素材作成 (竹ひご作り体験) 第4回 制作プラン相談1 第5回 制作プラン相談2 (確定回) 第6回 素材調達及び作成相談 第7回 素材調達及び作成相談2 第8回 作品制作 実制作1 第9回 作品制作 実制作2 第10回 作品制作 実制作3 第11回 作品制作 実制作4 第12回 作品制作 実制作5 第13回 作品制作 実制作6 第14回 作品制作 作品撮影 第15回 提出・講評会
成績評価	授業態度 (レポート含む) 20%、提出物の完成度60%、作品プレゼンテーション20%の総合評価。授業ごとのレポート提出の方法・様式は授業初日に説明する。
教科書	なし
参考書 参考資料	「竹のあかり 近藤昭作の仕事」里文出版 「かごと器を編む 竹細工 上達のポイント」メイツ出版 「やさしく編む 竹細工入門」出版者日貿出版社 「図説竹工入門 竹製品の見方から製作へ」共立出版 「かご編みの技法大全 編む・かがる・組む・巻く・結ぶ、編み方の技法を網羅した決定版」誠文堂新光社 「茶席の籠 「ひご」づくりからはじめよう 茶の湯手づくりbook」淡文社
履修上の注意	演習として必要な、材料 (竹材) ・道具 (竹の加工用の刃物 (鉋・小刀等)) などの最低限の道具は各自購入等で入手、手入れしてもらいます。初回授業時に説明。 刃物を扱う作業なので、怪我などの事故について一定の危険がある。 授業内での注意事項やルールが守れない場合は講師の判断で履修を継続できない場合がある。 ①授業時間は作業時間ではなく課題作品の作業段階での意見交換や答え合わせの場として活用する。 材料の作成、プランの検討、図面の作成提出など期限を守り、十分な時間をかけて授業に臨む。 ②自らが取り組む技法、素材について授業前・後に参考書等から関連する知識を ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む
予習・復習指導	1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 竹の加工には刃物を活用するので、刃物を十分に手入れして自らの作業に支障が生まれないように準備する。 授業内で十分な理解が出来なかったことは、必ず調べる。 必要に応じて疑問点を授業の中で共有し、解決策を探るように努める。
関連科目	芸術導入実習、伝統工芸概論、造形基礎演習Ⅰ、造形基礎演習Ⅱ、造形芸術論
課題に対するフィードバックの方法	各授業ごとにレポート提出で、必要に応じて質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の実務経験	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓業工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合、日本煎茶工芸協会理事 漆工芸作家として様々な伝統技法や素材を活用し、工芸を志す学生に特に重要な可能性を見出し、作品制作に活用している素材の1つ竹を使用して、入手が容易であり、大規模な機器を使用することなく加工を行うことができる素材を使用して、工芸授業を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE308S

講義名	㉔ 近代デザイン史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部

到達目標	近代日本における美術、工芸とデザインの動向を学び、現代に続くものとして考え、研究・制作に活用できるようになること。 この科目は、DP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	本講義は、おもに近代における日本国内のデザインに関する動向を対象とする。こんにちの日本におけるデザインを把握するうえで必要となる、近代になって成立した「デザイン」とそれに関連する「美術」「工芸」などの概念の成立と展開について解説する。また、明治以降に開催された国内外のおもな博覧会および展覧会、美術・図案・デザインに関する団体、教育機関、作品や作家・デザイナーなどの具体的な事例を紹介する。それらを踏まえ、相互関係を整理し、現代まで続く美術、工芸とデザインについて理解する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 美術・工芸概念の成立① 第3回 美術・工芸概念の成立② 第4回 美術・工芸概念の成立③ 第5回 万博と海外のデザイン 第6回 「美術」「工芸」と教育 ① 第7回 「美術」「工芸」と教育 ② 第8回 「美術」「工芸」と教育③ 第9回 図案家と図案団体 第10回 図案集というメディア 第11回 官展と工芸 第12回 都市化と工芸・デザイン 第13回 商業美術と戦前のグラフィックデザイン 第14回 デザイン以降の工芸 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	・竹原あき子／森山明子 監修『カラー版 日本デザイン史』美術出版社、2003年 ・森仁史『シリーズ近代美術のゆくえ 日本〈工芸〉の近代 シリーズ近代美術のゆくえ』吉川弘文館、2009年 ・並木誠士 編集『京都近代美術工芸のネットワーク』思文閣出版、2017年
履修上の注意	参考文献等で展覧会、作品、作家などの相互関係を理解しておくこと。
予習・復習指導	・1コマに対して、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・講義内で配布する資料を読み、各回のトピックについて理解すること。前後の流れを把握しておくこと。
関連科目	デザイン概論
課題に対するフィードバックの方法	出席確認時の質問に対して次回以降、講義内もしくはクラスルームで回答する。
教員の実務経験	デザイン制作会社におけるデザイナーとしての経歴、京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	㊸ 室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から総括的にインテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等について解説する。また現代の話題による日常生活とインテリアデザインとの関連性や考察を通じ、実践的でわかりやすい制作活動のヒントとなるトピックを提供する。また豊富な経験を通じたインテリアデザインの仕事や作家についてなど、インテリアデザインの最前線を紹介する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第2回 インテリア空間 第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第4回 インテリアスタイル 第5回 家具デザイン 第6回 ウインドトリートメント 第7回 ライティングデザイン、 第8回 インテリア設備 第9回 マテリアルコーディネート 第10回 カラーコーディネート 第11回 エルゴノミクス（人間工学） 第12回 室内環境 第13回 インテリア計画と発想 第14回 ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザイン 第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート</p>
成績評価	<p>評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（30%）、修得確認のためのファイナルレポート＜必須＞（30%）によって評価する。</p>
教科書	<p>図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子</p>
参考書 参考資料	<p>授業中に適宜紹介し、配付または掲示（クラスルーム）を行う。</p>
履修上の注意	<p>室内意匠・生活文化・環境技術・人間工学などデザインと技術の両側面から、日常での幅広い興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。</p>
予習・復習指導	<p>1回の講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。教科書の該当する章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。</p>
関連科目	<p>「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「造形材料論」「建築材料」「デザイン作図演習」「インテリア設計」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回のミニレポート課題、クラスルーム、メールにより質疑応答を行う。</p>
教員の実務経験	<p>一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による、実践を踏まえた解説による講義を行う。</p>
教員の实務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>COM-DE312L</p>

講義名	④ 公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>デザインを単に造形や機能性の観点から捉えるのではなく、広義にわたる意義や役割について深く考察する。公共物に限らず、芸術作品、自然環境、社会、都市空間など、あらゆる領域におけるデザインの影響を理解し、国内外の事例を通じてデザインがもたらす価値や問題点を検討する。さらに、デザイナー・芸術家・建築家として、自ら問題意識を持ち、課題を設定し、解決に導く能力を養うとともに、デザインを通じた人生観の形成を目指す。</p> <p>主な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワードを理解する 2. キーワードについて自ら考察する 3. 自分のキャリアや人生に反映する <p>本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>公共物や公共空間が果たす社会的役割および文化的価値について深く掘り下げ、そのデザインがどのように社会へ影響を与えるのかを考察する。芸術、建築や都市計画、環境デザインの視点を変えながら、国内外の具体的な事例を通じて学ぶ。また、デザインが歴史的・社会的文脈の中でどのように形成され、変容してきたのかを分析し、受講生が自身の視点を持って批評できるようにすることを目的とする。</p> <p>授業で行うこと：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前の準備：思考の深化（各週） 2. 講義：キーワードと概念の理解（各週） 3. アウトプット：アンケート方式による意見共有（各週） 4. レポート提出：学期末に1回
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 人生のデザイン 第2回 発想のデザイン 第3回 思考のデザイン 第4回 プロセスのデザイン 第5回 見せ方のデザイン 第6回 認知のデザイン 第7回 記憶のデザイン 第8回 夢のデザイン 第9回 見せ方のデザイン 第10回 体験のデザイン 第11回 公のデザイン 第12回 景観のデザイン 第13回 再生のデザイン 第14回 循環のデザイン 第15回 生き延びるためのデザイン <p>*学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>授業態度（出欠）75% → 出席課題 15回×5点 レポート 25%（合計1回）</p>
教科書	<p>配布資料、映像等</p>
参考書 参考資料	<p>「LIFE SHIFT100年時代の人生戦略」アンドリュー スコット、他 「カミング・バック・トゥ・ライフ」ジョアンナ・メイシー、モリー・ヤング・ブラウン 「繊細さは、これからの時代の強さです」アニータ・ムアジャニー 「デザイン思考が世界を変える」ティム ブラウン 「実践 スタンフォード式 デザイン思考 世界クリエイティブな問題解決」ジャスパール・ウ 「突破するデザイン」ロベルト・ベルガンティ 「新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる」リチャード・フロリダ 「フリーエージェント社会の到来—「雇われない生き方」は何を変えるか」ダニエル ピンク 「幸福の「資本」論—あなたの未来を決める「3つの資本」と「8つの人生パターン」」橋本 隆 「10年後の仕事図鑑」堀江 貴文、落合陽一 「多動力」堀江貴文 「ハウ・トゥー アート・シンキング 閉塞感を打ち破る自分起点の思考法」若宮和男 「直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN」佐宗邦威 「リサーチ・ドリブン・イノベーション 「問い」を起点にアイデアを探究する」安齋勇樹 「ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する7つのステップ」寛裕介 「プロセスエコノミー あなたの物語が価値になる」尾原和啓 「アフターコロナのニュービジネス大全 新しい生活様式×世界15カ国の先進事例」原田 曜平 「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社 「認知バイアス辞典」情報文化研究所 「サステイナブルなものづくり」W・マクダナー 「里山の環境学」武内和彦、他 「発想する会社！」トム・ケリー 「生き延びるためのデザイン」ヴィクター・パバネック 「沈黙の春」レイチェル・カーソン 「つくる公共50のコンセプト」せんだいメディアテーク 「まちづくり幻想」木下齊 「コミュニティデザイン」山崎亮 「テンポラリーアーキテクチャー」OpenA 「人生を変える最強のコミュニティづくり」美宝れいこ 「シェアをデザインする」猪熊純、他 「ブルー・ゾーン」ダン・ビュイトナー 「人口減少社会のデザイン」広井良典 「コミュニティ・オーガナイズング」鎌田華乃子 「持続可能な地域の作り方」寛裕介 「ネイバーフッドデザイン」荒島史 他</p>
履修上の注意	<p>講義内容はオムニバス形式である。ゲストを招いた講義も予定。</p>
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 講義前に配布される資料をよく読み込むこと。 各回講義で扱う用語の概念をできるだけ調べ理解に努めること。</p>
関連科目	<p>建築計画Ⅱ 建築計画Ⅳ 京町家再生論 デザイン概論 色彩理論演習 等</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却するなど。授業時間外にも、担当教員への質問を随時受け付ける。</p>
教員の業務経験	<p>担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導を行う。</p>
教員の業務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>COM-DE313L</p>

講義名	⑤ 造形芸術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>デザインと芸術の違いとは何か？芸術における造形とは何か？デザインにおける造形とは何か？造形と考え方（コンセプト）など、身近な素材との関わり方から芸術、デザインにおける造形表現を学んでいく。素材の扱い方を通し、造形になる過程を理解していく。素材との関わり方を通して自身のアイデアを形にするときの考え方の手順を身につけることができる。</p> <p>材料の扱い方、素材の違いなど、身近に接している造形に使われている素材を紐解き、知識として身につけることができる。</p> <p>デザイン・工芸の両面から扱う素材の違いや、素材の活かし方を詳細に説明し扱い方と表現について学ぶ。</p> <p>ディプロマポリシー：DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>授業は、前半と後半に分かれる。</p> <p>前半は身の回りにある芸術への手がかりを見つけるために認識や情報の伝達、造形のための道具や素材、またそれらが生み出した価値や、精神的な価値と物質的な価値の手がかりを講義を通して学生たちとともに探求していく。</p> <p>後半はデザイン的な視点の多様性を講義する。</p> <p>後半の授業は私たちの身近な趣味や、オタクの世界を掘り下げた内容を解説していく。日本には「オタク」という世界標準語になるほどの強い独自の世界観を持った深い造形の世界が展開している。このオタク産業は世界に飛び火し、世界中からオタクを求めて日本にやってくる現象が起こっている。毎週モノと人の関係、その内容の深さ、造形に携わる人と世界の関係性などを解説していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>1～7週目 三木表悦</p> <p>1～7週目 三木表悦</p> <p>1週目：身の回りにある認識</p> <p>2週目：身の回りを知るための情報</p> <p>3週目：身の回りにある道具</p> <p>4週目：身の回りにある素材</p> <p>5週目：身の回りにある価値の変化</p> <p>6週目：身の回りにあるモノ「畏」</p> <p>7週目：芸術の可能性</p> <p>8～15週目 渡邊俊博</p> <p>8週目 DesignとART</p> <p>9週目 カスタムの世界</p> <p>10週目 カスタムの世界2</p> <p>11週目 フィギュアの世界</p> <p>12週目 ルアーの世界</p> <p>13週目 段ボールの世界</p> <p>14週目 映像の世界</p> <p>15週目 ペーパーテスト</p> <p>授業の内容は、多少変更及び前後することがあります。</p>
授業計画表	15回 三木先生1～7回、渡邊先生8～15回
成績評価	出席、授業態度、テストの総合評価を持って成績評価とする。
教科書	パワーポイントによる資料投影 なし、必要書類がある場合は随時配布
参考書 参考資料	事前にクラスルーム内でアナウンスする。
履修上の注意	本講義は座学になります。授業中、ゲーム、インターネットの閲覧、睡眠その他、授業受講に際し、迷惑行為を行わないよう心がけてください。
予習・復習指導	講義終了後、使用した資料を随時クラスルームにアップする。 必要に応じて復習すること。 期末テストはアップされた資料をもとに行う。
関連科目	造形材料論
課題に対するフィードバックの方法	1～7講義のレポートの総括をする。8～15講義はクラスルーム内に講義終了後、講義データをPDFにてアップする。
教員の実務経歴	<p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年、フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 個展・グループ展・企業企画展へ多数出展、コンペによる受賞歴多数、さまざまな素材を熟知し素材開発、プロダクトデザイン、店舗デザインなど実績を多数有する。</p> <p>三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓楽工房主宰、個展・グループ展等多数開催 講義の中で紹介する様々なテーマの知識は、デザインの仕事を通して関わった人物や個人の趣味・実益から得た経験値に基づいて資料を作成している。全授業の内容は表層の知識ではなく、一つ一つ深く掘り下げた「オタク」領域の内容をテーマとして講義を行う。</p> <p>京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事</p>
教員の実務経歴有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE314L

講義名	㊸ 現代芸術論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 山本 太郎	KYOBI 芸術学部
特任教授	川尻 潤	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>「現代美術」など新しい芸術分野の発生、背景、歴史、意義、および「芸術と社会との関係性」を理解し、その知見を自分の制作や卒業後の活動などに生かすことができるようになる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>20世紀に誕生した現代美術、ポップアート、モノ派など様々な現代の芸術を、付随するサブカルチャーなども併せて考察し授業を行う。学術的な観点からだけではなく、現役のアーティストとして活動する教員ならではの視点で伝える。</p> <p>前半を山本、後半を川尻が担当し、それぞれの見地から論じる。</p> <p>前半の山本パートではワークショップ形式の授業も予定している。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 ガイダンス／序論に変えて 川尻・山本 第2回 言葉とアート／タイトルについての試論とワークショップ 山本 第3回 物語とアート／コンセプトについて考える 山本 第4回 言葉と物語とアート／物語を作成してみる 山本 第5回 現代とアート／なぜ分りにくいかを考える 山本 第6回 システムとアート／お金とアートについて考える 山本 第7回 システムとアート／お金とアートについてのワークショップ 山本 第8回 世の中とアート／社会の中で消費されていくアートについて考える 山本 第9回 原始美術・縄文美術 川尻 第10回 現代美術の展開 川尻 第11回 ポップアート 川尻 第12回 モノ派 川尻 第13回 マーケティング 川尻 第14回 「人種・宗教・差別」と芸術 川尻 第15回 税制とアートマーケット 川尻</p> <p>※授業計画はその年の進捗や履修学生の興味、理解度などによって変更する場合があります。</p>
成績評価	<p>授業態度40%、授業レポート60%を基本とし総合的に評価する。</p> <p>前半8回は毎授業の最後にミニレポートの提出を課します。（ミニレポートが前半の評価対象となります。）</p>
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業に応じて適宜紹介する。
履修上の注意	前半8回に関してはパソコン、タブレット、スマホなどWEBについて検索ができるデバイスを持参すること。
予習・復習指導	1コマに対して2時間程度の予習や復習をすること。 授業に関わる展覧会を視察したり、関連書籍、関連動画などを視聴することも予習、復習とする。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	講義内で適宜対応する。
教員の實務経験	<p>山本太郎：1999年に日本画ならぬ「ニッポン画」を提唱。国内外で展覧会を多数開催する。その作風は現代の琳派とも評され、技法を学生に伝授する。</p> <p>川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内展覧会出品多数。 国外の様子を調査し、授業に最新の情報を伝授している。</p>
教員の實務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE315L

講義名	⑦ 芸術導入演習（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 加納 奈都	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	専門教育のための基礎として描画力を養う。 芸術的なアプローチを試み、描画表現によるメッセージの伝達スキルを学ぶ。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	ミリペン、ボールペンなどの画材を使用し、大型の細密描写を用いた作品の制作を行う。 制作を通して専門教育を受けるために基礎的な表現力・描写力・発想力を身につける。 長期の制作期間を通して作品制作への姿勢・忍耐力も併せて身につける。 制作過程で数回のブラッシュアップを行い、作品への完成度を高めていく。 課題のテーマをもとに表現イメージを想像する。 その想像を確かなものにし、表現の選択肢を増やし広げるために、既存の細密画作品や画像を集めて明確化する。 明確になったイメージを表現に写し、より具体的な形へと仕上げていく。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 テーマに関する調査 第3回 テーマに関する調査 第4回 テーマに関する調査 第5回 下描き 第6回 下描き 第7回 進捗報告会 第8回 本制作 第9回 本制作 第10回 本制作 第11回 本制作 第12回 本制作 第13回 本制作 第14回 本制作 第15回 講評会 ※課題の詳細はガイダンス時に示す
成績評価	受講態度50% 提出作品50%によって評価する
教科書	適宜資料を配布する
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	プロセス上の不明点や疑問点等は担当教員に速やかに相談する。 教員のアドバイス等を十分に理解する。 教員とのコミュニケーションをできるだけとる。 プレゼンテーションの準備をしっかり行う、また積極的に質問を行う。
予習・復習指導	描く習慣を身につけるため、平素から身の回りの物や人、風景をスケッチする。 1コマに対して0.5時間の事前学習および0.5時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入演習」「造形基礎演習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	適宜講評・質疑応答を行う
教員の実務経歴	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴7年の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作に必要なスキルを指導する。
教員の実務経歴有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP101S

講義名	⑳ 芸術導入演習（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>自身の専攻していない他分野の工芸技法を実際に体験することで、さまざまなものづくりに対する見識を広げる。これからの作品作りにとっての発想力を養い、展開する力を身につけるための一助にする。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する</p>
授業概要	<p>自身が所属・専攻していない工芸分野の技法について体験的に学習する。陶芸専攻生は木工・彫刻と漆芸を、木工・彫刻専攻生は陶芸と漆芸を、漆芸専攻生は陶芸と木工・彫刻を、それぞれの実習室に向き作業を行う。この過程で専攻以外の工芸について基礎的な知識と技術を学ぶ。15週を前後半に分け、7回の授業時間で一点以上、各分野の工芸技法による成果物を制作、計2分野の比較的簡単な工芸作品を完成させる。自身の専攻では触れる機会の少ない様々な素材を扱うことで、工芸についてより深く理解し、将来の作品制作における発展の素地を準備するきっかけにする。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週1日</p> <p>陶芸…陶芸の「手捻り」の技法にて茶碗と皿などを制作。成形、高台削り、さらに素焼き生地に下絵付けを施す、印判による模様付けなどの制作過程を学習する。他に、電動ロクロの体験も行う。</p> <p>木工…縷子文様の地紋彫りを通して彫刻の基本を学ぶ。彫刻刀などの使用により道具の理解を深め、古典文様を彫刻する中で、木材の性質を学び、運刀法の基本技を学ぶ。</p> <p>漆芸…漆芸の代表的な加飾技法である厚貝素材による螺鈿技法を学ぶ。漆素地の磨き仕上げ・貝部分のデザイン・切り出し・削り・磨き・貼り付けの工程を通じ、道具の扱いも含め学習、体験する。</p> <p>上記の内、専攻以外の2分野につき第1週～第7週、第8週～第14週で作業を行う。第15週は全体で総括を行う。</p>
成績評価	受講態度50%、技の習得度20%、提出作品30%等を基本に、総合的に判断する。
教科書	なし。講習に使用するP.P.のデータなどを活用する場合もある。
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	<p>作業においては、担当教員とコミュニケーションをよく取るようにする。</p> <p>予習・復習をすることで材料・技法を深く理解するように努める。</p> <p>自身の経験の振り返りのため、できる限り作業工程を記録しポートフォリオを作成する。</p>
予習・復習指導	1コマに対して0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。自身の扱う素材についての関連情報を調べて予備知識を得ておくこと。
関連科目	「芸術導入実習」「工芸概論」「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	授業時間中に行う合評の中でフィードバックを行う。
教員の実務経験	<p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として漆芸に必要な技術を教授する。</p> <p>青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 長年彫刻工芸家が立体彫刻に必要な技術を教授する。</p> <p>守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 陶芸家・美術家としての経験を活かして、陶芸に必要な技術を教授する。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	◎ 芸術導入実習(デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOBI 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>アートやデザインに関する基礎的な情報を取り入れる。表現することの楽しさや重要性についてディスカッションを通して学ぶ。アイデアやイメージを考え、見る人に伝える表現力とグループワークによる協調性を学ぶ。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>(※2023年度課題)</p> <p>平面系課題 課題1: キャンバスがキャンバス 大学のキャンバスをキャンバスに見立てて、空間に図形を描く。ある角度から見ると形が見えるが、別の角度から見ると全然別のものに見える制作を行う。「立体錯視」を応用する。</p> <p>課題2: カラーコンポジション いくつか(3~4色)の色を組み合わせて、特定の言葉や感情などのキーワードを表現する。</p> <p>立体空間系課題(2課題設定) ・1課題目 「〇〇分の1の世界」 ・2課題目 「文字と身体による表現」 アートとデザインの領域を立体空間表現を用いて視覚化していく。 2次元から3次元への移行など、世界観の表現を重視し課題を行っていく。</p>
授業計画 授業内容	<p>授業は平面系課題と立体空間系課題に分けて実施する。 * 課題の内容・順序は変更する可能性があります。</p> <p>●平面系課題 第1回 ガイダンス 第2回 キャンバスがキャンバス① 第3回 キャンバスがキャンバス② 4回目以降はカラーコンポジションの課題</p> <p>第4回 お題決め 役割分担 第5回 フィールドワーク 第6回 色作り 第7回 色作り 第8回 色作り 第9回 カラーチャート並べ 第10回 カラーチャート並べ 第11回 カラーチャート並べ 第12回 カラーチャート並べ 第13回 カラーチャート並べ 第14回 カラーチャート並べ 第15回 合評</p> <p>●立体空間系課題 1課題目 (1~7週目) 「〇〇分の1の世界」 ある朝起きたら自分が〇〇分の1に縮んでいました！ さーどうしましょう。 普段気にしていない小さな世界と、自分が〇〇分の1に縮んだ状態との関係性を 新たな価値観・世界観として創造してください 自身のミニチュアを制作し、世界観を表現。 写真カット数10点 PDF 1枚にまとめ提出 自身の世界観の表現は、ストーリーがあっても可、単体の設定でも可。</p> <p>2課題目 (8~14週目) 「文字と身体による表現」 4コマ漫画の実写化 5人ーと組のグループになって、4コマ漫画を実写化してみよう！ ストーリーを考え、人物によるポージング、吹き出しはカットティングシートで実物大を作り壁や窓、床に貼る。 2次元の世界を3次元で表現し、世界観の逆転を創造してください。 4コマ漫画ストーリーを考える グループワーク 5人1組 一人一人意見を出し合い、ディスカッションを重ねたのち、4コマの吹き出しとポーズ 縮みなどを実写化する 吹き出しと文字はカットティングシートを使って、壁や窓、床に貼る。</p> <p>15週目 2 課題プレゼンテーション 個人とチーム代表</p>
成績評価	出席状況、授業態度、制作物によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	授業内で参考資料、参考作品などを適宜紹介する。
履修上の注意	制作に必要な材料、道具などの管理を各自ですること。部屋、機器などを正しく利用すること。
予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	<p>加納奈都: 主にデジタル表現の作家(裏柳翠)として活動歴6年 館取健司: 現代アーティスト(エトリケンジ) 活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。 課題を通して学ことは2つ。「視点の持ち方」「言葉の視覚化」を題材に実技作業を行う授業である。デザインの仕事とは情報操作の表現であること。情報操作を行うためにはどのようなモノの捉え方が必要なのか、長年デザインに携わった実績の中から一部分の切り取りを題材として実演表現を行なっていく。 山本太郎: 画家(ニッポン画家)の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要スキルを指導する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP002P

講義名	③⑧ 芸術導入実習(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>工芸技法を習得するためには経験の集積による理解・認識が大変重要になる。作業に応じた素材の特性や扱い方、道具類の適切な加工・調整方法と使用方法を学ぶ中で、知識として知っているだけでなく、体験を通じて理解してゆくことを目標とする。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>始めに漆芸技法の基本となる髹漆技法(きゅうしつぎほう：漆による下地・塗りの技法)に欠かせない道具作りの方法を体験、習得する。切出小刀と呼ばれる刃物の研ぎ・ヒノキ材を加工してのへらの制作・漆芸専用の漆刷毛の布着せと漆塗り、刷毛先の削り出しと叩き・ほぐしを行う。自身の刃物を研ぎ、その他の道具もその刃物で加工する。専用の漆刷毛には漆で布を貼り、漆を塗り込み補強し使用に耐える強度を確保する。これらの道具づくりを通じて、自分自身が使いやすい道具の調整方法を身につける。また並行して練習用手板の制作も行う。板状の素地に漆塗りを複数回施し、へら・刷毛と漆の扱いを習得する。この手板は後期の線描き蒔絵の実習に使用する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週2日</p> <p>第1週 本科目の概要説明 道具作り1：へら木切り出し、鉋がけ 第2週 道具作り2：へら木切り出し、鉋がけ、油引き 第3週 道具作り3：切り出し小刀研ぎ 第4週 道具作り4：切り出し小刀研ぎ、へら削り 第5週 道具作り5：漆刷毛木地固め、木地固め研ぎ、布着せ 第6週 道具作り6：漆刷毛布目揃え、目摺り錆 第7週 道具作り7：漆刷毛布目摺り錆研ぎ、固め 第8週 道具作り8：色漆練り、漆刷毛色漆塗り 第9週 道具作り9：漆刷毛切り出し、ほぐし、糊洗い 第10週 道具作り10：手板木地固め 目摺り錆 第11週 道具作り11：漆漉し、下塗り表裏 第12週 道具作り12：研ぎ、塗り重ね 第13週 道具作り13：研ぎ、塗り重ね 第14週 道具作り14：研ぎ、上塗り 第15週 道具作り15：作業完成確認、総括</p>
成績評価	<p>技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。</p>
教科書	<p>なし。必要に応じて適宜資料を配布する。</p>
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する小刀・へら木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。 また、配布する資料、参考書等文献から関連する予備知識を得ておくこと。</p>
予習・復習指導	<p>自身の経験の振り返りのため、必要に応じ作業工程を記録しポートフォリオを作成する。 実習後に作業した内容の確認と次回への準備を確実にを行う。 実習1コマに対し0.5時間の事前学習、0.5時間の復習を行う。使用する素材や道具について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。</p>
関連科目	<p>「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。</p>
教員の実務経歴	<p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。</p>
教員の実務経歴有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	

講義名	⑩ 芸術導入実習(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な灰釉を用いた染付陶器について、その歴史的な変遷と製作工程を理解し体得する。 「手びねり」の技法を体験、初歩的技法を習得する。 伝統的な下絵付けである染付を体験し、その加飾効果を理解し体得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 江戸時代に確立された日本の伝統的な染付陶器について、素材である土や釉薬の種類を学ぶ素材実習。基礎的なタタラ成型による四方皿の制作実習。電気窯の原理、操作方法、窯詰め操作を学ぶ焼成実習。土を成型に適した状態に調整する「菊練り」の習得。 最も基礎的な成型方法でありながら多様な形状を成型することが可能な「手びねり」技法の歴史的作例を学び、茶碗、小壺、フィギュアの制作を試みる。 伝統的な下絵付け（染付）技法の加飾実習を行う。紙面にて練習後、器物に伝統的植物をモチーフを彩色。
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分 第1週 課題説明・四方皿道具作成 第2週 四方皿成型 第3週 四方皿成型 第4週 四方皿仕上げ 第5週 四方皿仕上げ 第6週 四方皿素焼焼成実習 (0F) 第7週 撥水剤塗 第8週 土もみ(荒もみ)実習 第9週 土もみ(菊もみ)実習 第10週 土もみ(菊もみ)実習 川尻担当分 第1週 「土による造形」についての座学 第2週 「陶芸という表現」についての座学 第3週～6週 作品テーマの取材及びマケット制作 第7週～10週 本制作 小野担当分 第11週 四君子(蘭・竹)紙面上練習 第12週 四君子(菊・梅)紙面上練習 第13週 染付：四方皿に四君子(蘭・竹)清書 第14週 染付：四方皿に四君子(菊・梅)清書 施釉 本焼実習 (RF) 第15週 講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	実習中の態度50%、習得度20%、提出作品30%等を基本に総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	やきものの教科書 - 陶工房編集部 - (陶工房BOOKS)
履修上の注意	予習・復習をすることで材料技法を深く理解するように努めること。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前事後学修を行う。 実習後に内容の確認と次回への準備を確実にを行う。
関連科目	伝統工芸概論
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答を行う。課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	<p>川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰 陶芸家・美術家としての経験を活かして、学生に技法を伝授する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	㊸ 芸術導入実習(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各道具の扱い方と手入れの仕方を習得する。 ・基本的な加工方法を習得する。 ・刃物研ぎの基本を習得し、上達させる。 ・基礎的な木彫刻の運刀法技法の習得を目標にする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>道具の扱い方、材料及び基本的な加工方法について学ぶ。まず、諸道具の中でも基本的な平鉋、平鑿、彫刻刀などの仕立て方や、刃の研ぎ方を練習する。鉋刃の裏出し、裏押し、鉋台の表馴染み、押え溝の調整、鉋台下端の数種類の調整方法について学ぶ。刃物の研ぎについては砥ぎ台の制法、金盤と金剛砂の使用法、荒砥石、中砥石、仕上げ砥石の使用法について学ぶ。加工については、古典文様の繪子文様・櫻花菱文様の作図・彫りを木彫刻の運刀法を理解し習得する。平板の制作により鉋や鉋の扱い方を習得。あられ組、蟻組の組手の加工において、鑿の扱い方を学ぶとともに、スコヤや差金を用いて精度の高い加工を覚える。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週 研ぎ練習①(砥石の説明・使用法・砥石台の制作)</p> <p>第2週 研ぎ練習②彫刻刀の砥ぎ 地紋彫り繪子文様の作図</p> <p>第3週 繪子文様の地紋彫り①</p> <p>第4週 繪子文様の地紋彫り②</p> <p>第5週 櫻花菱文様の作図・櫻花菱文様の地紋彫り①</p> <p>第6週 櫻花菱文様の地紋彫り②</p> <p>第7週 研ぎ練習③(寸8鉋の砥ぎ・鉋の裏押し)</p> <p>第8週 研ぎ練習④(鉋の裏出し・表馴染み調整・下端調整・押さえ金調整) 平板制作①</p> <p>第9週 研ぎ練習⑤(鑿のかつら仕込み・鑿の裏押し・鑿の砥ぎ) 平板制作②</p> <p>第10週 あられ組①(製材・木取り・墨付け)</p> <p>第11週 あられ組②(仕口加工)</p> <p>第12週 あられ組③(仮組み・仕上げ)</p> <p>第13週 蟻組①(製材・木取り・墨付け)</p> <p>第14週 蟻組②(仕口加工・仮組み)</p> <p>第15週 蟻組③(調整・仕上げ) まとめ・合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度(30%)、技術習得度(30%)、作品完成度(40%)
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	木工大図鑑(講談社 2008) 近藤豊著『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』(光村推古書院 1972)
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	<p>実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。</p> <p>古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。</p> <p>木彫刻彫像、自由課題とともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。</p> <p>1コマに対し1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「芸術導入演習(工芸)」 「工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が地紋彫りの制法、小刀の研磨方法、指物によるあられ組、蟻組の制法を指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP002P

講義名	㊸ 造形基礎演習Ⅰ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	小林 泰弘	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美術、芸術における縦・横・奥行で表現する立体の造形を一つの作品としてまとめて全体的な構想・表現力および塑像造形技法の習得を目標とする。 ・細部にとらわれず骨格の形成、全体的なバランスを重点的に考えて制作する事を目標とする。 ・形の中に動きのある表現を造形に表せるよう目指す この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・制作する自由課題を图鉴や画像資料を調べ基本の造形を決め図面及びデッサンを制作 ・それを基に木材で作品造形の骨組みを考慮して組み固める、そして針金などで細部骨格を造形 ・油土が馴染んで付くようにシュロ縄を全体にしっかり巻き付ける ・骨組みに油土を付けて行く、その際には空洞ができないように隙間なく定着して行く ・粘土ペラを使い全体の形を造形する上で細部や模様は後にして全体の造形を進める ・画像資料や図面を参考に作品を離れて、多方向の角度から見ると気付く点が出てくるので再確認をして造形を進める
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 課題・授業概要説明 第2回 自由課題の選択確定・作図 第3回 自由課題の習作・デッサン・作図 第4回 自由課題の習作・デッサン・作図 第5回 自由課題の習作・デッサン・作図 第6回 骨格を形成制作（細長い木片）針金・シュロ縄（補助材） 第7回 骨格を形成制作（細長い木片）針金・シュロ縄（補助材） 第8回 課題制作 ① 第9回 課題制作 ② 第10回 課題制作 ③ 第11回 課題制作 ④ 第12回 課題制作 ⑤ 第13回 課題制作 ⑥ 第14回 仕上げ工程から完成チェック 第15回 仕上げ工程から完成へ・講評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	自由課題を確定する上で作図・デッサンにとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し十分に構想を練っておくこと。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 1コマに対して1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。
関連科目	素描、構成基礎演習、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 京佛師としての立体彫刻実務経験を活かし、自由芸術作品において決めたコンセプトを調査・研究する指導を行い、デッサン・作図を決め、骨格造形を進め立体を把握し油土で造形するプロセスを取得するように指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP103S

講義名	④ 工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOBU 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBU 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBU 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOBU 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBU 芸術学部

到達目標	<p>平面系課題 ビジュアルデザインおよびグラフィックデザインに関する基礎的な知識、技術を身につける。設定に沿ったコンセプトの立案とそれをデザインによって視覚化することができるようになる。</p> <p>立体系課題 素材の持つ特性を理解し、扱い方を習得する。アイデアを形に変える方法を学び、実際に使うことのできる造形物を完成させる。基本的な造形の構造を習得する。カッターの使い方など実制作の基礎を学ぶ。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>平面系課題・立体系課題を曜日ごとに履修する。</p> <p>(2023年度課題)</p> <p>●平面系課題：シンボルマーク、ロゴタイプ、タイポグラフィ、ブックカバーデザイン 任意の博物館施設を設定し、コンセプト、立地、博物館としての分類を踏まえて、それらを象徴するシンボルマークおよびロゴタイプをデザインする。また、博物館で使用することを想定したタイポグラフィ(文字のデザイン)と出版物を想定したブックカバーをデザインする。</p> <p>●立体系課題：座る形 段ボールを使用し、座る形(椅子の制作ではない)の言葉を理解し、言葉を造形に置き換えた時にどのようなアイデアが生まれてくるのか?アイデア、1/5模型、実制作造形の順で実際に座ることのできる造形制作を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回/週2日</p> <p>●平面系課題</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 課題1 制作・進捗チェック 第3週 課題1 制作・進捗チェック 第4週 課題1 制作・進捗チェック 第5週 合評(課題1) / 課題説明(課題2) 第6週 課題2 制作・進捗チェック 第7週 課題2 制作・進捗チェック 第8週 課題2 制作・進捗チェック 第9週 課題2 制作・進捗チェック 第10週 合評(課題2) / 課題説明(課題3) 第11週 課題3 制作・進捗チェック 第12週 課題3 制作・進捗チェック 第13週 課題3 制作・進捗チェック 第14週 課題3 制作・進捗チェック 第15週 合評(課題3)</p> <p>●立体系課題</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 スケッチ・進捗チェック 第3週 スケッチ・進捗チェック 第4週 スケッチ・進捗チェック 第5週 模型制作・進捗チェック 第6週 模型制作・進捗チェック 第7週 模型制作・進捗チェック 第8週 模型制作・進捗チェック 第9週 制作・進捗チェック 第10週 制作・進捗チェック 第11週 制作・進捗チェック 第12週 制作・進捗チェック 第13週 制作・進捗チェック 第14週 制作・進捗チェック 第15週 合評</p>
成績評価	出席状況、授業態度、制作物によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	授業内で参考資料、参考作品などを適宜紹介する。
履修上の注意	制作に必要な材料、道具などの管理を各自ですること。 部屋、機器などを正しく利用すること。
予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習および0.5時間の復習をすること。 普段から身の回りにあるロゴデザイン、タイポグラフィ、ものの形態などに目を向けるようにすること。
関連科目	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家(裏柳翠)として活動歴6年 眞取健司：現代アーティスト(エトリケンジ)活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表 デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験活かし、デザイナーに必要な知識、技術について教育する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP104P

講義名	④⑩ 工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>基礎的な加飾技法について、技法の習得並びに知識のみならず理解と認識を得ることを目標とする。様々な蒔絵技法や加飾素材を使用した技法の基礎を学び、併せて蒔絵筆などの道具類と素材の適切な調整方法や使用方法を習得する。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する</p>
授業概要	<p>漆芸技法の内、線描き蒔絵及び金属粉や貝、卵殻、金貝といった様々な材料を活用する、伝統技法に基づく基礎的な加飾技法を学ぶ。線描き蒔絵では直線構成の「麻の葉」模様と、曲線構成の「観世水」の2種類を、銀粉を用いて制作する。貝・卵殻などの素材については、同一パターン上に蒔きつけ漆での塗り込み、研ぎ出しで仕上げ、素材による効果の違いを確認する。これらの作業を通じて素材と技法の関係を理解し、基礎的な加飾技術を身につける。同時に、漆の材料としての特性、即ち塗り、硬化、研ぎ、磨き、あるいは混入物による粘性の変化などについても、実習を通じて理解を深め、2年次以降のより高いレベルでの課題制作に取り組む基礎を固める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日</p> <p>第1週 準備作業1：本科目の概要説明、 手板研ぎ 第2週 準備作業2：手板研ぎ・胴摺り 第3週 準備作業3：手板上摺り・呂色磨き 置き目作成 第4週 準備作業4：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し 第5週 準備作業5：置き目留め・押し 卵殻 螺鈿（微塵貝粒置き）仕掛け 第6週 加飾作業1：図案①線描き、粉入れ 青貝（割貝）・平文仕掛け 第7週 加飾作業2：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ 絞漆仕掛け 第8週 加飾作業3：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ 仕掛け手板塗り込み① 第9週 加飾作業4：図案①木砥掃除、粉固め、胴摺り 仕掛け手板塗り込み研ぎ出し① 図案②線描き、粉入れ 仕掛け手板塗り込み② 第10週 加飾作業5：図案①摺り漆、磨き 仕掛け手板塗り込み研ぎ出し② 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ 仕掛け手板胴摺り 第11週 加飾作業6：図案①摺り漆、磨き 錫梨子地粉蒔きぼかし 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み 第12週 加飾作業7：図案②木砥掃除、粉固め、胴摺り 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み 第13週 加飾作業8：図案②摺り漆、磨き 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み、研ぎ同摺り 第14週 加飾作業9：図案②摺り漆、磨き 仕掛け手板上摺り・呂色磨き 第15週 加飾作業10：各種仕掛け手板上摺り・呂色磨き② 総括</p>
成績評価	<p>技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。</p>
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 『漆塗りの技法書』誠文堂新光社</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料や参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。</p>
予習・復習指導	<p>予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。 必要に応じ作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。</p>
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習」「専門実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	<p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓楽工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事</p> <p>伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	④ 工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBUI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBUI 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ろくろの制作過程を理解し、小品を挽くことができる技術を習得する。また基礎的な釉薬の組成を理解する。 ・「手びねり」の技法の初歩的技法を習得する。 ・伝統的な下絵付けである染付の文様の加飾効果を理解し体得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 江戸時代に確立された日本の伝統的な染付陶器について、素材である土や釉薬の種類を学ぶ素材実習。ろくろの初歩的技法として、煎茶碗の水挽き及び削り実習。陶土のみならず磁土の成型実習。 2 「手びねり」のやや発展的な課題として大型の壺、フィギュアを制作する。現代陶芸におけるフィギュア陶芸の歴史的作品を学び、模倣表現を試みる。 3 伝統的な下絵付け(染付)技法の加飾実習。紙面にて練習後、茶碗や湯飲みへ伝統文様をモチーフとして彩色する。
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分 第1週 課題説明・小煎茶碗道具作成 第2週 テストピース作り 第3週 荒もみ・菊もみ ロクロ実習(土殺し・土取り・歪引き)・テストピース素焼焼成実習(OF) 第4週 ロクロ成形(小煎茶碗水挽き)(信楽30個)(カンナ等道具作り) 第5週 ロクロ成形(小煎茶碗水挽き)(磁器30個) 第6週 ロクロ成形(小煎茶碗水挽き)(磁器30個) 第7週 ロクロ成形(小煎茶碗削り)(磁器20個) 第8週 長石を用いた灰釉・土石釉の調合・施釉 素地実験施釉 第9週 小煎茶碗素焼焼成実習(OF) テストピースの本焼焼成実習(OF・RF) 第10週 灰釉・土石釉・色釉・素地実験のピース貼り付け・レポート 川尻担当分 第1週 「手びねり」という表現についての座学 第2週 作品テーマの取材 第3週～6週 マケット制作 第7週～10週 本制作 小野担当分 第11週 染付：小煎茶碗(ろくろ線)練習 第12週 染付：小煎茶碗(割付け・小紋)練習 第13週 染付：小煎茶碗(小紋)清書 第14週 染付：小煎茶碗(山水)練習 第15週 染付：小煎茶碗(山水)清書 施釉 本焼焼成実習(RF) 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『日本陶磁大系』(平凡社) 『やきものと釉薬—基本的な考え方』(理工学社) その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	陶磁器の素材・制作技術・加飾技術の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせてるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「芸術導入実習(陶芸)」「日本美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞任制作(中国、ロシア、台湾等)国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰 陶芸家・美術家としての経験を活かして、学生に技法を伝授する。
教員の実務経験の有無	有
科目ナンバリング	

講義名	㊹ 工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種道具(印刀・丸刀)の使用法、研ぎ方を習得することを目標とする。 ・平安時代に制作された京都平等院鳳凰堂の天蓋「宝相華唐草文様」の透かし彫り部分を資料をもとに基礎的な立体造形表現と技法の習得を目標とする。 ・彫物の基本的な技法を習得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「芸術導入実習(木工・彫刻)」で学んだ木彫刻技法の基礎をもとに、宝相華唐草文様の透かし彫り彫刻の制作を行う。透かし彫り彫刻は、表裏両面の浮彫り、地の部分の彫り抜きを経て完成させる。 次の工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)での課題のデッサン、作図、彫刻の見本となるモデリングを油土で製作。 ・彫物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、型紙を用いた墨付け法について学ぶ。 また、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。内丸のみの仕込み方法、研磨方法を学び荒彫りを行う。 豆平匏と四方反豆匏の制作法を学び楕円木皿の仕上げ削り法を学ぶ。 また基本的な塗装の方法についても学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週・オリエンテーション(課題説明、各種道具の使用法についての理解) ・彫物作品考案、図案作成</p> <p>第2週・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆匏制作①匏台墨付練習</p> <p>第3週・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆匏制作②椗匏台豆平</p> <p>第4週・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・豆匏制作③椗匏台四方反り</p> <p>第5週・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・荒彫り①木取、図面転写、型紙作成</p> <p>第6週・糸のこにて透かす部分の抜き取り、表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り②丸のみ研ぎ、仕立て</p> <p>第7週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り③</p> <p>第8週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ①(内側 四方反り)</p> <p>第9週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ②(外側 豆平)</p> <p>第10週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ③</p> <p>第11週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・仕上げ①ペーパー当て木製作</p> <p>第12週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り、両面の仕上げ彫りから完成へ ・仕上げ②</p> <p>第13週・立体彫刻の課題説明(課題作品の造形・各種道具の使用法についての理解) ・仕上げ③塗装講座</p> <p>第14週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・仕上げ④オイル塗装等</p> <p>第15週・まとめ・合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度(30%)、技術習得度(30%)、作品完成度(40%)
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	西川新次著 『平等院大観 第2巻 彫刻』 (岩波書店 1987) 『益百選』 (平安堂書店 1972)
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	透かし彫り彫刻の実際の作品を古寺・社寺で見学、スケッチするなど、積極的に課外での学習し取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味のよい状態で課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習(木工・彫刻)」「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が透かし彫りの技法、彫物による木皿の制作法、豆匏の制作法等の指導を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP104P

講義名	④ 造形基礎演習Ⅱ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>作品制作に必要な道具等の制作法の習得を通して、道具の中に隠されたものづくりの知恵を学ぶ。また、作品制作に有用となる機械類の使用法を学び、今後の作品制作の効率化や質の向上を目指す。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>工芸作品の制作を行うにあたっては、素材の選定や道具の制作・手入れ、治具・補助具の制作等様々な準備、知識、技術が必要となる。作品を制作する際には様々な道具や技法を駆使し造形していく必要があり、その際に必要となる道具や補助具の制作法を学ぶ。一つの素材についても多様な造形方法があり、その際に使用する様々な道具や治具の使用法についても学ぶ。作品を完成させる為には様々な表面処理方法がある事も学ぶ。本演習では作品制作に必要な道具の制作法を学び、本演習で得られた知識と技術が実習における作品制作の質向上に寄与し、より深く工芸を理解する事を目的とする。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1週 ガイダンス（コース別） ・ 第15週 講評（コース別）</p> <p>*コースごとの課題はガイダンス時に提示する。</p> <p>漆芸…漆工芸において制作道具は作者の手の延長であり、道具を自分で作ることから学びの第一歩が始まる。また市販品を活用する場合も、作りて個々によってカスタマイズすることが作り手の基本である。本演習では紛筒、筆洗い棒や針木砥など蒔絵の用品から、髹漆に使用する道具を自作することで、基礎技術の向上と同時に伝統技法への理解を深める。</p> <p>陶芸…陶磁器工芸と文化との関係について歴史的な変遷を学ぶ。桃山時代に確立した灰釉陶磁器（織部・唐津など）を通して、釉薬と素地の素材技術・成形技術および焼成技術を理解する。また陶磁器の製造技術の基礎であるタタラ成形による器作りや呉須・鉄絵による下絵付け技法、更には色絵陶器の基礎である上絵付け技法を学び、そして制作することで陶磁器工芸の基礎知識を習得する。</p> <p>木工・彫刻…木工作品の仕上げに用いられる拭漆技法について学ぶ。拭漆技法の演習を行う為の木地としてお箸等の制作を行う。使用者を想定した長さや太さ、形を検討したお箸の木地を制作し、拭漆を施して実際に使用する事で、人が使う道具の制作時に必要となる様々な要素について実感するとともに、拭漆仕上げの手触りや口触りを体験し、より深く拭漆の特徴を知ることを目指す。</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、課題完成度（40%）
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	演習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。 1コマに対し4時間の復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経歴	玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年美術工芸に携わってきた講師が工芸作品の造形時に必要となる道具、治具、補助具の制作方法や拭き漆等の塗装について指導を行う。
教員の実務経歴有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP205S

講義名	㊦ 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ (デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
標準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOBUI 芸術学部
教授	宮内 智久	KYOBUI 建築学部
教授	中井川 正道	KYOBUI 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOBUI 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOBUI 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOBUI 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOBUI 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOBUI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBUI 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<p>課題を通して、各専攻ごとに必須となるデザインの発想力、表現力、造形力、プレゼンテーション力などを身につける。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>インテリア・空間デザイン、ビジュアルデザイン、Cultureデザイン、文化財情報デザインからそれぞれ課題を課し、そのうち2課題を選択する。2年生後期からのコース選択に向けて、各課題を通してデザインにおける視野を広げるとともに、専門性を学ぶための導入とする。</p> <p>・インテリア・空間デザイン系課題は、インテリアデザインとプロトタイピングの2つを学ぶ。プロトタイピングでは3Dプリンターなどを用い、様々な素材を利用した立体造形技術を習得する。インテリアデザインではホテルの客室のデザインを通して、実空間のスケール感や素材感などを習得する。</p> <p>・ビジュアルデザイン系課題は「音の視覚化」と「地域プロモーション」の2題を課す。視覚デザインの古典的なメディアである印刷物（ポスター）と近年広告などで多用される映像メディアを横断し、不可視のイメージ、価値を視覚的にデザインする。</p> <p>・Cultureデザイン系課題（陶器）では、身の回りの生活を変えるデザインを考える。陶器を制作するデザイン作業は私たちの食卓に並ぶ食器を中心に身の回りの造形について考えていく。Cultureデザイン系課題（金属）では、アウトドア小物・インテリア小物を金属を素材としてテーマに実際に使用できる1/1制作する。3Dプリンターで模型を作り、3Dデータをもとに小林製作所（産学連携授業協賛企業）に制作を依頼する。商品化を念頭にデザインを考える。</p> <p>・文化財情報デザイン系課題は、文化財の保護と活用において重要な役割を果たすデジタル復元技術について学ぶ。特に実際の文化財を3Dスキャンなども併用して調査・記録・解析のプロセスに焦点を当て、理論と実践を通じて文化財の保存と活用を考える。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回/週2日 選択課題とし、初回ガイダンス時に複数課題から2課題を選択する。</p> <p>2025年度選択課題（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インテリア・空間デザイン系課題 <ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイピング ・インテリアデザイン ●ビジュアルデザイン系課題 <ul style="list-style-type: none"> ・音の視覚化（グラフィック・映像） ・地域プロモーション（映像） ●Cultureデザイン系課題 <ul style="list-style-type: none"> ・プロダクトデザイン（陶器） ・プロダクトデザイン（金属） ●文化財情報デザイン系課題 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財のデジタル化と復元（3Dスキャン） <p>*実施する曜日によって選択できる課題に制限があります。 *実施スケジュールは選択する課題によって異なります。 *課題は変更する可能性があります。</p>
成績評価	授業態度、制作物によって総合的に評価する。ただし、評価方法は課題によって異なる。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	課題によって異なる。
履修上の注意	選択する課題の担当教員の指示に従うこと。
予習・復習指導	予習・復習指導 実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。 身の回りにあるものをデザインの視点で観察し、情報を収集すること。 過去の作品を参照し、分析すること。
関連科目	工芸デザイン基礎実習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経歴	<p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>宮内智久：中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年。</p> <p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年。</p> <p>東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年。</p> <p>田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経歴（28年間）</p> <p>杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。</p> <p>宮内芳代子：田中秀和：</p> <p>デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーなどの活動経験活かし、デザイナーに必要な知識、技術について教育する。</p>
教員の実務経歴有無	
科目ナンバリング	

講義名	⑭ 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOBUI 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<p>基礎的な下地と塗り技法である髹漆技法について技能の習得を目指す。知識のみでなく経験に基づいたより深い理解・認識を得ることを目標とする。作業の内容や目的に応じた道具類と素材の適切な調整方法と使用方法を身につけ、髹漆技法の理解・認識を深める。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する</p>
授業概要	<p>漆芸技法の内、基礎となる髹漆技法(きゆうしつぎほう：器物制作における下地・塗りの技法)の習得と理解を目指す。手板木を素地に用いた布着せ本堅地呂色仕上げの技法、並びに原型に布を貼り重ねて器物の胎を形成する布乾漆の技法を学ぶ。手板は3枚、乾漆は小皿状のものを1点設定している。これらの制作を通じ下地・塗りの作業を反復して行うことで、髹漆の技術を身につける。同時に作業に必要な木へらなどの道具の調整の方法や、下地材である砥の粉と漆の調合・調整法など、工程に応じて学習する。ここで習得する髹漆の技法は今後の漆芸作品の制作を考えた場合、重要で展開性のある技法になるため、十分に経験を積み習熟度を高め理解を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日</p> <p>第1週 本科目の概要説明 下地作業1：木地固め 乾漆作業1：原型吸い込み止め 第2週 下地作業2：木地固め研ぎ、布着せ 乾漆作業2：布貼り 第3週 下地作業3：布目揃え、目摺り錆 乾漆作業3：布目揃え、目摺り錆 第4週 下地作業4：地付け、地研ぎ 乾漆作業4：目摺り錆研ぎ、布貼り 第5週 下地作業5：地付け、地研ぎ 乾漆作業5：目摺り錆研ぎ、布貼り 第6週 下地作業6：地研ぎ、地固め 乾漆作業6：目摺り錆研ぎ、布貼り 第7週 下地作業7：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業7：目摺り錆研ぎ、布貼り 第8週 下地作業8：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業8：原型除去、切断部整形 第9週 下地作業9：錆付け、錆研ぎ、繕い錆付け 乾漆作業9：内側布貼り 第10週 下地作業10：繕い錆研ぎ、面取り、中塗り 乾漆作業10：内側布目揃え、目摺り錆 第11週 塗り作業11：中塗り研ぎ、中塗り 乾漆作業11：中塗り 第12週 塗り作業12：中塗り研ぎ、上塗り 乾漆作業12：中塗り 第13週 塗り作業13：上塗り呂色研ぎ、胴摺り、上摺 乾漆作業13：上塗り 第14週 塗り作業14：呂色磨き、上摺 乾漆作業14：上塗り 第15週 塗り作業15：呂色仕上げ磨き 乾漆作業15：研ぎ、仕上げ磨き</p> <p>髹漆作業完成確認、総括</p>
成績評価	<p>技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。</p>
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 『漆塗りの技法書』誠文堂新光社</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する小刀・へら木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。制作する手板は後期の加飾の素地となるため、後期開始時まで完成させる。</p>
予習・復習指導	<p>予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。 必用に応じて作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。</p>
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「専門実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	<p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓楽工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事</p> <p>京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。</p>
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	④ 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>1 江戸後期・明治期より現在まで京焼の主流である磁器坯土及び白土坯土によるろくろ成型と和絵具・赤絵具を用いた色絵陶磁器技法の習得を目標とする。現在の陶磁器の基礎となった化学計算を用いた釉薬調製方法の基礎を習得を目標とする。</p> <p>2 オブジェ制作という概念を理解し、作品を完成させる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 明治時期に導入された土石原料・工業原料を用いた釉薬調製方法を習得する。また、磁器坯土・白土坯土を用いたろくろ成型で飯碗・抹茶碗を製作する。</p> <p>2 動植物をモチーフとしてオブジェを制作する。オブジェの概念や歴史的背景を資料や実物により学ぶ。取材をし、テーマ、コンセプトを設定、検討会にてブラッシュアップする。その後、試作、本制作へとすすめ、完成したオブジェを再び皆で検討する。</p> <p>3 伝統的な和・赤絵具を用いた色絵陶磁器技法について学び、加飾実習を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当</p> <p>第1週 課題説明(資料説明) テストピース作り(土石釉・色釉実験用)</p> <p>第2週 ロクロ成形(磁器飯碗：道具作り) テストピース素焼焼成</p> <p>第3週 ロクロ成形(磁器飯碗：水挽き)</p> <p>第4週 ロクロ成形(磁器飯碗：水挽き)・土石釉・色釉調合</p> <p>第5週 ロクロ成形(磁器飯碗：削り)</p> <p>第6週 ロクロ成形(磁器飯碗：削り)・土石釉・色釉施釉</p> <p>第7週 課題説明・ロクロ成形(仁清茶碗：道具作り) テストピース・飯碗：施釉・本焼焼成実習(OF・RF)</p> <p>第8週 ロクロ成形(仁清茶碗：水挽き)</p> <p>第9週 ロクロ成形(仁清茶碗：削り)</p> <p>第10週 テストピース整理 茶碗：施釉・本焼焼成実習(OF・RF)</p> <p>川尻担当</p> <p>第1週 オブジェ表現のための技法について座学</p> <p>第2週 作品テーマの取材</p> <p>第3週～6週 マケットの制作</p> <p>第4週～10週 本制作</p> <p>小野担当</p> <p>第11週 赤絵(磁器飯碗)練習</p> <p>第12週 赤絵(磁器飯碗)清書 上絵付焼成実習(OF)</p> <p>第13週 色絵(仁清茶碗)練習</p> <p>第14週 色絵(仁清茶碗)清書</p> <p>第15週 色絵(仁清茶碗)清書 上絵付焼成実習(OF) 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『日本陶磁大系』(平凡社) 『やきものと釉薬—基本的な考え方』(理工学社) その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	美術工芸書籍により江戸・明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。陶磁器窯業化学の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「工芸・デザイン 基礎実習Ⅰ(陶芸)」 「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰 陶芸家・美術家としての経験を活かして、学生に技法を伝授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	④ 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種道具(印刀・丸刀)の使用法、研ぎ方の習得を深める。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(木工・彫刻)で学んだ彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻彫を通して、美術表現力および彫刻造形技法を習得する。 ・隠蟻組の技法を習得する。 ・拭漆の基本的な技法を習得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・木彫刻の基礎で古典彫刻をモデルとして佛手の木彫刻を伝統彫刻技法を駆使しながら完成させる。モデルとして佛手の作図、木彫り制作のための立体デッサンとして油土で製作しそれを元に鑿で荒彫り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 ・基礎実習Ⅰで制作した複数の仕口加工の発展として隠蟻組の練習を実施する。反復練習を通して加工精度を上げる。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週・オリエンテーション(課題説明、各種道具の使用法についての理解) ・隠蟻組練習①(木取り)</p> <p>第2週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習②(墨付)</p> <p>第3週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習③(仕口加工)</p> <p>第4週・古典をモデルとした木彫刻彫像の見本となるモデリングを油土で製作・材への作図の転写 ・隠蟻組練習④(仕口加工)</p> <p>第5週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・隠蟻組練習⑤(留加工)</p> <p>第6週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑥(留加工)</p> <p>第7週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑦(仕上)</p> <p>第8週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・隠蟻組練習⑧(仕上)</p> <p>第9週・木彫刻の中取り工程 ・小箱製作①(木取り)</p> <p>第10週・木彫刻の小造り工程 ・小箱製作②(木取り)</p> <p>第11週・木彫刻の小造り工程、仕上げ彫り工程 ・小箱製作③(墨付)</p> <p>第12週・木彫刻の仕上げ彫り工程 ・小箱製作③(墨付)</p> <p>第13週・立体彫刻の課題説明(課題作品の造形・各種道具の使用法についての理解) ・小箱製作④(仕口加工)</p> <p>第14週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱製作⑤(仕口加工)</p> <p>第15週・まとめ・合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度(30%)、技術習得度(30%)、作品完成度(40%)
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』(中央公論美術出版) 『ろくろ』(法政大学出版局 1979)、『漆碗百選』(光琳社出版 1975)
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(木工・彫刻)」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が油土による立体デッサンの方法、隠し蟻組の墨付けと仕口加工のについての指導を行う。
教員の履修経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP206P

講義名	④ 専門実習 I (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOBI 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOBI 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOBI 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOBI 芸術学部
講師	木村 奈保	KYOBI 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOBI 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>「インテリア・空間デザインコース」「ビジュアルデザインコース」「Cultureデザインコース」「文化財情報デザインコース」の各コースに所属し、デザインの専門性を身につける。コンセプトワーク、発想力、表現力、造形力、プレゼンテーションスキルなど、デザイナーにとって必須となる知識、技術を習得する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリア・空間デザインコース インテリアエレメントの機能や構造を学び、新たなデザインをおこなう。 ・ビジュアルデザインコース ビジュアルデザインに必要な諸要素としての写真やイラストレーションなどを用いて情報を編集し、コンセプトを可視化する方法を学ぶ。 ・Cultureデザインコース 人・もの・ことを考え、造形デザインを中心としたデザインワークを行なってゆく。生活環境・趣味・特技などが中心となって生活してゆく環境を観察し、商品計画やモノと人が関わるインタラクティブ、あったらいいなを考えてゆく。 ・文化財情報デザインコース 文化財の性質や構造を正しく理解し、その文化財を活用した展示構成や発信方法を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回/週 2 日</p> <p>課題は各コースによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インテリア・空間デザインコース ・住空間のデザイン ●ビジュアルデザインコース ・サービスデザイン ・エディトリアルデザイン ●Cultureデザインコース ・人・もの・ことのデザイン ・商品開発 ・アート造形 ●文化財情報デザインコース ・工芸館を使用した展示 <p>* 選択したコースによりスケジュールが異なります。</p>
成績評価	<p>授業態度、作品、プレゼンテーション内容によって総合的に評価する。</p> <p>* 評価方法はコースによって異なります。</p>
参考書 参考資料	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	道具・材料の取り扱い、整理整頓、後片づけに留意すること。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。 平素から街中や身の回りにある「デザイン」を意識し、情報を収集すること。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	<p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年</p> <p>東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年</p> <p>田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（28年間）</p> <p>杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。</p> <p>デザイン制作会社などの勤務経験を活かし、デザイナーに必要な知識、技術について教育する。</p>
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	④ 専門実習 I (漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	より専門的な加飾技法である蒔絵3技法及び螺鈿(青貝)について、経験に基づいた深い理解と技術の獲得を目標とする。前期よりも難易度の高い蒔絵・螺鈿技法であるが、作業を通じより高度な加飾技法の習得を目指す。 この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	1年次後期「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」において学んだ線描き蒔絵よりも、より高度である蒔絵の代表的な3技法(平蒔絵・高上蒔絵・研出蒔絵)及び螺鈿技法(薄貝の加工)を習得する。蒔絵では丸粉1号から10号程度や、梨子地粉など様々な粒度・形状の金銀粉を用いる。金属粉の違いによる作業工程や仕上げ方の違いを学ぶ。また、図案(神坂雪佳の狗子図をもとにしたもの)はあえて同一のものに設定しているが、素材による仕上げの違いがどのように変化として表れるかを確認する。螺鈿では厚さ0.1mm程のアフド貝を用いる。図案は課題として魚甲模様・七宝繋ぎ模様を設定する。その他自身で考案した図案も使用する。また、並行して作業に必要な道具の調整の方法も工程に応じて学習する。
授業計画 授業内容	全15週/週2日(遠藤:2日/週) 第1週 準備作業1: 本科目の概要説明 各技法置目作成 第2週 蒔絵作業1: 平蒔絵粉入れ 青貝作業1: 薄貝切り出し 第3週 蒔絵作業2: 平蒔絵固め、胴摺り、線描き粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 青貝作業2: 薄貝切り出し、貼り付け 第4週 蒔絵作業3: 平蒔絵固め、胴摺り 高蒔絵炭粉上げ研ぎ 青貝作業3: 薄貝切り出し、貼り付け 第5週 蒔絵作業4: 平蒔絵上摺り、仕上げ磨き 研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 青貝作業4: 括り 第6週 蒔絵作業5: 研ぎ出し蒔絵固め 蒔絵炭粉上げ研ぎ 青貝作業5: 中塗り 第7週 蒔絵作業6: 研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み 青貝作業6: 中塗り研ぎ 第8週 蒔絵作業7: 研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、再塗り込み 青貝作業7: 中塗り 第9週 蒔絵作業8: 研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、胴摺り 高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、胴摺り 青貝作業8: 中塗り研ぎ 第10週 蒔絵作業9: 研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 青貝作業9: 上塗り 第11週 蒔絵作業10: 研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 青貝作業10: 上塗り炭研ぎ 第12週 蒔絵作業11: 研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵固め 青貝作業11: 上塗り炭研ぎ、胴摺り 第13週 蒔絵作業12: 研ぎ出し蒔絵・高蒔絵固め研ぎ、胴摺り 青貝作業12: 上摺り、呂色磨き1回目 第14週 蒔絵作業13: 研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち粉入れ 青貝作業13: 上摺り、呂色磨き2回目 第15週 蒔絵作業14: 研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち固め、仕上げ磨き 青貝作業14: 上摺り、呂色磨き3回目 蒔絵・螺鈿作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 『漆塗りの技法書』誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習: 道具類の手入れ。蒔絵筆の状態確認、研ぎ炭・砥石の準備など。 復習: 道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。 必用に応じて作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	遠藤公誉: 京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員 三木表悦: 漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	④3 専門実習 I (陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
	2		
	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>1 明治期導入された西欧の化学的な陶磁器製造技術の基本的な知識とその調製法の習得を目標とする。磁器坯土を用いた、ろくろ成形技法の習得と、土石釉薬を用いた陶磁器製造技法、いっちゃん技法を用いた高火度交趾焼技法・色絵金彩金襴手技法の習得を目標とする。</p> <p>2 オブジェ制作においてやや発展的な造形物を制作する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 土石合わせ釉薬を用いた高火度陶磁器技術について実習する。磁器坯土を用いた『五寸皿』ろくろ基礎成形技法・白土坯土を用いた『一輪挿し』ろくろ基礎成形技法を学ぶ。</p> <p>2 各自で独自のテーマを決めオブジェを制作する。多くの資料を集め取材、構想を練り、テーマを決定する。検討会にて発表、意見交換しブラッシュアップする。その後、試作、本制作へとすめ、完成したオブジェを皆で再び検討する。</p> <p>3 いっちゃん・高火度交趾の加飾技法及び、色絵金彩金襴手技法を習得する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分</p> <p>第1週 課題説明・ロクロ成形(磁器五寸皿：道具作り/水挽き)</p> <p>第2週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：水挽き</p> <p>第3週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：水挽き</p> <p>第4週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：削り</p> <p>第5週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：削り 素焼焼成実習</p> <p>第6週 成形実習(ロクロ成形磁器一輪挿し)：道具作成/水挽き</p> <p>第7週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：水挽き</p> <p>第8週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：水挽き</p> <p>第9週 成形実習(ロクロ成形磁器一輪挿し)：削り</p> <p>第10週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：削り 素焼・施釉・本焼焼成実習(OF)</p> <p>川尻担当分</p> <p>第1週 オブジェ表現について座学</p> <p>第2週 作品テーマの取材</p> <p>第3週～6週 マケットの制作</p> <p>第4週～10週 本制作</p> <p>小野担当分</p> <p>第11週 加飾実習(五寸皿)いっちゃん技法 素焼焼成(OF)</p> <p>第12週 加飾実習(五寸皿)高火度(交趾)彩色技法 本焼焼成(OF)</p> <p>第13週 加飾実習(一輪挿し)：骨書・赤巻 上絵焼成実習(OF)</p> <p>第14週 加飾実習(一輪挿し)：色絵金彩・金襴手技法 上絵焼成実習(OF)</p> <p>第15週 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『日本陶磁大系』(平凡社) 『やきものと釉薬—基本的な考え方』(理工学社) その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	美術工芸書籍により明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経歴	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰 陶芸家・美術家としての経験を活かして、学生に技法を伝授する。
教員の実務経歴有無	有
科目ナンバリング	

講義名	④ 専門実習Ⅰ(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種道具(印刀・丸刀・鑿)の使用法、研ぎ方の習得を深める。 挽物の基本的な技法を習得する。 小箱制作の手法を習得する。 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻を通して構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標にする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な立体彫刻制作に取り組む。伝統彫刻技法を駆使しながら木彫刻の基本造形となる古典をモデルとした課題をデッサン、作図、彫刻見本となるモデリングを油土で製作しそれを元にして鑿で荒彫り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 反復練習を通して、隠蟻組の加工精度を上げた後に小箱の制作を行う。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。挽物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。またこれらに使用する道具と機械の仕組みを理解し道具の製作や機械の保守も合わせて学ぶ。これらの工程を学びながら常に工芸の本道を見失わない心を育てていく。本授業では挽物の基本的な技法を習得する事を目標とする。また器物の制作を通して指物との共通点や相違点を考察し、器物と人との関わり合いの認識を深める事を目的とする。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週・オリエンテーション(彫刻課題説明) ・拭漆についての説明</p> <p>第2週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・拭漆練習</p> <p>第3週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱制作①(仕口加工)</p> <p>第4週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写 ・小箱制作②(仕口加工)</p> <p>第5週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・小箱制作③(仕口加工)</p> <p>第6週・木彫刻の木取り、荒取り工程 ・小箱制作④(仕口加工)</p> <p>第7週・木彫刻の荒取り工程 ・小箱制作⑤(仕口加工)</p> <p>第8週・木彫刻の荒取り工程 ・小箱制作⑥(仮組)</p> <p>第9週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・小箱制作⑦(底板加工)</p> <p>第10週・木彫刻の中取り工程 ・小箱制作⑧(蓋加工)</p> <p>第11週・木彫刻の中取り工程 ・小箱制作⑨(組立)</p> <p>第12週・木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・小箱制作⑩(仕上)</p> <p>第13週・木彫刻の中取り工程、小造り行程 ・挽物①</p> <p>第14週・木彫刻の小造り行程、仕上げ彫り工程 ・挽物②</p> <p>第15週・木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ、講評・総括</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度(30%)、技術習得度(30%)、作品完成度(40%)
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』(中央公論美術出版) 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』(光村推古書院 1972)
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日で行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が立体彫刻、指物による小箱制作のために必要な技術の指導を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP207P

講義名	④ 専門実習Ⅱ (デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOBI 芸術学部
教授	中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOBI 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOBI 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>4コースにそれぞれにおける課題において、企画・立案する力を身につける。実践的な表現方法を学び、デザインプロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。</p> <p>この科目は、DP1-1～4に該当する。</p>
授業概要	<p>本授業は、4コース別に課題を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアルデザインコース（グラフィックデザイン/ブランディングデザイン） 架空の複合的なサービスを提供する施設（飲食店、ホテルなど）を想定し、広告、グラフィックルールなどのディレクションおよびデザインをおこなう。また視覚的な要素を通して対象とする施設におけるサービス全体のデザインを総合的にデザインする。 ・インテリア・空間デザインコース（店舗デザイン/インテリアデザイン） インテリア空間デザインコースでは、各自が架空の複合的なサービスを提供するブランドの一つを選び、そのブランディングから店舗設計までを通して行うことで、実社会における空間デザインの流れを体験することを目的とする。 <p>cultureデザイン（プロモーション1.2） 文化財情報デザイン（文化財の調査） 3回生前半では各コースに分かれて専門的な内容を指導してゆく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Culture デザインコースでは課題設定をセレクト方式にし、6～7課題の中から最低2課題を実制作する。それぞれの実力に合わせて15週の時間枠の中で多くの課題をこなすことも可能とし、就職活動に向けたポートフォリオ作りに必要な課題を一つでも多く制作できるように設定してゆく。 ・文化財情報デザイン（文化財調査）では寺院内の蔵の調査を実施する。調書の書き方から目録化までを一連に学ぶことで保存調査の手法を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回/週 2 日</p> <p>*4コースによって課題が異なります。 各コースの授業計画に従って受講してください。</p>
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅰ (デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	<p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 古閑謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事。大阪府来迎寺の毘沙門天立像など多数。 杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。建築設計、インテリア設計などの職務経験あり。 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の職務経験（28年間） 本授業はプロダクトデザイナーの経験値を活かした授業である。デザインの基本である外部発注するための基礎を実演を通して行っていく。</p>
教員の職務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

講義名	④ 専門実習Ⅱ (漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>漆芸の伝統的な技法の習得とともに、その活用方法と、現代生活へのアプローチを考える基礎を学ぶ。また素材技法を研究し、自らが作るモノの芯をしっかりと固め卒業制作に取り組む基本的な姿勢を習得する。</p> <p>この科目は DPO-1、DPO-2、DPO-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>専門実習Ⅱ・Ⅲと連携して「用が生み出す美」と「必ずしも用を必要としない美」の2作品をテーマとして制作をする。どちらから取り組むかは教員との相談の上決定。</p> <p>素材・造形技法・表現技法ともに基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法を取り入れる。(伝統的技法 乾漆・積層・髹胎・曲輪・指物・轆轤・割物など) また、個々の課題以外にもメンバーでの共同制作にも取り組むことで PDCA および 5W3Hを認識し、ものづくりを如何にマネジメントするか身に着ける。 その一環として素材・道具の自己調達や研究、作品についてのプレゼンテーションについても積極的に に行い毎週、実習時間内にミーティングを行い情報交換をする。 必要に応じて適宜小テストを実施する。</p> <p>授業計画記載の制作物以外にも、進度に応じて授業内容に必要と思われる作品制作を指示する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週2日 第1週 科目の概要説明 アイデア抽出 (目的の明確化) (現状の把握) 第2週 アイデア抽出 (想定・仮説展開) (改善プラン) 第3週 アイデア発想 (アイデアの絞り込み) (結論と計画案の作成) (設計図面) 第4週 プレゼンテーション 技法指導 第5週 例) 乾漆造形の場合成形(削り・捻造など) 第6週 成形(削り・捻造仕上げ)・離型剤処理・漆塗り 第7週 下地工程 第8週 布貼1回目(布目揃え・目摺り錆は予習復習時間内に取り組む)・布貼2回目 第9週 布貼3回目・布貼4回目 第10週 布貼5回目・下地工程 第11週 下地工程・脱型 第12週 漆塗工程 第13週 漆塗工程 第14週 漆塗工程 第15週 総括</p>
成績評価	<p>アイデア抽出・デザイン力30%、制作物(技術の習得度・材料の理解度)40%、授業態度(協働力、学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを含む)30% 場合により、小テスト(実技・筆記)を実施する。</p>
教科書	なし 必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆 その科学と実技』理工出版社
履修上の注意	<p>製作に必要な素材、道具などは必要に応じて各自調達とします。</p> <p>①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートに写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する</p> <p>その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む</p>
予習・復習指導	<p>予習: 道具の手直し。次の作業目的にあった道具の状態に準備する。必要な素材・道具の調達。スケッチや文字によるアイデア抽出作業。デザインを確認するためのモデルの制作など授業時間を無駄にしないための準備を行う</p> <p>復習: 道具類の手入れ。いつでも作業できるように基本的なメンテナンスをする。遅れている作業がある場合には次の実習までに放課後等を利用して作業を進める。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。</p> <p>また素材の特性上、乾燥硬化の時間を考え、授業時間外に必要に応じて作業を行い計画に遅れが出ないように取り組むこと。</p> <p>1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「造形基礎演習Ⅱ」「専門実習Ⅰ」「立体造形(工芸)」「造形芸術論」「造形材料論」「京都学演習Ⅰ(工芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに授業時間内に講評、質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の業務経験	三木表悦: 漆工芸作家、表悦工房・啓業工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉: 京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法について教授する。
教員の業務経験の有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

講義名	④ 専門実習Ⅱ (陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>1 中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術及び、耐熱素地を用いた中火度陶器の製造技術について、技術的な習得を目的とする。文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、色釉陶器の特質を理解し、さらにこれら素材を用いた加飾技術習得を目標とする。</p> <p>2 独自の技法や表現を考案し、オブジェ作品を完成させる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 伝統釉(灰釉と土石釉)・新種釉を調製し、文化財として継承されている陶磁器の比較検討を行う。耐火粘土坯土を用いた土鍋のろくろ技術及び、市販無鉛フリットを用いた中火度陶器技術、印花を用いた加飾技術の実習を行う。</p> <p>2 独自の発想による新しい技法や表現を考案し、そのよう要素を用いたオブジェ作品を制作する。素地、釉薬、顔料、用途、コンセプト、など作品構成要素の中で興味のある分野について新しいアイデアを考案する。実験、試作を繰り返し、最終的に作品にフィードバックさせ作品を完成させる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分 第1週 課題説明：テストピースの作成 第2週 テストピースの作成 第3週 伝統釉・新種釉の調合 第4週 伝統釉・新種釉の調合 第5週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第6週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第7週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第8週 伝統釉・新種釉の施釉 本焼焼成実習(OF) 第9週 伝統釉・新種釉の施釉 本焼焼成実習(RF) 第10週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：道具作り 印花作り 第11週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：水挽き 練習 第12週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：水挽き 本番 第13週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：削り 仕上げ(取手付け・印花装飾) 第14週 土鍋の素焼・施釉・本焼(中火度焼成実習(OF) テストピース整理 第15週 土鍋 伝統釉・新種釉テストピースの講評 川尻担当分 第1週 制作についてのミーティング 第2週～第5週 実験、試作 第6週～第14週 本制作 第15週 講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(釉薬実験を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『釉調合の基本(改訂版)』(加藤悦三著)窯技社 必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせてるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内展覧会出品多数 陶芸家・美術家としての経験を活かして、学生に技法を伝授する。 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京楽摩作作家として活動する。空女工房主宰
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	④ 専門実習Ⅱ(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・櫛制作の全体過程を習得する。 ・より高度で専門的な拭漆の技法を習得する。 ・木の特性について理解を深める。 ・専門実習Ⅰ(木工・彫刻)で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻を通して、構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに学んだ技術をベースに指物作品を制作する。制作する作品は小棚とし、図面引き、木取りを通して、板材から作品となるまでの全体過程を習得する。完成した作品には仕上げとして、拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。 ・本格的な彫刻制作に取り組む。古典彫刻をモデルとして木彫刻作品を完成させる。伝統彫刻技法を駆使しながら仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を制作する上で、どの木材が制作する作品に適切か研究し決める。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週・オリエンテーション(課題説明) ・小棚作品考案・図面作成</p> <p>第2週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・割り付け</p> <p>第3週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・木取り</p> <p>第4週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・木作り①(鉋掛け)</p> <p>第5週・木彫刻の荒取り工程 ・木作り②(寸法切り)</p> <p>第6週・木彫刻の荒取り工程 ・仕口加工①</p> <p>第7週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・仕口加工②</p> <p>第8週・木彫刻の中取り工程 ・仕口加工③</p> <p>第9週・木彫刻の中取り工程 ・仕口加工④</p> <p>第10週・木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・仮組・部材調整 成形①</p> <p>第11週・木彫刻の小造り行程 ・仮組・部材調整 成形②</p> <p>第12週・木彫刻の小造り行程 ・本組</p> <p>第13週・木彫刻の小造り行程、仕上げ彫り工程 ・面取り</p> <p>第14週・木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ ・仕上げ</p> <p>第15週・組上げ 合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度(30%)、技術習得度(30%)、作品完成度(40%)
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『図解木工の継手と仕口』(理工学社 1987) 丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』(中央公論美術出版) 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』(光村推古書院 1972)
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味のよい状態で課題に入れるように準備しておく。古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ(木工・彫刻)」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経歴	宮本貞治：重要無形文化財(木工芸)保持者/日本工芸会正会員 青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 美術工芸家としての実務経験を活かし、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。
教員の実務経歴有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

講義名	④ 専門実習Ⅲ(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
教授	中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>4コースにそれぞれにおける課題において、以下の内容を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な市場調査を体験し、情報収集力や分析力を身につける。 ・企画・立案する力を身につける。 ・デザイン開発プロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>本授業は、4コース別に課題を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアルデザインコース（ビジュアルデザイン/表現のベクトル展） 「表現のベクトル展」に出展する作品制作およびプロジェクトの実施をおこなう。各自でベクトル展のテーマに沿った課題の発見もしくは設定をし、展示を前提とした作品形態を考慮して制作を進める。 ・インテリア・空間デザインコース（空間デザイン/表現のベクトル展） 表現のベクトル展への出展を目標に、3年前期までに培った表現力をさらに伸ばす作品づくりを行う。また、個々で課題を見つけ解決する力を養うための制作指導をしている。 Cultureデザイン（プロダクト/表現のベクトル展） 文化財情報デザイン（文化財情報/表現のベクトル展） *表現のベクトル展はブレ卒業制作と位置づけ展示発表機会を設ける。 課題は各コース共通課題を設定し、それぞれのコースの指導教員のもとコースの特色が出るよう指導を行なっていく。 ・cultureデザインでは立体造形を中心に、3回生前半までに学んできた造形の考え方を踏襲していく。コース独自のセンスを磨き上げることを目標とする。本授業でデザインされた内容を基礎基盤とし、4年生で行う卒業制作ではさらに本授業の内容をブラッシュアップし、より深い研究内容を表現できるよう課題制作を行なってゆく。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回/週 2 日</p> <p>*4コース共通課題。 ベクトル展（卒業制作と開催同時期）に向けた作品を共通の課題を通して制作する。 各コースの考え方を共通課題に反映させ、課題に取り組む。</p> <p>成果物は各コースで選抜し、選ばれた学生の作品をベクトル展へ出展する。</p> <p>週2日、計15回授業×2、30回の時間を使って制作を行う。</p>
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅱ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経歴	<p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 古閑謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事。大阪府来迎寺の毘沙門天立像など多数。 杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。建築設計、インテリア設計などの職務経験あり。 田中正流：行政・大学・寺院など岐にわたる博物館にて学芸員の職務経験（28年間） 本授業はプロダクトデザイナーの経験値を活かした授業である。デザインの基本である外部発注するための基礎を実演を通して行っていく。</p>
教員の職務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

講義名	④ 専門実習Ⅲ(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>専門実習Ⅱを引継ぎ、作品の完成を目指す。その過程で、自らの創作の方向性を見極めるとともに社会のニーズを意識し、より高いクオリティの習得とその表現を目指す。</p> <p>この科目は DPO-1、DPO-2、DPO-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>専門実習Ⅱに続き「用が生み出す美」と「かならずしも用を必要としない美」の2作品をテーマとして制作をする。</p> <p>専門実習Ⅱで取り組んだ課題と別の視点から取り組む</p> <p>素材・造形技法・表現技法ともに基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法を取り入れる。(伝統的加飾技法 蒔絵・漆絵・蒔器・沈金・彫漆・螺鈿など)</p> <p>また、個々の課題以外にもメンバーでの共同制作にも取り組むことで PDCA および 5W3Hを認識し、ものづくりを如何にマネジメントするか身に着ける。</p> <p>その一環として素材・道具の自己調達や研究、作品についてのプレゼンテーションについても積極的に に行い毎週、実習時間内にミーティングを行い情報交換をする。</p> <p>必要に応じて適宜小テストを実施する。</p> <p>授業計画記載の制作物以外にも、進度に応じて授業内容に必要なと思われる作品制作を指示する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週2日</p> <p>第1週 本科目の概要説明 作品制作進行進捗プレゼンテーション 専門実習Ⅱ(漆芸)のプランを継承しつつ改善案の検討</p> <p>第2週 塗装・加飾計画の検討及び情報共有：素地過程の継続1</p> <p>第3週 手板による仕上げの試作実験1：素地過程の継続2</p> <p>第4週 手板による仕上げの試作実験2：素地過程の継続3</p> <p>第5週 手板による仕上げの試作実験3：素地過程の継続4</p> <p>第6週 手板による仕上げの試作実験4：素地過程の継続5</p> <p>第7週 手板による仕上げの試作実験5：素地過程の継続6</p> <p>第8週 加飾(仕上げ)計画最終決定・展覧会出品計画等の検討</p> <p>第9週 加飾1</p> <p>第10週 加飾2</p> <p>第11週 加飾3</p> <p>第12週 加飾4</p> <p>第13週 加飾5</p> <p>第14週 加飾6</p> <p>第15週 合評 総括</p>
成績評価	<p>アイデア抽出・デザイン力30%、制作物(技術の習得度・材料の理解度)40%、授業態度(協働力、学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを含む)30%</p> <p>場合により、展覧会への出品を課題の一環とする</p>
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』I～IV社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆 その科学と実技』理工出版社
履修上の注意	<p>製作に必要な素材、道具などは必要に応じて各自調達とします。</p> <p>①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノート写真を取り、まとめポートフォリオを作成する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する</p> <p>その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む</p>
予習・復習指導	<p>予習：道具の手直し。次の作業目的にあった道具の状態に準備する。必要な素材・道具の調達。スケッチや文字によるアイデア抽出作業。デザインを確認するためのモデルの制作など授業時間を無駄にしないための準備を行う</p> <p>復習：道具類の手入れ。いつでも作業できるように基本的なメンテナンスをする。遅れている作業がある場合には次回の実習までに放課後等を利用して作業を進める。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。</p> <p>また素材の特性上、乾燥硬化の時間を考え、授業時間外に必要な作業を行い計画に遅れが出ないように取り組むこと。</p> <p>1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「造形基礎演習Ⅱ」「専門実習Ⅰ」「専門実習Ⅱ」「立体造形(工芸)」「造形芸術論」「造形材料論」「京都学演習Ⅰ(工芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに授業時間内に講評、質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の業務経歴	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓蒙工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法について教授する。
教員の業務経歴有無	有
科目ナンバリング	ADC-SF309P

講義名	④5 専門実習Ⅲ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>1 陶磁器の特質を理解していくとともに、石膏型成形技法を習得する事。また、中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術の習得を目的とする。</p> <p>2 作品における「社会との関係性」について考察し、その意義を有する作品を完成させる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 陶磁器坯土を用いた高火度陶磁器の製造技術として、複雑な形状の石膏型成形技法（押し型・鑄込み型）の実習を行う。また、高度なるろくろ技術を習得するために急須の製作を行う。</p> <p>2 芸術作品は今日、社会とのかかわりを持つことが強く求められている。社会的メッセージを持つ作品の制作を試み、検証する。各自テーマを設定し、検討会を繰り返し、社会の諸問題と美術作品との関わりについて皆で話し合う。それをもとにテーマを決定、作品プランを練り、試作、本制作とすすめてゆく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分</p> <p>第1週 成形実習(押し型成形[蓋物])：図面作成・石膏型作成 第2週 成形実習(押し型成形[蓋物])：石膏型作成 第3週 成形実習(押し型成形[蓋物])：押し型成型 第4週 成形実習(押し型成形[蓋物])：削り仕上げ 素焼焼成実習(OF) 第5週 成形実習(押し型成形[蓋物])：施釉・本焼焼成実習(OF) 第6週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：図面作成・石膏型作成 第7週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：石膏型作成 第8週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：鑄込み成型 第9週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：削り仕上げ 素焼焼成実習(OF) 第10週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：施釉・本焼焼成実習(OF) 第11週 成形実習(ろくろ成形[急須])：道具作り 第12週 成形実習(ろくろ成形[急須])：水挽き 第13週 成形実習(ろくろ成形[急須])：削り 仕上げ(注ぎ口・取手・蓋) 素焼焼成実習(OF) 第14週 成形実習(ろくろ成形[急須])：施釉・本焼焼成実習(OF) 第15週 蓋物・透光性花器・急須の講評</p> <p>川尻担当分</p> <p>第1週 メッセージを持つ作品についての考察 第2週～3週 各自で取材 テーマ決定 第3週～14週 本制作 検討会 第15週 講評 意見交換会</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(釉薬実験資料を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『釉調合の基本(改訂版)』(加藤悦三著)窯技社 必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 予習・復習指導 関連科目 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 陶芸家・美術家としての経験を活かして、学生に技法を伝授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	④ 専門実習Ⅲ(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOBUI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBUI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBUI 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOBUI 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子・テーブルの構造について理解する。 ・より高度で精密な加工技術を得得する。 ・塗装技法をより向上させる。 ・専門実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ彫刻技法に基づく木彫刻造形の実術表現及び彫刻技法の習得を目標とする。 ・自由課題を通して、木彫刻造形を一つの作品としてまとめる、全体的な構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子を制作する。複数の椅子のデザイン計画、設計をした上で、1/5 サイズで模型を制作するなどしてそれぞれの寸法の妥当性を検討する。作品としての問題点を抽出し、解決に向けての模索を通しより良い作品を制作するセンスを養う。その後、原寸サイズの椅子の制作を行い、より複雑な木工立体加工技術を修得する。 ・木彫刻造形である仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を作図する。見本となるモデリングを木彫りのための立体デッサンとして油土で制作し、どの木材が適切かを選択し造形のプランを完成させ木彫作品を制作する。
授業計画 授業内容	<p>全 15 週</p> <p>第 1 週・オリエンテーション(課題説明)自由課題の作図 ・椅子作品考案・図面作成</p> <p>第 2 週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・割り付け・木取り・小割・木作り(鉋がけ等) 木作り①(鉋がけ・寸法切り)</p> <p>第 3 週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・木作り②(鉋がけ・寸法切り) 木作り③(鉋がけ・寸法切り)</p> <p>第 4 週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工①</p> <p>第 5 週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工②</p> <p>第 6 週・自由課題の作品制作・材への作図の転写木取り、木彫刻の荒取り工程 ・仕口加工③</p> <p>第 7 週・木彫刻の荒取り工程 ・仮組・部材調整</p> <p>第 8 週・木彫刻の荒取り工程 ・成形、仕上げ①</p> <p>第 9 週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・成形、仕上げ②</p> <p>第 10 週・木彫刻の中取り工程 ・成形、仕上げ③</p> <p>第 11 週・木彫刻の小造り行程 ・成形、仕上げ④</p> <p>第 12 週・木彫刻の小造り行程 ・組上げ、調整接着①</p> <p>第 13 週・木彫刻の小造り行程、仕上げ彫り工程 ・組上げ、調整接着②</p> <p>第 14 週・木彫刻の仕上げ彫り工程から完成へ ・塗装</p> <p>第 15 週・最終調整・合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度(30%)、技術習得度(30%)、作品完成度(40%)
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『椅子と日本人のからだ』(矢田部英正 晶文社 2003)、『1000chairs』(Taschen America2000) 『日本の木の椅子』(商店建築社 1996) 丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』(中央公論美術出版) 近藤登著 『古建築装飾工棟集成 草木編・鳥獸編・風月編』(光村推古書院 1972)
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味のよい状態で課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(木工・彫刻)」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講師・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	宮本貞治：重要無形文化財(木工芸)保持者/日本工芸会正会員 青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

講義名	④ プロジェクト演習 I		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上 この科目は、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 数テーマに分かれて実施、専門コースを問わない学科内の横断的な演習授業とする。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。(連携先：京都市交通局) 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。(主催：京都中央信用金庫) 「金属素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所(金属加工会社)さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイナーの作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家(ニッポン画家)の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要スキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、コンセプトの立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。
成績評価	授業態度 (30%)、作品 (50%)、プレゼンテーション内容 (20%) によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の家をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し1時間の事前学習をすること
関連科目	「専門実習 I (デザイン)」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家(ニッポン画家)の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要スキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP310S

講義名	④ プロジェクト演習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBi 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBi 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBi 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBi 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBi 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOBi 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOBi 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBi 芸術学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4に該当する。
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 数テーマに分かれて実施、専門コースを問わない学科内の横断的な演習授業とする。
授業計画 授業内容	<p>全 15 日/週 1 日</p> <p>第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション</p> <p>過年度の事例</p> <p>「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美犬が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。</p> <p>「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。(連携先：京都市交通局)</p> <p>「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。(主催：京都中央信用金庫)</p> <p>「金鳳素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所(金鳳加工会社)さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。</p> <p>中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計と件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家(ニッポン画家)の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要スキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、プランニング、グラフィックデザインにおける与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究委員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。 銀取健司：現代アーティスト(エトリケンジ)活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。</p>
成績評価	授業態度(30%)、作品(50%)、プレゼンテーション内容(20%)によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ(デザイン)」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家(ニッポン画家) 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究委員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年 銀取健司：現代アーティスト(エトリケンジ)活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP311S

講義名	④ プロジェクト演習Ⅲ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBI 芸術学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4に該当する。
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。
授業計画 授業内容	全15日/週1日 第1週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第2週 オリエンテーション 第3週 ~第6週 アイデアの具現化 第7週 中間発表 第8週 アイデア修正 第9週 ~第14週 実制作 第15週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「カフェの食器開発プロジェクト」 東山キャンパスの近くに新規開店するカフェの食器を四季をテーマに企画デザインし実制作する。 (連携先：株式会社灰孝本店) 「きものデザインコンペ」 京都市内の学生を対象に、京都の基幹産業である和装の振興、人材育成及び学生のまち京都の推進寄与することを目的としたコンペティション。(連携先：京都産業会館) 「東山花灯路プロジェクト」 大谷祖廟参道(円山公園南)の「大学の街京都・伝統の灯り展」に灯りのオブジェを出展する。 (連携先：京都東山花灯路実行委員会) 「七条通スタンブラリー&アートフェスタ」 七条通沿いのイベント参加店舗や施設内にアート作品を展示する。 (連携先：七条通商店街振興組合) 「金属素材を用いた商品開発」 金属素材：鉄、銅、ステンレス、アルミを使用した商品開発を行う。実制作としては図面、模型を作成しプレゼンテーションを行い、本製作をタイアップ企業にて実制作を行なってもらう。 (連携先：有限会社小林製作所) 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計と件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家(ニッポン画家)の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要スキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部研究会会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。 館取健司：現代アーティスト(エトリケンジ)活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	専門実習Ⅲ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	プロジェクトごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家(ニッポン画家) 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部研究会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年 館取健司：現代アーティスト(エトリケンジ)活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP312S

講義名	⑨ 卒業制作研究(ゼミ)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	津村 健一	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 卒業制作に向けて制作根拠となりうる研究を行う。 研究仮説を明確化し調査対象を定め計画を立てる。 資料や対象物の調査を行い分析し整理する。 整理をもとに卒業制作の課題の意義やテーマを構築する。 <p>この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>本授業は後期の「卒業制作」のための研究と位置づけ、各自で設定したテーマをどのように論拠することができるかを研究、検討する。これまでに学んできた演習や実習内容をさらに発展させ、市場やユーザー調査を実施して制作視点および根拠をしっかりと組み立てる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全 15 回 (以下一般的なプロセスを示す。)</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 研究仮説の検討 第 3 週 研究計画の策定 第 4 週 調査 第 5 週 調査 第 6 週 調査 第 7 週 進捗発表 第 8 週 分析 第 9 週 分析 第 10 週 分析 第 11 週 研究のまとめ 第 12 週 研究のまとめ 第 13 週 試作、表現 第 14 週 試作、表現 第 15 週 研究発表</p> <p>* 進捗報告、発表等、デザイン・工芸学科 2023年度 卒業制作スケジュールに従う。 * 令和5年度 京都美術工芸大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 2023年度 卒業制作要領に従う。</p> <p>中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、研究指導を行う。特にデザインサーベイを中心に得られる問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等からビジュアルデザインへアウトプットするプロセスを指導する。 津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、国立新美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館（フランス）等で作品を多数発表した実績をもとに、研究指導を行う。個人の志向を活かした作品をアートへ昇華するための研究や実験的作業について指導する。 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年の実績をもとに研究指導を行う。主に個人の内面から発する自由な着眼点、発想の導き方等について指導する。 岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに研究指導する。 東俊一郎：建築・インテリア設計事務所等における実務歴8年（日本・スペイン）、海外大学でのインテリアデザイン指導歴10年（メキシコ）の教育経験をもとに、色彩を活用したインテリア空間の研究指導を行う。主にインテリア空間における問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等から空間デザインへアウトプットするプロセスを指導する。 杉山英知：建築事務所勤務歴6年 一級建築士事務所 主宰12年、資格学校講師歴12年の実績をもとに、研究指導を行う。主に都市空間や建築空間における問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等から空間デザインへアウトプットするプロセスを指導する。</p>
成績評価	調査、分析 70%、まとめ、発表内容 30%（作品および試作を含む）を総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。 他大学および本大学過年度卒業制作作品集
履修上の注意	仮説、調査、分析、まとめ、試作、作品等の作業に取り組むこと。
予習・復習指導	他大の卒業制作展の視察を十分に行っておくこと。 1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること
関連科目	専門実習Ⅲ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	プロセスおよび報告時に適宜評価内容を伝達する。 研究成果を公開する。
教員の実務経験	<p>詳細は授業内容に記載済</p> <p>中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、国立新美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館（フランス）等で作品を多数発表。 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰11年、資格学校講師歴12年</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	⑨ 卒業制作研究(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	各自が独自にテーマを定め、調査、分析、研究に基づき構想し漆もしくは漆工技術を活用して作品製作や、価値観の創造に取り組むことを通じて、幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。 この科目は DP0-1、DP0-2、DP0-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	漆は日本の伝統工芸の中で、世界から特に注目を浴びてきた素材である。また環境負荷が少ない素材として現在も新たな視点で注目を集めている。本講義では伝統と可能性を兼ね備えた漆を、学生自身の感性と社会との接続点を探る大切な機会である。前期研究期間に、卒業制作をしっかりと見据え学生各自がそれぞれの視点でテーマを見出し調査研究する。テーマの選定にあたっては、さまざまな視点から候補を挙げ、その制作に必要な情報収集、分析、技術習得、修練に取り組む。また国際的な発信と同時に学生自身の持つ個性と日本文化をはぐくむ地域性をしっかりと理解する重要な講義となる。
授業計画 授業内容	全15週/週2日 第1週 卒制について：概要説明、研究の方向性の選択、テーマ（仮）の発表 第2週 研究計画発表・検討 第3週 研究プラン試案決定 第4週 卒業制作研究1 第5週 卒業制作研究2 第6週 卒業制作研究3 第7週 卒業制作研究4 第8週 卒業制作研究5 第9週 卒業制作研究6 第10週 卒業制作研究7 第11週 卒業制作研究8 第12週 卒業制作研究9 第13週 卒業制作研究10 第14週 卒業制作研究11 第15週 卒業制作研究12：研究発表：総括
成績評価	調査成果40%、制作物(試作/技術習得度含)40%、授業態度(授業内での学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッション、指導陣との積極的情報共有などを含む) 20%
教科書	特に指定しない、適宜資料を配付する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』 至文堂/『漆塗りの技法書』 誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』 光芸出版/『漆その科学と実技』 理工出版社
履修上の注意	①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む
予習・復習指導	1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 工芸美術に関する情報を各自が収集し感性の錬磨に努める。研究の中で技術もしくは材料の知識などの不足が見受けられる場合は、必ず習熟、復習し理解を深める。特に実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がける。
関連科目	伝統工芸概論、工芸概論、専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・造形芸術論、立体造形(工芸) 造形材料論 京都学演習Ⅰ(工芸)
課題に対するフィードバックの方法	各学生定めた研究課題を常に担当教員と意見交換をする。 定められた授業時間にディスカッション、実演、示唆などを行う。
教員の実務経験	三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓楽工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生にその制作に必要な情報収集、分析、技術習得、修練を教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	④ 卒業制作研究(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>現在、「陶」を主な素材とした芸術的表現は「工芸」としてのみならず、オブジェなどのアート表現、さらには現代美術として、多様に展開されている。 自身がどのようなスタンスで作品を創造するかという命題を深く考察し、制作テーマを設定する。 テーマをもとに、広く取材をし、資料を集め、制作意義を確認する。 試作を繰り返し、卒業制作における技法的な問題を解決する。</p> <p>この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>各自の卒業制作テーマのもと、研究を行い、マケットを制作、完成させる。</p> <p>1年という期間をかけて制作する作品であることを理解し、まずは広くテーマを模索する。メディア、展覧会、書籍など多くの取材をし、過去の自身の作品や指向も顧み、卒業制作のテーマを決定する。数回にわたる検討会を通して、自身のテーマをブラッシュアップし、必要があれば修正する。マケットの制作を反復し、技術的、造形的な問題点、あるいは新たに検討すべき点などを洗いだし、解決してゆく。反復制作によりイメージを確かなものに仕上げる。最終週にマケットの検討会を開催する。</p>
授業計画 授業内容	<p>授業計画 授業内容 全15週</p> <p>第1週 制作テーマの設定・ミーティング(担当職員と随時) 第2週 制作テーマ検討(考察・取材・実験) 第3週 制作テーマ検討(考察・取材・実験) 第4週 制作テーマ検討(考察・取材・実験) 第5週 制作テーマ検討(考察・取材・実験) 第6週 制作テーマ検討(考察・取材・実験) 第7週 マケット制作 第8週 マケット制作 第9週 マケット制作 第10週 マケット制作 第11週 マケット制作 第12週 マケット制作 プレゼンテーション 検討会 第13週 マケット制作 第14週 マケット制作 第15週 マケット作品講評・レポート提出(担当教員による評価)</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度40%・レポート完成度60%を基本とし総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	既存の工芸作品にとどまらず、音楽、舞台芸術、文学など広く取材を行うこと。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」「専門実習Ⅲ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内展覧会出品多数 陶芸家・美術家として学生に技法を伝授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	⑨ 卒業制作研究(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOB I 芸術学部
特任教授	宮本 真治	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸品に対する美意識をより深いものとする。 ・卒業作品の具体的な設計と材料の準備をする。 ・塗装技法をより向上させる。 ・自由藝術作品制作による木彫刻技法・木彫刻のプロセス（彫り進め方）について理解を深める。 ・適切な道具の使い方（適材適所での各道具の使用）に習熟する。 ・作品制作の構想（デッサン、作図、エスキース）を基に木材料の準備をする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4 に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに修得してきた三次元的な木工加工技術を用いて作品制作を行う。 ・そしてより工芸品に対する美的感覚を習得する。ここでは、「小さな空間に技と美を収斂する上で大切なことは何なのか」を作品制作を通して体得することを目標とする。 ・また同時に卒業作品の設計と使用する材料の乾燥養生を並行して行う。 ・これまでに学んだ仏像彫刻、木彫刻の造形技法の集大成として木彫刻を制作する。 ・木彫刻造形を自分の思う形に表現出来るように研究を進めコンセプトを考え制作する。 ・後期からの卒業制作に向けて材料の選択及び技法など卒業作品制作のプロセスを確立させる。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週：図面作成①（彫刻・指物・割物・挽物いずれも可） ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作</p> <p>第2週：板材への墨付け・木削作業 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作</p> <p>第3週：部材加工：鋸による粗取り ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第4週：部材加工：各部材の鉋がけ① ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第5週：部材加工：各部材の鉋がけ② ・荒取り工程</p> <p>第6週：部材加工：仕口加工① ・荒取り工程、中取り工程</p> <p>第7週：部材加工：仕口加工② ・中取り工程</p> <p>第8週：部材加工：仕口加工③ ・中取り工程</p> <p>第9週：卒業制作プレゼンテーション① ・中取り工程、小造り工程</p> <p>第10週：部材組立 ・小造り工程</p> <p>第11週：拭漆作業 ・小造り工程</p> <p>第12週：卒業制作設計図作成 ・小造り工程、仕上げ工程</p> <p>第13週：卒業制作プレゼンテーション② ・仕上げ工程</p> <p>第14週：拭漆作業 ・仕上げ工程</p> <p>第15週：全体講評 ・講評、卒業制作構想発表</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	木工大図鑑（講談社 2009） 太田古村著 『仏像彫刻技法』（綜芸舎 1965） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	<p>作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。</p> <p>古社寺や美術館を訪れて実際の木彫刻作品を見学するなど、課外学習を積極的に行なうことが望ましい。</p> <p>授業で木彫刻作品の作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。</p>
予習・復習指導	<p>1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p> <p>実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。</p> <p>1コマに対し1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「専門実習Ⅲ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 宮本真治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員 美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

講義名	⑤ 卒業制作・論文(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	津村 健一	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	4年間の総括として自身が定めたテーマに対し調査・研究を重ね、導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現(作品・論文)として発表する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	コミュニケーション力、発想力、表現力、フィニッシュワーク力という4年間の学びにより修得したデザイン力を駆使して独自の視点により問題提起し、オリジナルの手法による解決案を具現化して提示する。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回/週2日</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 卒業制作研究からのフィードバック考察 第 3 週 テーマ・コンセプト修正 第 4 週 設計 第 5 週 試作 第 6 週 試作 第 7 週 中間チェック 第 8 週 実制作 第 9 週 実制作 第 10 週 実制作 第 11 週 実制作 第 12 週 実制作 第 13 週 コンセプトパネルの制作 第 14 週 コンセプトパネルの制作 第 15 週 講評会 / 総括</p> <p>*進捗報告、発表等、デザイン・工芸学科 2024年度 卒業制作スケジュールに従う。 *令和6年度 京都美術工芸大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 2024年度 卒業制作要領に従う。</p> <p>中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績を活かした制作・論文の指導を行う。デザイン与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。 津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、国立新美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館(フランス)等で作品を多数発表。実績を活かした制作・論文の指導を行う。造形与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年の実績を活かした研究指導を行う。実務経験を活かした制作・論文の指導を行う。制作与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。 岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験(展覧会企画、収蔵資料研究などを担当)およびデザイン史研究の実績、加えてデザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、制作・論文の指導を行う。 東俊一郎：建築・インテリア設計事務所等における実務歴8年(日本・スペイン)、海外大学でのインテリアデザイン指導歴10年(メキシコ)の教育経験をもとに、色彩を活用したインテリア空間の制作・論文指導を行う。設計与件の整理、立案、デザイン案の制作、プレゼンテーションに加えて作品の完成度を上げる指導を行う。 杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰12年、資格学校講師歴12年。実績を活かした制作・論文の指導を行う。設計与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。</p>
成績評価	プロセスと最終成果物の完成度によって総合的に評価する。
教科書	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	各フェーズごとのチェックをスケジュール通り必ず受ける事。
予習・復習指導	1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすうこと
関連科目	卒業制作研究
課題に対するフィードバックの方法	各所属ゼミおよびコース内での講評・質疑応答。 卒業制作中間審査会、卒業制作コース事前審査、卒業制作審査会等における講評による。
教員の実務経験	<p>詳細は授業内容に記載済</p> <p>中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、国立新美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館(フランス)等で作品を多数発表。 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年(スペイン、国内) 大学施設技術職員歴4年 杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰11年、資格学校講師歴12年</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

講義名	⑤ 卒業制作・論文(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOBI 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>各自が設定したテーマに沿って独自の調査、分析、研究に基づき構想し漆を活用して作品制作に取り組むことを通じてつねに幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。</p> <p>この科目は DP0-1、DP0-2、DP0-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>学生各自が設定したテーマを、担当教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、事前に十分な討議を担当教員及び学生間でおこない、4年間で習得した工芸に関する知識や技術に基づき、作品制作とその発表に取り組む。</p> <p>漆という素材、漆芸技法、社会性、国際性、伝統、未来、環境、さまざまな視点が存在するなか、本卒業制作の作品は新たな社会と漆とののかかわりを生み出す可能性を秘めている。</p> <p>工芸とは何か？芸術は何か？文化とは何か？普段の学びの中で繰り返し自問してきた答えを、作品制作という形で結集する重要な機会でありこれまでに調査研究した内容と、これまでのカリキュラムや個々の学びの中で得た見識、取得した技の集大成である。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週3日</p> <p>第1週 オリエンテーション・卒業制作研究からのフィードバック考察</p> <p>第2週 テーマ・コンセプト修正/実制作</p> <p>第3週 実制作</p> <p>第4週 実制作</p> <p>第5週 実制作</p> <p>第6週 実制作・中間発表</p> <p>第7週 実制作</p> <p>第8週 実制作</p> <p>第9週 実制作</p> <p>第10週 実制作</p> <p>第11週 実制作</p> <p>第12週 発表資料準備・実制作</p> <p>第13週 発表資料準備・実制作</p> <p>第14週 発表資料準備・実制作</p> <p>第15週 合評会・総括</p>
成績評価	<p>本学での学びの集大成として、「素材」「技術」「社会性」「独自性」「伝統」「現代性」など様々な点から、テーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができているかを評価する。同時に、指導者及び学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを実践し、自己の主張と同時に他者との相互理解に寄与しているかも評価材料として重視する。</p>
教科書	なし
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはな』I～IV社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆 その科学と実技』理工出版社
履修上の注意	<p>①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う</p> <p>②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく</p> <p>③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する</p> <p>④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う</p> <p>⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する</p> <p>⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する</p> <p>⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う</p> <p>⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る</p> <p>⑨共同で取り組む内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む</p> <p>⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する</p> <p>その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む</p>
予習・復習指導	<p>1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p> <p>工芸美術に関する情報を各自が収集し、技術や感性の錬磨に努めること。</p> <p>実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がけること。</p>
関連科目	卒業制作研究(漆芸)
課題に対するフィードバックの方法	毎週授業時間内に提出物や作業計画などの情報共有を行い適宜講評を行う。
教員の実務経験	<p>三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓楽工房主宰 個展・グループ展等多数開催</p> <p>京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事</p> <p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員</p> <p>京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に工芸に関する知識や技術を教授する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

講義名	⑤ 卒業制作・論文(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOB I 芸術学部

到達目標	前期の卒業制作研究(陶芸)をふまえ、卒業作品を完成させることを目標とする。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。
授業概要	前期卒業制作研究で行った研究を基に、卒業制作を完成させる。 前期で制作したマケットをもとに、本制作を行う。技術的、造形的な問題点、あるいは検討すべき点などが新たに存在する場合は、実験や試行を繰り返し解決に導く。本制作においても複数の制作を行うことが望ましい。検討会においては、客観的な視点による指摘や意見をもとに、より作品の完成度を高めてゆく。また展示空間や展示方法においても多くの考察や検討が必要であり、そのため多くの展示会に出かけ展示の取材を行うと共に、展示方法のための検討会を開催し、意見を交換する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週 卒業制作研究で決定したテーマに基づき実施計画の発表および制作 第2週 卒業作品制作 第3週 卒業作品制作 第4週 卒業作品制作 第5週 卒業作品制作 第6週 卒業作品制作 第7週 卒業作品制作 途中検討会(複数回開催) 第8週 卒業作品制作 第9週 卒業作品制作 第10週 卒業作品制作 第11週 卒業作品制作 第12週 卒業作品制作 プレゼンテーション 第13週 卒業作品制作 第14週 卒業作品制作 第15週 卒業作品提出(担当教員による評価) ※卒業制作到達目標の状況に応じて、適宜内容および卒業制作手順を調整する場合がある。
成績評価	授業態度40%・作品完成度60%を基本とし総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	試作品の製作や検討のための実験をせずにいきなり本制作を行うことは、完成度が著しく低い作品になるため、認めません。 作品完成に向けて時間の配分を十分に考慮すること。
予習・復習指導	実習1コマに対して2時間の復習をすること。
関連科目	「卒業制作研究(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内外展示会出品多数 陶芸家・美術家としての経験を学生に伝え、技法を伝授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

講義名	⑤0 卒業制作・論文(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の総括として各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計制作する。自身が導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現として発表する。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。 ・これまでの実習で積み重ねて修得した彫刻技術、自由芸術作品を完成させる。木彫刻が古来引き継がれてきた造形技法を元に自らが持つ感性や表現力で作品にどのように活かせるか目指しながら学び制作し仕上げる。 <p>この科目は、DP1-1~4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学生各自がテーマを設定し、教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教員及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通して習得した木工・彫刻に関する知識や技術に基づき、木工・彫刻分野の卒業制作に相応しい課題を選定する。卒業制作研究で得られた経験を活かし、指物、割物、挽物、彫刻等の基本的な木工技法のみならず、象嵌、木函、曲木等様々な技法を駆使し、新たな木工、彫刻作品の制作を目指す。 ・卒業制作研究(木工・彫刻)で材料の選択及び彫刻技法を習得し卒業作品制作のプロセスを研究して確立させ作品を制作をする。
授業計画 授業内容	<p>全15回/週2日</p> <p>第1週 ・オリエンテーション ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作</p> <p>第2週 ・卒業制作研究からのフィードバック考察 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作</p> <p>第3週 ・テーマ・コンセプト修正 ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第4週 ・設計 ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第5週 ・試作 ・荒取り工程</p> <p>第6週 ・試作 ・荒取り工程、中取り工程</p> <p>第7週 ・中間発表 ・中取り工程</p> <p>第8週 ・実制作 ・中取り工程</p> <p>第9週 ・実制作 ・中取り工程、小造り工程</p> <p>第10週 ・実制作 ・小造り工程</p> <p>第11週 ・実制作 ・小造り工程</p> <p>第12週 ・実制作 ・小造り工程、仕上げ工程</p> <p>第13週 ・実制作 ・仕上げ工程</p> <p>第14週 ・コンセプトパネルの制作 ・仕上げ工程</p> <p>第15週 ・合評会 / 総括</p>
成績評価	<p>評価ポイント：授業態度20%、技術習得20%、卒業作品の完成度60%により総合的に評価する。</p> <p>4年間の学びの集大成として、卒業制作(論文)のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」が出来ているかを評価する。</p>
教科書	授業を通して適宜紹介する。
参考書 参考資料	<p>太田古朴著 『仏像彫刻技法』 (綜芸舎 1965)</p> <p>近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』 (光村推古書院 1972)</p> <p>『日本彫刻史基礎資料集』 平安時代 造像銘記編 8巻、平安時代 重要作品編 5巻、鎌倉時代 造像銘記編 16巻 (中央公論美術出版 1966)</p>
履修上の注意	4年間の学びの集大成として卒業制作研究(木工・彫刻)で確立した素材・成形・加飾・焼成の技術の成果を基に卒業作品を完成させる。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の復習をすること。
関連科目	「卒業制作研究(木工・彫刻)」
課題に対するフィードバックの方法	卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。
教員の実務経験	<p>宮本貞治：重要無形文化財(木工芸)保持者/日本工芸会正会員</p> <p>青木太一：京都佛像彫刻家協会会員</p> <p>美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

■ 実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。
詳細は各シラバスを参照してください。

【建築学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	表現技術論	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
2	京都学	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
3	京都学演習Ⅰ	2	教養	担当：生川 慶一郎	
4	京都学演習Ⅱ	2	教養	担当：井上 年和	
5	英語演習Ⅰ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
6	英語演習Ⅱ	2	教養	担当：ヒルド 麻美	
7	情報基礎演習	2	教養	担当：宮内 智久	
8	英語コミュニケーション	1	教養	担当：ヒルド 麻美	
9	しごと論Ⅰ	2	教養	担当：中井川 正道	オムニバス
10	社会活動Ⅰ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
11	メディアリテラシー	2	教養	担当：山田 秀幸	
12	社会活動Ⅱ	1	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
13	しごと論Ⅱ	2	教養	担当：新谷 裕久	オムニバス
14	インターンシップ	2	教養	担当：山田 秀幸	
15	建築概論	2	専門	担当：高田 光雄	
16	伝統工芸概論	2	専門	担当：古閑 謙太郎	オムニバス
17	構成基礎演習	1	専門	担当：森重 幸子	
18	日本住居史	2	専門	担当：井上 年和	
19	色彩学	2	専門	担当：東 俊一郎	
20	デザイン概論	2	専門	担当：中井川 正道	
21	建築計画Ⅰ	2	専門	担当：人見 将敏	
22	建築CAD演習Ⅰ	2	専門	担当：新海 俊一	
23	日本建築史	2	専門	担当：砂川 晴彦	
24	建築CAD演習Ⅱ	2	専門	担当：山内 貴博	
25	建築計画Ⅱ	2	専門	担当：安田 光男	
26	建築材料	2	専門	担当：根来 宏典	
27	世界建築史	2	専門	担当：白鳥 洋子	
28	都市空間論	2	専門	担当：中井川 正道	
29	景観デザイン論	2	専門	担当：山内 貴博	
30	伝統構造学	2	専門	担当：井上 年和	
31	近代建築史	2	専門	担当：人見 将敏	
32	建築計画Ⅲ	2	専門	担当：森重 幸子	
33	都市計画	2	専門	担当：新海 俊一	
34	伝統建築図	2	専門	担当：大上 直樹	
35	京町家再生論	2	専門	担当：生川 慶一郎	
36	室内意匠論	2	専門	担当：小梶 吉隆	
37	建築計画Ⅳ	2	専門	担当：杉本 直子	
38	公共デザイン論	2	専門	担当：宮内 智久	
39	社寺建築論	2	専門	担当：大上 直樹	
40	建築設計導入実習	3	専門	担当：新海 俊一	
41	建築設計基礎演習Ⅰ	4	専門	担当：井上 晋一	
42	建築設計基礎演習Ⅱ	4	専門	担当：森重 幸子	
43	建築設計演習Ⅰ	4	専門	担当：安田 光男	
44	建築設計演習ⅡA	2	専門	担当：小梶 吉隆	
45	建築設計演習ⅡB	4	専門	担当：生川 慶一郎	
46	建築設計演習Ⅲ	4	専門	担当：井上 晋一	
47	卒業研究	6	専門	担当：井上 晋一	

講義名	1 表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松本 浩作	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中山 智博	KYOB I 芸術学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。
授業計画 授業内容	<p>全15回 オムニバス形式</p> <p>第1回 中井川正道 全体ガイダンス 第2回 岡 達也 ポスター表現 1 第3回 岡 達也 ポスター表現 2 第4回 渡邊 俊博 立体の表現 第5回 中山 智博 3Dの表現 1 第6回 中山 智博 3Dの表現 2 第7回 松本 浩作 照明の表現 1 第8回 松本 浩作 照明の表現 2 第9回 松本 浩作 照明の表現 3 第10回 杉山 英知 人にやさしい空間表現 第11回 東 俊一郎 街の色彩の表現 第12回 中井川 正道 美の表現 1 第13回 中井川 正道 美の表現 2 第14回 中井川 正道 美の表現 3 第15回 中井川正道 まとめとレポート</p> <p>*講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります</p>
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	『グラフィックデザイナーの仕事』祖父江慎 グルーヴィジョンズ 『イサムノグチ』宿命の越境者(上)(下)ドウス昌代 2003 『陰影礼賛』谷崎潤一郎 バイインターナショナル 2018 『色と光の科学 物理と化学で読み解く色彩の起源』小島憲道 講談社 2023 『人体 5億年の記憶:解剖学者・三木成夫の世界』海明社 2017
履修上の注意	講師の都合により内容、講師の変更、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術 伝統と学び 工芸概論 デザイン概論 しごと論Ⅰ、Ⅱ 発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第15回目の授業で総括する
教員の実務経験	岡達也: 京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験、デザイン史研究の実績をもとに講義する。 渡邊俊博: 素材メーカーでの実績をもとに、立体系デザインの造形や表現方法について講義する。 中山智博: 3Dスキャンを使った画像制作の実績をもとに、撮影技術等について講義する。 松本浩作: 照明メーカーでの実績をもとに、照明の基本的な知識などを講義する。 杉山英知: 建築家の実績をもとに、体の不自由な人に配慮した空間デザインのあり方について実例を示しながら講義する。 東俊一郎: 建築・インテリア設計、色彩研究の経験をもとに、空間設計における色彩理論や色彩の心理的効果について講義する。 中井川正道: デザイン設計事務所の勤務経験から得た知見をもとに講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE213L

講義名	2 京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。</p> <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	<p>京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいており、国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる。京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。京都学というタイトルから京都観光・歴史文化を学ぶことを連想する場合もあるが、本講座では京都の行政を中心とした学びである。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回(オムニバス方式) ※第1回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇</p> <p>第1回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進/総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第2回 留学生施策の推進/総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第3回 時を超え光り輝く京都の景観づくり/都市計画局都市景観部景観政策課 第4回 みんなでつくる京都観光/産業観光局観光MICE推進室 第5回 博物館で学んでみませんか?/教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進担当 第6回 都心再生のまちづくり/都市計画局まち再生・創造推進室 第7回 京都市の文化財保護について/文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第8回 わたしたちの伝統産業/産業観光局クリエイティブ産業振興室 第9回 京都駅エリア活性化将来構想/総合企画局プロジェクト推進室プロジェクト推進第三担当 第10回 美術館とは何か/文化市民局文化芸術都市推進室 美術館 第11回 みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう!/保健福祉局障害保健福祉推進室 第12回 家族を守る、地域を守る消防団/消防局消防団・自主防災推進室 第13回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来/東山区役所地域力推進室 第14回 SDGs(持続可能な開発目標)とは?/総合企画局総合政策室SDGs・レジリエントシティ推進担当 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか?」/副学長 新谷裕久</p> <p>※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。</p>
成績評価	<p>受講態度(10%)、毎回講義中に実施する小レポート(90%)をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する(減点方式)。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。</p>
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する(クラスルームに添付)。
参考書 参考資料	京都市ホームページ(www.city.kyoto.lg.jp)
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等チェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として京都の行政との連携事業に携わっており、京都学について包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR102L

講義名	3 京都学演習 I (建築)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOBI 建築学部
教授	高田 光雄	KYOBI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBI 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>京都におけるまち・建築・空間を直接往訪し、現在に受け継がれてきた日本の伝統・文化、美しい町並み・その成り立ち、京都に育まれてきた豊かなコミュニティ等について自ら体験とすることで、「京都市らしさ」とは何か、「京都において建築を学ぶ意義」を問う機会とする。また、グループフィールドワークやその結果の発表機会を設けることで、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>京都に関連がある特色のある建造物やまちなみ、景観、庭園などを選定し、その歴史(由来、建設経緯や設計者など)や特性(意匠的・構造的特徴など)を調べる。その結果を、Google My Maps を活用して各自が選定したコンテンツに対応するアイコン、画像(スケッチあるいは写真)、文章やデザイン、レイアウトなどに工夫を凝らし、建築に関連するテーマを定めてストーリー性のあるパンフレットを作成する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション、課題説明 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク② 第4回 フィールドワーク③ 第5回 フィールドワーク④ 第6回 フィールドワーク⑤ 第7回 フィールドワーク⑥ 第8回 エスキスチェック① 第9回 追加調査① 第10回 追加調査② 第11回 エスキスチェック② 第12回 資料作成① 第13回 資料作成② 第14回 プレゼンテーション 第15回 成果物の評価フィールドワーク</p> <p>※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況に応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	提出シート、プレゼンテーション
教科書	なし(配布資料あり、パワーポイントなどを使用)
参考書 参考資料	モダン建築の京都100、建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	<p>本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。 校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。</p>
予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、京町家再生論
課題に対するフィードバックの方法	最終回に成果品、プレゼンテーションに対し講評を行う。
教員の実務経験	(公財)京都市景観・まちづくりセンター在籍時に地域のまちづくり活動支援を担当していた経験を活かし、京都のまちに関する幅広い知識と調査フィールドとのネットワークを提供している。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR203S

講義名	4 京都学演習 II		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>京都に存する史跡、名勝、歴史的建造物、伝統的建造物群保存地区、行事などの文化財に対する理解を深めるとともに、自己の観察力や洞察力、表現力、協調性、自発性を高めることを目標とする。</p> <p>この科目は、DPO-2、DPO-3に該当する。</p>
授業概要	<p>京都には山や水などの豊かな自然に恵まれ、平安京創建以来長い歴史の中で、様々な人々の生業が営まれてきた。</p> <p>社寺建築、民家などの建造物や庭園などが造られ、路地や水路などのインフラを含む歴史的町並みが形成されると、その中で茶道や華道、香道や祭り、芸能などの文化も充実し、また、これらは時代の趨勢の中で変遷し、現在みる歴史文化都市として発展してきたのである。</p> <p>当演習では、このように重層的な構造を持つ京都をフィールドワークにより体感、取材し、ポスターを作成することにより歴史文化を内外に発信することを目論む。</p>
授業計画 授業内容	<p>フィールドワークは2週間おきに土曜日に実施する。 最終回は作品（ポスター）の講評会を行う。</p> <p>第1回 5/10(土)13時～17時50分 岡崎 第2回 5/24(土)13時～17時50分 南禅寺～哲学の道 第3回 6/7(土)13時～17時50分 京都大学 第4回 6/21(土)13時～17時50分 京都御苑 第5回 7/1～24 祇園祭 第6回 7/29(火)作品講評会</p>
成績評価	受講態度、提出物、プレゼンテーションから総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書 参考資料	特になし
履修上の注意	見学、調査を行う際は、感染症の感染拡大防止に努め、規律ある態度をとること。
予習・復習指導	選定物件に対し、十分な知識を得たうえで、構想を練り練り成果物提出へつなげること。
関連科目	京都学演習 I
課題に対するフィードバックの方法	最終回に講評を行う。
教員の実務経験	<p>文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説および現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法を体得する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR407S

講義名	5 英語演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBU 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実際経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職 京都国立博物館において20年にわたる通訳担当、京都府庁における知事付通訳等の実績を活かし、長文英訳ではない、英語によるコミュニケーションを指導する。
教員の実際経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	6 英語演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。世界遺産の資料を読む・聞くの力をつけるために使い、地理・歴史の知識に触れながら、到達目標としては学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを旨とする。
授業概要	前期の英会話体験に基づき、視野を世界に広げ、ユネスコの世界遺産のうちタージ・マハル（インド）マチュ・ピチュ遺跡（ペルー）アルハンブラ（スペイン）フェズ旧市街（モロッコ）モンサンジェル（フランス）など、建築・美術工芸にかかわる文化遺産を中心に学ぶ。英文資料を読み、オンライン情報から英語動画を視聴し、地理・歴史を含む世界遺産の知識とともに英語の読み・聞く力をつける。また、グループで気になる世界遺産の対象を選び、自分たちで資料を調べ、簡単な英語で発表することで、英文作成、英文プレゼンの練習とする。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1・世界遺産紹介 第2週 TOEIC形式英語演習 2・世界遺産紹介 第3週 TOEIC形式英語演習 3・世界遺産紹介 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5・世界遺産紹介 第6週 TOEIC形式英語演習 6・世界遺産紹介 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8・世界遺産紹介 第9週 TOEIC形式英語演習 9・世界遺産紹介 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11・世界遺産紹介 第12週 TOEIC形式英語演習 12・世界遺産紹介 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14・世界遺産紹介 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 時間のある時に常にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英語は言語ですので、とにかく出席して声を出すようにしてください。語学は貪欲にならないとなかなか身につけません。受け身にならず、自分から自分の力を高めるように、他の学生が指名されている時も、必ず自分でその回答を考えることで90点を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 などを使って、語彙を増やしてください。毎回の授業でわからなかった箇所は必ず後でおさえるようにしてください。
関連科目	英語演習I 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職。京都国立博物館において20年にわたる通訳担当、京都府庁における知事付通訳等の実績を活かし、長文英訳ではない、英語によるコミュニケーションを指導する。
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	7 情報基礎演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	建築学部：必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOB I 建築学部
	中村 卓	
教授	新海 俊一	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>・パソコンにおけるデータの入力・出力・保存・読み込み方法を習得する。 ・Google Workplaceの各種アプリ（Gmail、Googleカレンダー、Googleドライブ、Googleドキュメント、Googleスプレッドシート、Googleスライド）の基礎、及び活用方法を習得する。 ・Adobe Photoshop、Illustratorを用いて簡単な図像やロゴを作成する。 ・国土地理院のデータを活用する。 ・最終目標：大学で建築を学ぶために必要な基本的なPCスキル、能動的な課題解決能力とコミュニケーション能力を養うこと。</p> <p>演習の目標： 1. 大学の通学に慣れる 2. 学友を作る 3. 授業に出席したい 4. 人前で話せる 5. 共同作業に慣れる 6. 失敗を恐れない 7. 自主的に行動できる 8. チャレンジ精神が身に付く 9. 利他的精神が身に付く 10. 時間を有効活用できる 11. 考えを速く絵に描いてみることに慣れる 12. PCを使うことに慣れる</p>
授業概要	<p>PCの基本的な構成やOS、及び実務用ソフトGoogle Workplaceの活用方法を習得することを目的とする。 各種アプリの使いみちだけでなく、大学の授業や社会で必要とされるIT技術を習得する。データを扱い、データを守るための心得を習得する。</p> <p>例えば、建築を学ぶ上で必要な、情報を精査し課題を読み解く能力、提案し表現するコミュニケーション能力、効果的にプレゼンテーションする能力、ワークショップを行い、協働で取り組む能力を、PC作業を覚えながら習得する。なお、課題ではAdobeを用いて作成することで、基本的なグラフィックの制作方法も学ぶ。</p> <p>本演習は、本学のディプロマポリシー2、3に該当する。 建築学科のディプロマポリシー1、2、3、4に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回【オリエンテーション】パソコンの共通操作・共通言語の理解、図書館の利用方法 第2回【入門1】 Topic 1:「建築をコピる？」～引用の方法 / Tutorial 1: Google Gmail 第3回【入門2】 Topic 2:「リサイクル/アップサイクル」～プレゼンストーミングをしてみる / Tutorial 2: Google Jambook 第4回【入門3】 Topic 3:「災害は自然のせい？」～アンケート作成・集計 / Tutorial 3: Google Forms 第5回【学期プロジェクト発表】 Adobeソフトウェアの起動、プロジェクトチーム編成 第6回【基礎1】 Topic 4:「フード・デザイン」～作り方を説明する / Tutorial 4: Google Slide 第7回【基礎2】 Topic 5:「文化を伝えていく」～ストーリーを作る / Tutorial 5: Google Slide 第8回【基礎3】 Topic 6:「街を賑わう」～データを処理する / Tutorial 6: Google Map/Earth Spreadsheet 第9回【学期プロジェクト演習】 実演と実技講習 (Adobe Photoshop/Illustrator) 第10回【応用1】 Topic 7:「リノベ/コンバする」～図を書く / Tutorial 7: スケッチ速描 第11回【応用2】 Topic 8:「ハック・ザ・商店街」～ダイアグラムを作る / Tutorial 8: スケッチ速描 第12回【応用3】 Topic 9:「コンパクト・シティ」～マッピングをする / Tutorial 9: スケッチ速描 第13回 学期プロジェクト演習:「グループ内最終作業」情報の編集 第14回 学期プロジェクト演習:「グループ内発表会」効果的なプレゼンテーションの方法 第15回 学期プロジェクト演習: 総合発表 優秀作品のプレゼンテーション</p> <p>演習日の流れ：水曜日3・4限</p> <p>13:00 - 13:30: キーワード講義 (30分) (全体) 13:30 - 13:45: ゲームのルール説明 (全体) 13:45 - 14:30: 前半戦: GAME 1 (45分) (組毎) 14:30 - 14:45: ハーフタイム 14:45 - 15:30: 後半戦: GAME 2 (45分) 15:30 - 16:00: 組内発表・提出・総括・フィードバック・フリートーク</p> <p>アドリブで、エクササイズ (出欠確認) が入ります</p> <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合があります。</p>

成績評価	<p>学修状況：45/100点 学期プロジェクト： （グループ）＝ 15/100点 各組の先生が採点 （個人課題）＝ 40/100点 各組の先生が採点</p> <p>習得状況に応じて、点数の配分が変わることもある。</p>
教科書	阿部信行『Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書』
参考書 参考資料	武田雅人『Google アプリ徹底入門の教科書2020 Google アプリの教科書シリーズ2020年版』（Kindle） 500円程度なので、できれば購入する。
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。また、最初に設定するアプリケーションのIDとパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「メディアリテラシー」、「建築CAD演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計導入実習」 など
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内にフィードバックの時間を取る。 担当教員は、授業時間外でも、随時質問等に応じる。
教員の実務経験	担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導を行う。
科目ナンバリング	COM-C0104S

講義名	8 英語コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBU 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。大学周辺の東山エリアの紹介ができるように、地元について学びながらそれを英語で表現する。さらにエリアを広げて、京都の名所、歴史や文化を学びながらそれを英語で表現する。また、自分の専門分野における活動や制作について英文プレゼンを含め、簡単に英語で紹介する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法をできるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法をできるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 TOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。必要に応じて教室で指示します。
関連科目	英語演習I 英語演習II 英語演習III
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職 京都国立博物館において20年にわたる通訳担当、京都府庁における知事付通訳等の実績を活かし、長文英訳ではない、英語によるコミュニケーションを指導する。
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	9 しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。 <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>オムニバス形式／全15回</p> <p>第1回 新谷 裕久（教授/大学企画・広報） 第2回 高田 光雄（教授/建築家） 第3回 川尻 潤（特任教授/陶芸家） 第4回 堀木 エリ子（客員教授/和紙デザイナー） 第5回 前田 尚武（京セラ美術館企画推進ディレクター） 第6回 塚本 カナエ（非常勤講師/プロダクトデザイナー） 第7回 宮本 貞治（特任教授/木工家） 第8回 旗 邦充（数寄屋大工） 第9回 コシノ・ジュンコ（客員教授/デザイナー） 第10回 阿部 祐二（客員教授/俳優/リポーター） 第11回 国広 ジョージ（客員教授/建築家） 第12回 中井川 正道（教授/環境デザイン） 第13回 大西 英玄（清水寺成就院住職） 第14回 久保田 康夫（フォトグラファー） 第15回 三木 表悦（特任准教授/漆芸家）</p> <p>新谷裕久：広報業務の実績をもとに、大学広報の仕事内容について講義する。 高田光雄：建築の研究実績をもとに、京町屋の歴史、建築家の職能について講義する。 川尻潤：陶芸作家の実績をもとに、造形論、作家等の生業について講義する。 堀木エリ子：和紙工芸作家の実績をもとに、伝統工芸の継承等について講義する。 前田尚武：キュレーション、建築家としての実績をもとに、企画立案などを講義する。 塚本カナエ：プロダクトデザイナーの実績をもとに、プロダクトデザインの歴史などを講義する。 宮本貞治：木工家の実績をもとに、木の素材や性質、加工技術等について講義する。 旗邦充：数寄屋建築の実績をもとに、木材の選定、加工等について講義する。 コシノジュンコ：ファッションデザインの実績をもとに、デザイン活動等を講義する。 阿部祐二：俳優、レポーター等の実績をもとに、目標、進路、仕事の意義等について講義する。 国広ジョージ：建築家としての実績をもとに、異文化経験、著名な建築体感等を講義する。 中井川正道：景観設計の実績をもとに、景観上の美しさについて講義する。 大西英玄：清水寺住職の経験をもとに、仕事や物事のとらえ方等解釈について講義する。 久保田康夫：写真家としての実績をもとに、被写体に対する構図等について講義する。 三木表悦：漆芸作家としての実績をもとに、造形の発想等について講義する。 ※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は昨年の講師）</p>
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	<p>「手仕事の日本」柳宗悦 岩波文庫 「機嫌のデザイン まわりに左右されないシンプルな考え方」 秋田道夫 ダイヤモンド社 「グラフィックデザイナーの仕事」祖父江慎 グルーヴィジョンズ 「建築家になりたい君へ」隈研吾河出書房新社 「みんなの家 建築家一年生の初仕事」光嶋裕介 アルテスヴィジョンズ</p>
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。 小レポート作成において生成AIの使用を禁止する。使用が発覚した場合は相応の処分を行う。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを15回目の授業内で行う。
教員の実務経験	授業内容に記載済 中井川正道：景観設計の実績をもとに、大きな構築物の景観への影響、景観上の美しさとは何かについて講義する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA101L

講義名	10 社会活動 I		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOBU 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOBU 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBU 建築学部
講師	加納 奈都	KYOBU 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBU 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOBU 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBU 芸術学部
教授	井上 年和	KYOBU 建築学部

到達目標	<p>社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。</p> <p>この科目は、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動Iでは、「ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成」を主目的としている。社会活動IIでは、ボランティア活動の発展・応用として「指導的立場としての行動力の育成」を主目的としているので、社会活動IとIIを合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日=1イベント (1point) としてカウントする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新日吉神宮神幸祭支援活動 2point (5/11) / 70名程度 (男女関係なし) ×1日 2. 下御霊神社還幸祭行列 2point (5/18) / 20名程度 (男子のみ) ×1日 3. 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point (7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名) 0.5日 ×3 4. 祇園祭巡行支援活動 2point (7/24) / 5名 (木曜日の授業のない男子のみ: 4年生等) ×1日 5. 七条大橋・真教学区清掃活動 1point (6/7, 8/7, 9/7, 12/7) / (10~50名) 0.5日 ×4 6. 真教学区夏祭り 2point (8/30夕方~夜) / 30~100名 ×1日 7. 豊国神社森林保全活動 2point (9月上旬) / 20~30名 ×1日 8. 真教学区体育祭準備 1point (10/4PM) / (30名程度) ×0.5日 9. 真教学区体育祭 2point (10/5) / (30~100名) ×1日 10. KYOBU祭支援活動 1point (10/31AM-PM, 11/1AM-PM, 11/2AM-PM, 11/3AM-PM) / (30~250) 0.5日 ×8 11. 東山ふれあい広場支援活動 2point (11月上旬) / 10~20名 ×1日 12. 伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1point (6, 9, 11, 12, 1, 2月: 夕方) / (10~50名) 0.5日 ×6 13. オフ・キャンパス支援活動 1point (5/25, 6/15, 7/20, 7/27, 8/3, 8/10, 8/24, 9/21, 10/19) / (10~50名) 0.5日 ×18
成績評価	<p>実習態度 (30%)、小レポート (70%)</p> <p>実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する (減点方式)。</p> <p>5つの課題 (5イベント) の実習とレポート提出をもって修了とする。</p> <p>予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。</p>
教科書	<p>必要に応じて、資料を適宜配布する。</p>
参考書 参考資料	<p>実習を通して適宜紹介する。</p> <p>フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。</p>
履修上の注意	<p>学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策 (3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等) を徹底すること。</p>
予習・復習指導	<p>予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。</p> <p>具体的な日程については事前に掲示する。</p>
関連科目	<p>1年次は、伝統文化科目である「京都学」で学ぶ地域社会との関連性が高い。</p> <p>2年次には引き続き「社会活動II」を選択することが望ましい。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>一実習 (1コマ) に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。</p>
教員の実務経験	<p>実務教職員が担当</p> <p>担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Iについて包括的に講義することができる。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>COM-CA102P</p>

講義名	11 メディアリテラシー		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・情報にアクセスする際は、データ・AIの利活用などを通じて「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーを高める。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から話を聞き、発信する側の思いや取り組みを知る。 ・さらに、新聞でいえば「国際面」「社会面」「政治面」それぞれの主役である外交官、警察関係者、政治家らから直接話を聞くことで、ニュース報道からだけでは見えない側面を自ら発見する。 <p>この科目は、DP0-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>メディアリテラシーとは、新聞やテレビ、インターネットなどから発信される情報を正しく理解し、また、ときには自ら情報を適切に発信する能力のこと。AIなどの技術が急速に発達している近年のデジタル社会においては、これに加えて「デジタル時代の読み・書き・そろばん」とも言われる「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーが求められています。</p> <p>本講座では、AI翻訳を活用して英字情報に積極的にアクセスするほか、日々のニュースの主役である外交官、政治家、警察関係者らをゲストスピーカーとして招き、メディアのフィルターを通さない1次情報に接してもらいます。さらに、第一線で活躍するメディア関係者からも話を聞き、メディアの現状と課題に対する理解を深めます。ゲストの回は質疑応答の時間を設けるので、積極的に質問を。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス：メディアリテラシーとは — メディア情報を大学生活にどう生かすか 第2回 メディアの種類と特性 — 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第3回 メディアを巡る諸問題(1) — 誤報、客観報道と情報操作 第4回 メディアを巡る諸問題(2) — 実名報道 第5回 英字メディアのリテラシー(1) 第6回 英字メディアのリテラシー(2) 第7回 テレビ局の仕事 第8回 新聞社の仕事 第9回 FMラジオ局のさまざまな取り組み — 音楽からアートまで 第10回 ソーシャルメディアの功罪 第11回 ニュースの主役(1) — 警察 第12回 ニュースの主役(2) — 外交官 第13回 ニュースの主役(3) — 政治家 第14回 動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介） 第15回 情報収集・分析のプロたち — インテリジェンスとは</p> <p>※予定は目安です。変更になる場合があります。</p>
成績評価	毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。
教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書 参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会） ※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	<p>情報誌の編集、米全国紙のダイジェスト版の翻訳、新聞の取材、インタビュー、紙面連載に携わる。その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長として年間2万件を超えるビザの発給業務のほか、カンボジア・日本の二国間交流や各国公館との国際交流に従事。新聞のインタビューでは政治家、外交官らを取材し、紙面紹介した。新聞社における自らの体験に加え、テレビ、ラジオの報道・制作現場の声を伝えるため、さらに日々のニュースの主役ともいえる警察官、外交官、政治家などの声に直接触れる機会を設けるため、メンバーをゲスト講師として招いている。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA103L

講義名	12 社会活動Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>高度な社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。</p> <p>この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動Ⅰでは、ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成を主目的としている。また社会活動Ⅱでは、ボランティア活動の発展・応用として、指導的立場としての行動力の育成を主目的としている。したがって社会活動ⅠとⅡを合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日=1イベント(1point)としてカウントする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 鴨川トレッキング&清掃活動(新入生引率) 1point (4/19) / 250名×0.5日 新日吉神宮神幸祭支援活動 2point (5/11) / 70名程度(男女関係なし)×1日 下御霊神社還幸行列 2point (5/18) / 20名程度(男子のみ)×1日 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point (7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名) 0.5日×3 祇園祭巡行支援活動 2point (7/24) / 5名(木曜日の授業のない男子のみ:4年生等)×1日 七条大橋・貞教学区清掃活動 1point (6/7, 8/7, 9/7, 12/7) / (10~50名) 0.5日×4 貞教学区夏祭り 2point (8/30夕方~夜) / 30~100名×1日 豊国神社森林保全活動 2point (9月上旬) / 20~30名×1日 貞教学区体育祭準備 1point (10/4PM) / (30名程度)×0.5日 貞教学区体育祭 2point (10/5) / (30~100名)×1日 KYOB I祭支援活動 1point (10/31AM-PM, 11/1AM-PM, 11/2AM-PM, 11/3AM-PM) / (30~250) 0.5日×8 東山ふれあい広場支援活動 2point(11月上旬) / 10~20名×1日 伝統工芸館・鴨川七条ギャラリ―展示活動 1point (6, 9, 11, 12, 1, 2月:夕方) / (10~50名) 0.5日×6 オープンキャンパス支援活動 1point (5/25, 6/15, 7/20, 7/27, 8/3, 8/10, 8/24, 9/21, 10/19) / (10~50名) 0.5日×18
成績評価	<p>実習態度(30%)、小レポート(70%)</p> <p>実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する(減点方式)。5つの課題(5イベント)の実習とレポート提出をもって修了とする。</p> <p>予約した課題において欠欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。</p>
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	<p>実習を通して適宜紹介する。</p> <p>フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。</p>
履修上の注意	<p>学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策(3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等)を徹底すること。</p>
予習・復習指導	<p>予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。</p> <p>具体的な日程については事前に掲示する。</p>
関連科目	1年次の「社会活動Ⅰ」に引き続きを選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習(1コマ)に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
教員の実務経験	<p>実務教職員が担当</p> <p>担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Ⅱについて包括的に講義することができる。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA204P

講義名	13 しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOBU 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBU 芸術学部

到達目標	<p>将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。</p> <p>この科目は、DP0-1、PD0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>1年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚としごとの意義をいろいろな職業の中からオムニバス形式で幅広く学ぶ。3年次の「しごと論Ⅱ」では、芸術・建築分野の専門的な学びを習得したうえで、オムニバス形式による教員の専門的テーマから具体的なイメージを深く学ぶことにより、将来の就職への方向性を明確にする。専門分野の講師は学内のみならず、他大学（3大学教育研究連携校）の講師も担当している。しごと論ⅠとⅡは合わせて修得することがキャリア形成の育成に繋がるので望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス方式 / 全 15 回</p> <p>第 1 回（竹脇 出）建築分野の成り立ちについて 第 2 回（玉村 嘉章）木工について 第 3 回（宮内 智久）建築とキュレーションについて 第 4 回（三木 表悦）漆芸について 第 5 回（中野 仁人）京都工芸繊維大学連携授業：デザインについて * 第 6 回（渡邊 俊博）ウインドウディスプレイと装飾について 第 7 回（安田 光男）ミラノでの「しごと」について 第 8 回（川尻 潤）陶芸について 第 9 回（井上 年和）歴史的建造物の保存修理について 第 10 回（中井川正道）環境デザインについて 第 11 回（白鳥 洋子）建築デザインのライフ・ワークについて 第 12 回（岡 達也）文化財情報デザインについて 第 13 回（井上 晋一）集合住宅の調査と設計について 第 14 回（津村 健一）美術と造形について 第 15 回（新谷 裕久）防災・安全衛生管理について 総括</p> <p>* 京都工芸繊維大学連携事業に基づく授業</p>
成績評価	<p>受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠等による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。</p>
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法）について復習し、関連用語（作品・作家・技法）についても調べるなど理解を深めておくこと。</p>
関連科目	1年次開講科目である「しごと論Ⅰ」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	<p>実務経験教員が担当 担当教員は、12年間歯科医療に携わり、さらに20年以上労働安全衛生コンサルタントとして、学校の環境安全衛生管理に携わってきた。しごと論Ⅱについては、どんな職業についても関係のある労働安全衛生の観点から包括的に講義することができる。</p>
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-CA305L

講義名	14 インターンシップ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する ②社会人として必要な知識やスキルを身につける ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める</p> <p>この科目は、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を体験するカリキュラム。3年次前期の事前学習を通じて業界研究、職業研究を行いながら就業体験を希望する企業、事業所等を見つける。原則として夏季休暇中の5日間（各日8時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンテーションによって振り返りを行う。特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。講義では、電話やメールのマナー、文章の書き方など、社会人として身につけておく必要のある素養を養う。</p>
授業計画 授業内容	<p>■令和5年度の予定</p> <p>①事前学習（1） ガイダンス ②事前学習（2） 業界研究＜1＞ ③事前学習（3） 業界研究＜2＞ ④事前学習（4） マナー教育 ⑤事前学習（5） 実習計画書作成 ⑥実 習 夏季休暇中、原則として5日間の実習スケジュールを実習先と相談のうえ各自が設定 ⑦事後学習（1） 報告書の書き方指導 ⑧事後学習（2） 報告書評価</p> <p>* 予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること</p> <p>■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など</p> <p>* 原則として学生が自ら実習先を開拓する。帰省先等での実習も可。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する</p>
成績評価	事前・事後学習、実習先での学びや行動、実習報告書により総合的に評価する
履修上の注意	<p>・履修したものの実習に行かなかった場合は成績が「不可」となるので注意すること。その場合、後期の履修取り消し期間内に取り消しの手続きができる。特に夏休みに建築士試験対策講座などを受講する者は注意を要する。</p> <p>・コロナの感染拡大以来、インターンシップを受け入れる企業や事業所が減少している。そのため、上記の日数や時間数に満たない場合でも、一定の配慮を行う。</p>
予習・復習指導	インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される。1コマあたり1・5時間の予習・復習が必要。
関連科目	「キャリア支援講座Ⅰ・Ⅱ」の講義を兼ねる。
課題に対するフィードバックの方法	実習先の選定などの相談や質問を随時受け付ける。
教員の実務経験	塾・予備校講師／国会議員秘書（議員会館勤務）／情報誌の編集、新聞の取材・インタビュー・連載企画／外国領事館での国際交流、査証発給業務などを経験。特に新聞社でロータリークラブを担当した際は、企業経営者らのインタビューを通じ、さまざまな業界の実情や経営者の考え方に触れてきた。インターンシップが充実したものになるよう、業界や受け入れ先に関する情報収集をきめ細かくサポートする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA306P

講義名	15 建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>建築学の深い成り立ちと多様な広がりを理解し、建築に対する幅広い視野を身につける。同時に、受け身で知識を習得するのではなく、自ら問いを発して、自ら考え、自ら答えるという研究の基本を身につけ、大学での学び方を習得する。</p> <p>この科目は、DP2-1～2-4に該当する。</p>
授業概要	<p>建築学は「建築とは何か」という問いに始まり、「建築とは何か」という問いに終わる。そして、その問いは無数の問いに細分化される。本講義では、建築学をめぐる多数の問いを投げかけ、具体的な建築作品や研究事例を用いた各問いの考察を通じて、建築の魅力と建築学の醍醐味に触れ、各自が「建築とは何か」という問いに向き合う構えに接近する。具体的には、専門分野の異なる複数の教員が、それぞれの分野における自らに対する問いにどのように答えようとしてきたかを具体的に語ることを通じて、建築学の広がりや研究の醍醐味をわかりやすく伝え、受講生が、建築学の概要を理解した上で、自ら問いを発し、自ら答えるという研究の基礎を体験的に習得することを目指す。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 14の建築への問い</p> <p>第1回 講義概要・建築とは何かという問い（高田光雄） 第2回 建築を京都で学ぶ意味は何か（高田光雄） 第3回 建築や都市の歴史を学ぶ楽しみとは何か（井上年和） 第4回 修復の世界とは何か（井上年和） 第5回 路地から見る京都とは何か（森重幸子） 第6回 環境共生住宅とは何か（森重幸子） 第7回 建築企画とは何か（生川慶一郎） 第8回 まちづくりとは何か（生川慶一郎） 第9回 建築を作り作法とは何か（齊藤啓輔） 第10回 アップサイクルとは何か（齊藤啓輔） 第11回 建築の文化的価値とは何か（砂川晴彦） 第12回 アジアの伝統住居とは何か（砂川晴彦） 第13回 伝統建築はいかにして設計されたのか（大上直樹） 第14回 建築の寸法はどのように決めるのか（大上直樹） 第15回 講義まとめ（高田光雄）</p>
成績評価	「小レポート(小テスト)+期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。
教科書	なし
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	各講義内容を自分に対する問いとして整理するとともに、それに答える試みを重ねること。 1コマに対し、4.5時間の復習をすること
関連科目	建築学科全科目
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で質疑・応答などを行う。
教員の実務経験	各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として33年間の経験を有する教員が建築学の深い成り立ちと多様な広がりや「建築とは何か」という問いを教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-BA111L

講義名	16 伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。 伝統工芸のあらましを理解するとともに、今日の伝統工芸の立ち位置を把握・理解する。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。																																													
授業概要	本講義では、伝統工芸業界の幅広い分野に触れ、各分野の基礎的な知識を身につけることを目的とする。 日本の伝統工芸は、長い歴史の中で培われた技術や美意識を継承しながらも、時代とともに変化・発展した。そしてその中で様々な課題に直面している。こうした現状を踏まえ、本講義では、伝統工芸の実務経験を豊富に持つ現役の作家や職人による講義を通じて、技法や素材の特性、制作プロセスのみならず、現代の工芸が直面する社会的・経済的な諸問題について学ぶ。また毎回の小レポートによって、主体的に考察する力を養う。																																													
授業計画 授業内容	オムニバス／全15回 <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>古閑 謙太郎</td><td>概論</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>八田 誠二</td><td>友禅・西陣</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>渡邊 晶</td><td>刃物</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>龍村 周</td><td>錦織作家</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>猪飼 祐一</td><td>京焼</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>藤井 収</td><td>漆芸</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>小島 秀介</td><td>桐箱</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>井上 楊彩</td><td>人形</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>石田 正一</td><td>竹工芸</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> </table> <p>※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。詳細については第1回目の概論において説明します。</p>	第1回	古閑 謙太郎	概論	第2回	須藤 拓	截金	第3回	須藤 拓	截金	第4回	八田 誠二	友禅・西陣	第5回	渡邊 晶	刃物	第6回	大菅 直	文化財修理	第7回	大菅 直	文化財修理	第8回	龍村 周	錦織作家	第9回	猪飼 祐一	京焼	第10回	藤井 収	漆芸	第11回	中村 佳之	京こま	第12回	小島 秀介	桐箱	第13回	井上 楊彩	人形	第14回	石田 正一	竹工芸	第15回	中村 佳之	京こま
第1回	古閑 謙太郎	概論																																												
第2回	須藤 拓	截金																																												
第3回	須藤 拓	截金																																												
第4回	八田 誠二	友禅・西陣																																												
第5回	渡邊 晶	刃物																																												
第6回	大菅 直	文化財修理																																												
第7回	大菅 直	文化財修理																																												
第8回	龍村 周	錦織作家																																												
第9回	猪飼 祐一	京焼																																												
第10回	藤井 収	漆芸																																												
第11回	中村 佳之	京こま																																												
第12回	小島 秀介	桐箱																																												
第13回	井上 楊彩	人形																																												
第14回	石田 正一	竹工芸																																												
第15回	中村 佳之	京こま																																												
成績評価	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
教科書	必要に応じて適宜資料を配布																																													
参考書 参考資料	『工芸の見かた・感じかた』（東京国立近代美術館工芸課：編）淡交社 『明日への伝統工芸』（浅見 薫著）財京都伝統工芸産業支援センター その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。																																													
履修上の注意	・内容、スケジュールは変更になることがあります。 ・レポート内容と講義内容に齟齬がみられる場合は、提出されていても欠席の扱いとなります。																																													
予習・復習指導	各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と感じることについて調べる。1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。																																													
関連科目	「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。																																													
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。																																													
教員の実務経験	古閑 謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事してきた経験を活かして、学生に伝授する。 様々な伝統工芸に長年携わってきた講師が伝統工芸の歴史、技法、特徴、業界の現状等について概論として分かり易く解説する。 登壇講師全員、美術工芸作家としての経験あり。																																													
教員の実務経験有無	あり																																													
科目ナンバリング																																														

講義名	17 構成基礎演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOBI 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOBI 建築学部
助教	数下 和真	KYOBI 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形物を形態として認識し、形態の持つ様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・手を動かしながら造形物を構想するプロセスを通じて、造形の方法と楽しさを体感する。 ・造形物の構成を言語化し、他者に伝える能力を習得する。 <p>この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。</p>
授業概要	<p>本科目では、造形の基礎的な演習として、形を生み出す上で最も重要な方法の一つである「構成」という手法について学ぶ。いくつかの要素を組み合わせることによって全体を作る、という課題の実践を通して「構成」の手法を体得し、かつ、描き出したまたは作り出したもののもつ造形的な特徴を発見的に考察していく。</p> <p>まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、さらに平面から立体的な構成へと展開する。最後は総合課題として、身体・素材・空間などの観点を踏まえながら、家具等の立体造形を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の目標や留意点の説明、準備</p> <p>第2回 平面構成課題：課題説明、解説</p> <p>第3回 平面構成課題：課題作業</p> <p>第4回 平面構成課題：課題作業、発表、講評</p> <p>第5回 立体構成課題1：課題説明、解説</p> <p>第6回 立体構成課題1：課題作業</p> <p>第7回 立体構成課題1：課題作業、発表、講評</p> <p>第8回 立体構成課題2：課題説明、解説</p> <p>第9回 立体構成課題2：課題作業</p> <p>第10回 立体構成課題2：課題作業、発表、講評</p> <p>第11回 総合課題：課題説明、解説</p> <p>第12～14回 総合課題：課題作業、エスキス</p> <p>第15回 総合課題：発表、講評、総括</p>
成績評価	受講態度（20%）、各課題提出物の評価（80%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	<p>必要に応じて参考資料を配布する。</p> <p>そのほかの参考書として、</p> <p>小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』</p> <p>小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』</p> <p>上田篤著『図形ドリル 平面・立体表現の基礎を学ぶ』</p>
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。身構えず考え過ぎずに手を動かすこと。
予習・復習指導	<p>各回1時間の予習復習をすること。</p> <p>自身が行った作業について振り返って評価を行うこと。</p> <p>授業外においても、日常で出会う様々な立体物を形態として認識しその構成を把握することにより平面・立体構成の感覚を養うこと。</p>
関連科目	「建築設計導入実習」「建築設計基礎演習Ⅰ」「デザイン作図演習（Bクラス）」
課題に対するフィードバックの方法	各課題ごとに提出物の講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築設計の実務経験を有する教員が担当する。建築設計の実務を通じて「構成」を実践してきた教員により、その基礎概念および応用方法を実践的に享受する。
教員の実務経験の有無	有
科目ナンバリング	

講義名	18 日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	K Y O B I 建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	「住居」は、人間が生活を送る上で欠かせない存在であるが、日本では縄文時代から現代に至るまで、竪穴式住居から宮殿、寝殿造や書院造など様々な変遷を経て発達してきたことがわかっている。また、住居の発達に伴い、まちなみや集落、都市が形成されてきた。本講義では、日本の伝統的な住居や都市について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 史跡と古墳 第2回 原始的な住居と集落 第3回 都城と宮殿 第4回 寝殿造 第5回 書院造 第6回 城郭 第7回 武家屋敷 第8回 都市と村落 第9回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	クラスルームに教材を添付する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	教材をプリントし毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA104L

講義名	19 色彩学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 東 俊一郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	色彩の基礎知識を基に、体系的かつ理論的に捉えることができる。 色彩の活用方法を理解し、色彩計画を立案・説明できる。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	本講義では、色彩に関する基礎的知識の習得に加え、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、工芸など多様な分野における色彩活用の事例を通じて、色彩デザインの手法を体系的に学びます。 色彩は極めて広範な主題であり、一授業内でその全容を網羅することは困難です。そこで本講義では、色彩に関する知識の習得にとどまらず、観察によって知覚される色の変化に着目し、物理的・心理的側面を含めた色彩を多面的に捉える力を育成します。加えて、実制作の現場で色彩を扱う専門家による講演を通じて、創作活動における実践的な色彩の捉え方や、色彩デザインの新たな可能性についての理解を深めます。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 色彩の基礎-1 (色の表示、混合) 第 3 回 色彩の基礎-2 (色の混合、心理的効果) 第 4 回 色彩の基礎-3 (配色) 第 5 回 色彩の基礎-4 (演習) 第 6 回 色彩演習-1 第 7 回 色彩演習-2 第 8 回 色彩演習-3 第 9 回 色彩の実践事例 (都市) 第 10 回 色彩の実践事例 (建築) 第 11 回 色彩の実践事例 (プロダクトデザイン) 第 12 回 色彩の実践事例 (工芸) 第 13 回 色彩の実践事例 (アート) 第 14 回 色彩検定 第 15 回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、授業毎のレポート (40%)、演習課題の評価 (40%)
教科書	『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』(日本色研事業株式会社) 『PCCS カラートーンサークル』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
教員の実務経験	街並み景観や建築・インテリアにおける色彩研究を行う。色彩を活用した空間設計の実績をもとに、色彩理論の習得および実践を指導する。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-BA105L

講義名	20 デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広義のデザインについて理解する。 ・ 近代以降のデザイン動向を認識する。 ・ 今後の社会とデザインの関わりを考える。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>本講義では、「デザイン」という言葉や概念がどのように変遷してきたのかを理解し、語義の変遷、歴史的な展開、現代社会における役割などを多角的に学ぶ。グラフィックやプロダクト、ランドスケープデザインや環境デザインを含む多様な分野を総合的に考察し、特に現代におけるデザインの役割について深く掘り下げ、技術の進歩や社会課題とデザインがどのように関連しているかを探る。デザインが単なる美的要素ではなく、社会と相互に影響し、課題と対峙する手段として活用されていることを理解する。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回 デザインの意味・語源 第3回 デザインの歴史① 第4回 デザインの歴史② 第5回 デザインの歴史③ 第6回 デザインの現在 第7回 デザインと情報・メディア① 第8回 デザインと情報・メディア② 第9回 プロダクト・インテリア・空間デザインの世界 第10回 プロダクトデザイン① 第11回 プロダクトデザイン② 第12回 インテリアデザイン 第13回 シビックデザイン 第14回 ランドスケープデザイン 第15回 景観デザイン</p>
成績評価	各回的小レポート（50%）と期末レポート（50%）を数値化し、総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	<p>『カラー版世界デザイン史』美術出版社、1995年 柏木博『20世紀はどのようにデザインされたか』晶文社、2002年 仙田佳穂『もっと知りたいバウハウス』東京美術、2020年 浦一也『旅はゲストルーム』知恵の森文庫、2004年 川島宙次『民家のデザイン』（日本編）（海外編） 水曜社、2016年</p>
履修上の注意	毎回講義内容の感想を提出して、理解度を確認する。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 講義内容に関連するデザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、理解を深めておくこと。
関連科目	近代デザイン史
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭に前回の感想と質問に回答する。
教員の実務経歴	<p>岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、プロダクト、インテリア、ランドスケープ、シビックデザインの歴史、デザインのスタイル、考え方、方法論、社会的役割等について講義する。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	21 建築計画 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOB I 建築学部

到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識を活用できるようになること。 この科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科である。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。 大きく全・後半に分かれ、前半においては、計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態などについて解説する。後半においては、設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。 建築設計関連の演習と関連した授業計画としている。また他授業との関連も各項目ごとに述べることで、建築の総合的な理解につながるような授業としている。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第2回 人間の知覚と行動1：（形態知覚の特性、心理環境と形態） 第3回 人間の知覚と行動2：（人間の行動と形態） 第4回 寸法と規模の計画1：（寸法の計画） 第5回 寸法と規模の計画2：（単位空間の寸法） 第6回 空間の性能1：（空間の機能、安全性） 第7回 空間の性能2：（耐久性、経済性、省エネルギー） 第8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態） 第9回 計画の技法1：（設計プロセス） 第10回 計画の技法2：（空間構成のエレメント） 第11回 空間構成の技法 第12回 造形技法 第13回 外部空間の構成と配置計画1：（外部空間のスケール、歩行空間の形態） 第14回 外部空間の構成と配置計画2：（外部空間の構成、建物の配置形態） 第15回 表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート）」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「現代建築学 新訂 建築計画1」 岡田光正著他 鹿島出版会
参考書 参考資料	第4版「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会 丸善株式会社
履修上の注意	基礎教養として社会の仕組みをある程度理解し、建築に関わる現代的問題をニュース等から情報を得て、自らの課題として認識しようとする。また、人間の行動実態や豊かな生活環境のあり方等に興味をもち、授業で学んだこと・考えたことと日々の生活との関わりを知ろうとする心掛け・行動が重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。 教科書や配布資料を読み、建築計画に関わる考え方を感覚的に理解すること。また具体的な単語や数値を覚えること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築概論」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	小レポート（小テスト）のフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う予定である。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。本授業ではその経験を生かし、内容を補足する具体例として、担当教員がこれまでに携わった建築物やその際の業務内容、またその他の建築作品例等を提示する。建築計画における基礎知識と実例とを関連付けて学ぶことで、具体的かつ体系的に本授業を理解する一助になると考えている。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	ARC-BA112L

講義名	22 建築CAD演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOBU 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOBU 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBU 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBU 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックデザインの意義を理解するとともに、その実践のためにAdobe PhotoshopおよびIllustratorの基礎的な操作法を習得する。 2次元CAD (Computer Aided Design) の意義を理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの基礎的な操作法を習得する。 建築設計作品のデジタル・プレゼンテーションの意義を理解するとともに、その実践のために上記のソフトウェアを活用する。 この科目はDP2-1、2、4に該当する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 本演習では、まずデザインにおけるコンピューターソフトウェアの身近な活用事例を題材に、その意義を理解しながら、代表的なグラフィックデザインソフトウェアであるAdobe Photoshop、Illustratorを使用した図形描画や画像処理の基礎を習得する。 次に、建築系の実務で広く活用されているCAD (Computer Aided Design) のうち、2次元CADの意義を理解しながら、Autodesk AutoCADを使用して2次元CADの基礎的な操作法と活用法を習得する。 最後に、これらのソフトウェアを駆使して、建築設計図面や写真、パースなどを用いた総合的なプレゼンテーション技術の向上を目指す。
授業計画 授業内容	<p>全15回、週1回・2コマ</p> <p>第1回 ガイダンス、コンピューターを用いたデザインの基本概念 第2回 Illustrator① (基本操作、デザイン作品のトレース) 【デザイン課題】 第3回 Illustrator② (レイアウトの基礎、デザインコンセプト) 第4回 Illustrator③ (ロゴマークのデザイン) 第5回 Illustrator④ (課題2の成果品の講評) 第6回 Photoshop① (基本操作、写真の加工・合成) 第7回 Photoshop② (デザイン課題のプレゼンテーション・講評) 第8回 AutoCAD① (基本図形の描画) 第9回 AutoCAD② (建築図面の描画) 第10回 AutoCAD③ (モデル空間とペーパー空間、ペン設定、印刷) 第11回 AutoCAD④ (異尺度図面の印刷) 第12回 総合課題① 【総合演習課題】 第13回 総合課題② 第14回 総合課題③ 第15回 総合課題④ (総合演習課題の講評)</p> <p>※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>以下を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況 (30% 受講姿勢を含む) 課題成果 (70% 全課題の成果品の提出を必須とする)
教科書	<p>【指定教科書】 (履修者は必ず購入すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書 [改訂新版]』阿部信行著、技術評論社、2024 その他、適宜オンライン資料または印刷資料を配付する。
参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> 『デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]』稲葉幸行著、技術評論社、2019 『Autodesk AutoCAD 2025公式トレーニングガイド』井上竜夫著、日経BP、2024
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 初学者は覚えるべきことが多いため、必ずノートやメモ帳を持参してメモ取る。 演習授業はWindows版のソフトウェアIllustrator、Photoshop、AutoCAD) を用いて進める。 Mac版のソフトウェア (特にMac版のAutoCAD) のインストールや使用方法についてのサポートは行わない。 演習での配布物や各自で収集した参考資料等は整理・ファイリングして毎回持参する。 課題に対する成果物の提出期限を厳守する。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまづきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得する。 演習で扱う題材に関連するグラフィックデザイン、および建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行う。 各週の授業について、4時間の予習・復習が必要である。
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 1年前期の「情報基礎演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 本科目の履修および合格を2年前期の「建築CAD演習Ⅱ」の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	ICT技術を活用した建築設計、インテリアデザイン、都市デザイン等に関して10年以上に渡る実務経験を有する教員が演習指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-BA113S

講義名	23 日本建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 砂川 晴彦	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>今日まで残る伝統の日本建築に関して、その歴史的・文化的価値を理解するための基礎的な知識を学ぶ。またこうした文化財建造物の維持・保全・修理に関わる基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2及びDP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>伝統建築のうち、とくに社寺建築を中心に「様式」や「形式」の時代的変遷、その「建築的特徴」について遺構、史料に基づき解説する。そのことで伝統的建造物とされる建物のその価値とは何かを解釈するための基礎的な知識を習得することができる。そして伝統建築から日本文化の豊かさを理解することも目指せる。また現行の文化財建造物の保存・修復について、その制度や理念、手法を概説する。そのことで今日までに目にすることができる伝統的景観がどのように維持・保全されてきたのかその仕組みや社会背景を理解することができる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回の授業計画は次の通りである。</p> <p>第1回 導入～建築史学の様式史観と文化財保存の歴史 第2回 伝統建築の基礎用語と形式概念 第3回 神社建築（1）古代の社殿～伊勢・出雲・住吉～ 第4回 神社建築（2）中世の社殿 第5回 寺院建築（1）仏教建築の伝来～飛鳥時代の建築～ 第6回 寺院建築（2）和様の誕生～奈良時代の建築～ 第7回 寺院建築（3）国風化の進展～平安時代の建築～ 第8回 寺院建築（4）中世の新しい様式 第9回 寺院建築（5）中世の新しい仏堂 第10回 社寺建築（1）安土桃山時代の優美な建築 第11回 社寺建築（2）江戸時代の多様な建築 第12回 生産過程からみた建築史～大工・木材・資源～ 第13回 造形・細部意匠からみた美意識の建築史～木割・絵様・彫刻～ 第14回 近代の日本建築 第15回 歴史的建造物の保存と修理技術</p> <p>第1回では「日本建築史」の導入として建築史の歴史がどのように始まり現在に至るのかを概説する。また建築史の発見が「文化財保存」の制度と密接に関わり現在までに至っていることが説明される。</p> <p>第2回では伝統建築を理解するための基礎的な用語、概念を解説する。</p> <p>この基礎知識をもとに第3回から第11回までわたって神社建築、寺院建築のそれぞれを古代→中世→近世と時代順に解説してゆく。こうして時代ごとの「様式」「形式」の変遷の理解を目指す。</p> <p>第12回以降では発展的に視点を変えて、大工職人や資源の観点から建築史を解説したり、細部意匠や美意識の観点からみた建築史としての通史的解説を試みる。観点を定めることで日本建築史の理解が深まる授業構成としている。</p> <p>そして近代化以降の和風建築の歴史、現行の文化財建造物の保存制度や修理技術などを概説する。</p>
成績評価	授業への参加度（10%）業中のクイズ（20%）および定期試験の結果（70%）により評価を行う。
教科書	授業資料をオンラインで配布する。
参考書 参考資料	<p>主要参考書としては次を挙げる。</p> <p>日本建築学会『日本建築史図集』彰国社（解説：日本の歴史的建造物の図版集として） 近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版（解説：日本建築の細部名称に詳しい解説書として）</p>
履修上の注意	配布資料を閲覧できるようにPCほかタブレットなどを持参すること。必要なメモをとれるようにすること。
予習・復習指導	1コマに対して4時間の復習をすること。
関連科目	日本住居史ほか伝統建築に関わる科目
課題に対するフィードバックの方法	授業中のクイズは次回以降の授業中に、期末試験に対する解説はクラスルームにより行う。
教員の実務経験	主に曹洞宗大本山總持寺（神奈川横浜）および總持寺祖院（石川能登）の境内における諸殿堂の保存修理工事に関わった。文化財建造物修理の工事監理や修理工事報告書執筆の経験を活かし、構造・技法・様式等の観点から専門的な社寺建造物の解説を行う。
教員の実務経験有無	有

講義名	24 建築CAD演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOBI 建築学部
教授	井上 晋一	KYOBI 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時にCAD演習を受講していない学生にも積極的な受講を求め、初心者向け2D、3D、BIMなどの理解を深めることを目標とする。 ・2次元CADの意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCAD、adobe photoshop、Illustratorの操作法を習得する。 ・BIM (Building Information Modeling) の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの操作法を習得する。 ・建築設計作品のプレゼンテーションにおけるCGと動画の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの操作法を習得する。その他のソフトも参照する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD (Computer Aided Design) は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、特に本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM (Building Information Modeling) の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェアの基礎的および応用的な操作法を習得する。尚、初回の教回には1年時のソフト習得状況に合わせて分かれて作業を行い、その後合流する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回 ガイダンス、AutoCAD① (基本) 第2回 AutoCAD② (基本と応用) 第3回 AutoCAD③ (応用) 第4回 Archicad① (基本：サンプルのモデリング) 第5回 Archicad② (同上) 第6回 Archicad③ (同上) 第7回 Archicad④ (応用：自身の設計作品のモデリング) 第8回 Archicad⑤ (同上) 第9回 Archicad⑥ (同上) 第10回 Twinmotion① (インストールとBIMモデルのインポート) 第11回 Twinmotion② (レンダリング応用) 第12回 Twinmotion③ (同上) 第13回 Twinmotion④ (動画制作) 第14回 Twinmotion⑤ (同上) 第15回 Twinmotion⑥ (成果品のプレゼンテーション、講評) ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況 (45%、演習の円滑な進行への貢献を含む) ・課題に対する成果品 (55%、全課題に対する成果品の提出を必須とする)
参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ ・「CADの基礎と演習 -AutoCAD2011を用いた2次元基本製図-」赤木徹也他著、共立出版
履修上の注意	VDT (Visual Display Terminals=PCなどの情報端末) 作業が中心となるため、作業環境維持 (各種IDとパスワードの管理など)、作業データ管理 (こまめなバックアップなど)、健康管理 (特に眼精疲労) に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	「情報基礎演習」「建築CAD演習Ⅰ」。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。 演習中に随時フィードバックを行う。 授業時間外でも、担当教員は質疑応答を行う。
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かしPCを用いた設計手法の演習を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA218S

講義名	25 建築計画Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 安田 光男	KYOBI 建築学部

到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。 この科目は、DP2-1～3 に該当する。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。現代では住宅の外の「施設」で行われる出産・育児・食事・教育・労働・婚礼・葬祭といった多くの行為が、かつては住居の中で行われてきた。住居は建築計画の原点でもあり、住居に再び注目することで、建築計画に関して総合的・横断的な視点を取り戻すことができるのではないかと考える。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」ことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画を考えるとともに、それを実現するための設計に関する基本的な知識を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、住居の建築計画学について 第2回 ライフスタイルと社会の変化について 第3回 住空間の計画プロセス1 第4回 住空間の計画プロセス2 第5回 住宅の単位空間 第6回 住空間の機能と組織 第7回 住環境としつらえ 第8回 住居計画（屋根と階段、開口部と水回り） 第9回 住居計画（外構・植栽、住宅の構成） 第10回 住居計画（住戸の定型とバリエーション） 第11回 集合住宅の系譜 第12回 集合住宅の種類と規模 第13回 現代における集合住宅 第14回 優秀レポート発表 第15回 総括・ディスカッション
成績評価	学習状況（30%）とレポート課題（30%）及び期末試験（40%）によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」 佐々木誠著他 彰国社
参考書 参考資料	「住宅の計画学入門」 岡田光正著他 鹿島出版会
履修上の注意	住居に関する建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の第1章から第5章を読み、専門用語や掲載されている事例の建築物について調べておくこと。1コマに対し4時間の事前学習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築設計基礎演習Ⅱ」「建築設計演習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については優秀レポート作成者の発表を通して総評を行う。 期末試験については解説・総評を掲示する。
教員の実務経験	担当教員は住宅設計及び集合住宅設計において実務経験を有しており、住空間に関するより実務的な内容について講義を行うことができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-MA219L

講義名	26 建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 根来 宏典	KYOB I 建築学部

到達目標	建築物の設計に必要となる材料選定の基本を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	古来、素材を活かした建築手法が伝統的に継承されてきた。それら技術の発達によって新しい建築表現へと繋がっている。建築は言うまでもなく素材や材料を組み合わせられてつくられる。設計図を描くうえで、材料のことを知らずして、リアリティのある設計は行えない。デザイン、構造、施工、環境といった建築のすべての分野と強く関連しているのが建築材料である。材料の歴史、特徴、性質、種類、使い方への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学んでいく。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義① 第3回 木材についての講義② 第4回 木質材料についての講義 第5回 植物材料についての講義 第6回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第7回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第8回 コンクリートについての講義 第9回 セメント・コンクリートについての講義 第10回 石についての講義 第11回 土・漆喰・石膏についての講義 第12回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第13回 ガラス、プラスチックについての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験	建築家としてアトリエ系設計事務所を構えて21年の教員が担当する。素材の探求を通じて、職人文化と現代の暮らしを紡ぐ建築のあり方を追求しており、その実務経験を活かしたリアリティのある教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA211L

講義名	27 世界建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	建築科目 美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 白鳥 洋子	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>西洋、エジプト、イスラム、東洋の主要な歴史的建築について概要を把握し、基礎的な知識を身につける。時代や地域による建築の固有性と時代を超えた普遍性を理解し、変遷を掴み、建築について論じる力を養う。</p> <p>本科目は、DP0-1、DP1-1、DP2-1、DP2-2、DP2-3に該当する。</p>
授業概要	<p>西洋ではエジプト、ギリシア、ローマの古代の建築をはじめとし、中世ではロマネスク、ゴシック、さらにルネサンス、バロック、19世紀の建築と各時代の主要な建築について概説を行う。さらに、東洋では、イスラム、インド、アジアの主要な歴史的建築を概観し、大きな建築の潮流を捉えて行く。世界の観点から各時代の歴史的建築について基礎的な認識を深め、同時に主要な建築の特徴や価値を理解する。時代や社会の背景と建築の関連性を捉えることや、意匠と建造の関連性を理解することも必要である。これらを通じて、時代や地域、文化によって異なる建築の固有性と、時代を超えて表出する建築の普遍性を捉えて行きたい。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回：ガイダンス エジプト・メソポタミアの建築 第2回：ギリシア建築 第3回：ギリシア建築・ローマ建築 第4回：ローマ建築 第5回：初期キリスト教建築 ビザンチン建築 第6回：イスラム建築 プレ・ロマネスク 第7回：ロマネスク建築 第8回：ゴシック建築 第9回：ルネサンス建築1 第10回：ルネサンス建築2 第11回：バロック建築 第12回：新古典主義、革命期の建築 第13回：19世紀の建築 第14回：西アジア、南アジアの建築 第15回：東アジア、東南アジアの建築 * 授業の進行状況により、日程の調整を行うことがある。</p>
成績評価	評価ポイント：期末試験（50%）、提出物（50%）
教科書	『西洋建築史図集』、三訂版、日本建築学会編、彰国社。
参考書 参考資料	『東洋建築史図集』、第1版、日本建築学会編、彰国社。桐敷真次郎、『西洋建築史』、共立出版、2001、2003。西田雅嗣、『西洋建築の歴史』、学芸出版社、2022。その他は、適宜、講義中に提示する。
履修上の注意	西洋においても東洋においても優れた建築には新鮮な創造性、変遷や成熟、世界観があり、それらは現代の建築に置き換えて考えることができる。先人たちの遺産に学び、自身の制作や研究を深める契機にしてほしい。
予習・復習指導	講義（1コマ）に対して2時間の事前学習、2.5時間の復習を行うこと。 事前学習：次回講義の該当箇所について教科書、参考書を読み、概要を把握しておくこと。 復習：講義を振り返り、教科書、参考書を参照しながら、ノートを整理すること。
関連科目	近代建築史、日本建築史、現代の建築、芸術、哲学に関する科目。
課題に対するフィードバックの方法	授業内に提出物を提示し、適宜、コメントする。 期末試験終了後にクラスルームにて解説を行う。
教員の実務経験	フランスの大学の学位を持ち、長年に亘りヨーロッパで研究活動を行っている。フランスの二つの大学の学位と同分野の博士の学位、フランス政府公認建築家資格と日本の一級建築士の資格を持ち、海外での研究経験を持つ教員による実践的で専門的な歴史意匠の教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA220L

講義名	28 都市空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBUI 芸術学部

到達目標	都市空間のほとんどが日本固有の風土や文化、テクノロジーや社会体制等の影響下に形成されていることを理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本における都市空間の生成において、特に集住のライフスタイル、争い、災害、自然環境との関係による空間形成の構造や形態、交通手段、新しいライフスタイル等の影響等、多岐にわたる都市形成の要因を理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス（都市空間の意義、役割） 第2回 都市空間概念の誕生 第3回 都市空間の生成その1（地形） 第4回 都市空間の生成その2（縄文集落） 第5回 都市空間の生成その3（まちの発生） 第6回 都市空間の防御（争い） 第7回 都市空間の防御（社会形成） 第8回 都市空間の防御（水害） 第9回 都市空間の防御（地震） 第10回 ネットワークと都市空間（道路/鉄道） 第11回 ネットワークと都市空間（交通） 第12回 自然環境と都市の関係（農地、里山、自然地） 第13回 自然環境と都市の関係（公園） 第14回 自然環境と都市の関係（庭園） 第15回 総括/レポート
成績評価	受講態度30%、レポート70%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	『風土』和辻哲郎 『作庭記』 田村剛 『日本建築史図録』
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭に置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	「建築概論」「社寺建築論」「景観デザイン論」など
関連科目	「日本住居史」「社寺建築論」など
課題に対するフィードバックの方法	最終レポートのフィードバックによる。
教員の実務経験	デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年の実績をもとに、集落から都市までの空間形成の変遷、空間認識と空間設計の関係等について講義を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA321L

講義名	29 景観デザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>私たちの暮す住環境は、人(社会環境)と物(人工環境)と自然(自然環境)の三者が関係して調和する、歴史的に形成した総体としての空間である。建築を人々の生活や活動を支える空間の側から考える時、人・物・自然、個々の課題や技術とは違った、その要因や意味合いが意識されてくる。それは単に物の持つ物理的な強度の他に、人の経験や心に受ける強度としてそのあるべき姿・形が問われる側面である。そうした空間の有り様を念頭に据えて景観デザインの持つ創作的な視界について思考を深めることを到達目標とする。</p> <p>本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>建築空間の集積としての地域・都市の成り立ちを知ると共に、古代から現代まで地域・都市の形成過程に着目しながら歴史を振り返り、時代と社会が求めてきた環境はどのようなものかを解説する。特に、人(社会環境)の作る物(人工環境)が自然(自然環境)に影響を受けた状態に地域・都市の特徴すなわち景観は現れるのではないかと、という仮説に基づいて講義は展開する。そして、地域再生や歴史的景観を活かした街づくり等の事例を紹介する。講義はスライドを使用して行い、グループワークも利用して配布資料や各種案内など受講生とのやり取りを行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 町 家 第3回 民 家 第4回 民 家 第5回 格 子 第6回 格 子 第7回 庭 園 第8回 庭 園 第9回 起 源 第10回 住 居 第11回 環 境 第12回 内 外 第13回 田 園 第14回 東 西 第15回 南 北</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	評価ポイント：授業態度（30%）、期末レポート（70%）。
教科書	資料配布。
参考書 参考資料	「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編]及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善㈱ この他に授業で紹介。
履修上の注意	<p>基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」+「構想力」）</p>
予習・復習指導	講義をメモやスケッチしてオリジナルノートを作成する。その中で特に興味を持った事柄について深く調べることを心掛ける。
関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」他
課題に対するフィードバックの方法	期末試験／期末レポートに関してフィードバックをする場合は、コメント等を記載して返却。
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かし景観デザインについて論じる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA323L

講義名	30 伝統構造学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	伝統構造とは、日本で古来から受け継がれてきた社寺や古民家などの建築構造を主に示す。しかし、近年では海外から伝わった煉瓦造や鉄筋コンクリート構造、鉄骨造なども歴史的建造物として文化財となるものが増加してきた。 本講義では、伝統的な木造建築を中心に、その他の建築種別についても、基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を全般的に理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 歴史的建造物の地震被害 第2回 耐震対策の歴史 第3回 伝統工法と在来工法 第4回 基礎の工法 第5回 伝統木造の工法(1) 床組 第6回 伝統木造の工法(2) 軸組 第7回 伝統木造の工法(3) 小屋組 第8回 伝統木造の工法(4) 軒廻り、妻飾り 第9回 伝統木造の工法(5) 雑作 第10回 屋根の工法 第11回 壁の工法 第12回 木造以外の歴史的建造物 第13回 伝統工法の耐震技術 第14回 伝統工法の構造設計 第15回 在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	教材をクラスルームにアップする。
参考書 参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	構法計画Ⅰ・Ⅱ、日本住居史、日本建築史
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物、歴史的建造物の設計監理 歴史的建造物の修復に携わった経験が豊富であることから、現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法に精通している。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA322L

講義名	31 近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>① 現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。</p> <p>② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。</p> <p>本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。近代化過程の内容を理解するには、建築の歴史を単なる様式史として捉えずに、建築の生産の技術（計画・設計・施工等）を様々な面（思想、価値観、社会制度等）から捉えることが重要である。また、各国・地域の様々な試みを捉えることも同様に重要である。上記の視点から、代表的な建築家とその作品の紹介（図面・写真等）をふまえながら、近代の始まりから現代に至るまでの流れを解説する。講義は、大きく4つ（プレ・モダニズム、モダニズム、ポスト・モダニズム、そして日本の近現代建築）に分けて解説していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス / プレ・モダニズム（1）工業化時代の建築と技術 2. プレ・モダニズム（2）近代建築における伝統性と近代性 3. プレ・モダニズム（3）世紀末ヨーロッパの建築 4. モダニズム（1）建築のアヴァンギャルド 5. モダニズム（2）大量生産社会の建築 6. モダニズム（3）アメリカにおける近代建築 7. モダニズム（4）近代を代表する建築家1 8. モダニズム（5）近代を代表する建築家2 9. モダニズム（6）近代建築の成立と成熟 10. モダニズム（7）近代建築のひろがりと変容 11. ポスト・モダニズム（1）近代建築への懐疑と超克 12. ポスト・モダニズム（2）建築のポスト・モダン/21世紀の建築 13. 日本の近現代建築（1） 14. 日本の近現代建築（2） 15. 日本の近現代建築（3） <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	定期テスト(60%)及び小レポート(40%)により総合的に評価する。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書 参考資料	鈴木博之著『近代建築史』、中谷礼仁著『実況 近代建築史講義』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>予習：教科書の熟読。</p> <p>復習：講義内容の整理、また興味を持った内容について書籍等で理解を深めること。</p>
関連科目	「日本住居史」「日本建築史」「世界建築史」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。 その経験を生かし本授業では、建築設計・意匠的視点から代表的な建築作品や歴史の流れを解説する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA205L、AATDE203L

講義名	32 建築計画Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>学校、美術館、図書館、ホールといった様々な建築物について、用途に応じて求められる計画的知識を身に着けるとともに、実例の分析を通じてそこで行われる人々の活動を豊かにする設計的な工夫について学ぶ。</p> <p>この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>美術館、劇場、学校といった各種建築物の計画において、踏まえておくべき建築計画上のポイントなどの一般的な理論と、各ビルディングタイプに関連する情報について講義を行う。また各種建築物の個別の計画手法について、具体的な建築家作品をあげながら解説する。複合施設や現代的な現象である変容についても言及し、今後の建築計画学のあり方についても展望する。</p> <p>各自でも事例分析を行いレポートとしてまとめる。建築物の計画的な特徴について言語化することを通して、その建築物に求められる機能や、空間の豊かさ、計画的合理性など、多角的な観点から建築物を評価する力を養う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス、概論</p> <p>第2回 文化施設:美術館・博物館・劇場(1)</p> <p>第3回 文化施設:美術館・博物館・劇場(2)</p> <p>第4回 文化施設:美術館・博物館・劇場(3)</p> <p>第5回 教育施設:小学校、中学校(1)</p> <p>第6回 教育施設:小学校、中学校(2)</p> <p>第7回 教育施設:幼稚園、保育園</p> <p>第8回 文化施設:図書館</p> <p>第9回 事例分析、レポート発表</p> <p>第10回 居住施設:集合住宅(1)</p> <p>第11回 居住施設:集合住宅(2)</p> <p>第12回 福祉施設:高齢者入居施設</p> <p>第13回 福祉施設:病院</p> <p>第14回 業務施設:オフィスビル</p> <p>第15回 公共空間:外部空間</p>
成績評価	<p>期末テスト(60%)と、途中で提出および発表を行うレポート及び学習状況(40%)により評価する。</p>
教科書	<p>川崎寧史他 『テキスト建築計画』学芸出版社</p>
参考書 参考資料	<p>『第3版コンパクト建築設計資料集成』(丸善)</p>
履修上の注意	<p>建築計画に関する事例研究をすることで、講義を深く理解するよう努めること。</p>
予習・復習指導	<p>一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>各回の授業の前に、参考書の『コンパクト建築設計資料集成』の該当する建築用途のページを読み予習すること。授業後に、教科書の該当する建築用途のページを読み復習すること。</p> <p>建築を学ぶ学生としていろいろな建物に興味を持ち見学する事を勧める。</p>
関連科目	<p>「建築設計基礎演習Ⅱ」「建築設計演習Ⅰ」「建築計画Ⅰ、Ⅱ」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポートについてのフィードバックを講義時間内に行う。</p> <p>小テストの解答・解説を授業時間内に行う。</p>
教員の実務経験	<p>担当教員は10年以上の建築設計の実務経験を持ち、各種建築物の計画について実践的な観点も加えた解説を行う。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>

講義名	33 都市計画		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に至る都市の変遷と都市計画の歴史を学ぶ。 ・快適な都市環境の計画方法と、ルールについて学ぶ。 ・都市をどのように作り、どのように使うかについて学ぶ。 ・この科目はDP2-1、2に該当する。
授業概要	<p>本科目は都市計画の初学者を対象に、都市とその計画に関する基本知識を学ぶための入門科目である。</p> <p>現代都市の生成過程および都市計画の歴史を辿るとともに、現代の都市計画や都市デザインの実践事例を通して、都市の仕組みや都市計画法の役割、条例等の目的について講義する。講義は指定教科書の内容に沿って進めるが、適宜最新事例の画像や映像を織り交ぜ、追加資料も配付して説明する。本科目を通じて、これまで、都市がいかに計画されてきたか、また、これから快適な都市をいかにして創り出すか、そのためにどのようなルールを用いるべきかについての知見を得るとともに、建築設計に活かせる都市的視点を獲得することが目標である。</p>
授業計画 授業内容	<p>講義は下記のスケジュールで進める予定である。</p> <p>週1コマ・15週（合計15回）</p> <p>第01回 ガイダンス、都市計画とまちづくり 第02回 都市史 第03回 都市計画マスタープラン 第04回 土地利用計画 第05回 建築物の規制と誘導 第06回 市街地再開発と都市再生 第07回 住環境計画 第08回 公園・緑地計画 第09回 都市の景観 第10回 都市の交通計画 第11回 公共空間とまちづくり 第12回 都市の防災計画 第13回 都市と農村 第14回 都市の持続可能性 第15回 都市論、総括</p> <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>受講姿勢（出席状況、小テストなどを含め40%）、記述・論述式の期末試験の成績（60%）を総合して評価する。単に出席するだけでなく、講義内容の理解に基づく期末試験の成績が単位取得の重要な要件となる。</p>
教科書	<p>【指定教科書】（履修者は必ず購入すること）</p> <p>1) 澤木昌典・嘉名光市 編著、武田裕之 他著：「図説都市計画」学芸出版社、2022</p>
参考書 参考資料	<p>1) 饗庭伸・鈴木伸治 編著、阿部伸太 他著：「初めて学ぶ都市計画 第二版」市ヶ谷出版、2018 2) 前田英寿 他著：「アーバンデザイン講座」彰国社、2018 3) 都市計画教育研究会 編：「都市計画教科書第三版」彰国社、2001 4) その他、適宜資料を配布する。</p>
履修上の注意	<p>各回の授業では毎回指定教科書の該当ページを参照するので、各自が必ず教科書を購入し、毎回持参する。</p>
予習・復習指導	<p>1回（1コマ）の講義について、4時間の予習・復習をする。予習復習時間には、まち歩きや都市開発事例の調査・視察などに要する時間も含む。</p>
関連科目	<p>建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、建築設計演習Ⅰ・Ⅱ</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>適宜ミニレポート（小テスト等）を行い、授業内容の理解度を確認するとともに、次回以降の授業内でフィードバックを行う予定である。</p>
教員の実務経験	<p>都市計画行政および建築設計、環境保全計画、環境デザイン、まちづくり等に関する実務経験を有する教員が実務経験を活かし説明を行う。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>AAT-DE205L</p>

講義名	34 伝統建築図 (応用)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 建築学部

到達目標	伝統建築特に社寺建築特有の納まりや細部意匠の製図法を学ぶとともに製図道具の使い方を習得する。特に詳細図を中心に演習をおこない伝統建築における設計基準、寸法決定の流れを理解する。本科目は、DP2-1～3に該当する。
授業概要	伝統建築の基礎的な納まりや寸法決定の流れを把握し、より高度な図面作成技術を習得するため、各回課題ごとに代表的な伝統建築の詳細図面を作図する。また伝統建築の彩色技法についても演習をおこなう。
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 授業ガイダンス 授業の目的、課題説明、製図道具の説明 第2回 伝統建築図面の基礎/$\sqrt{2}$～$\sqrt{4}$の作図 格子戸の割付け 第3回 伝統建築図面の細部意匠(1)/組物 中世和様 第4回 伝統建築図面の細部意匠(2)/葦股 古代本葦股 中世本葦股 第5回 伝統建築図面の細部意匠(3)/木鼻 中世大仏様 中世禅宗様 第6回 伝統建築図面の細部意匠(4)/木鼻 近世大工文書から 第7回 伝統建築図面の細部意匠(5)/破風板 近世神社本殿 第8回 伝統建築図面の細部意匠(6)/彩色技法 近世神社本殿 第9回 伝統建築図面の細部意匠(7)/彩色技法 近世神社本殿 第10回 伝統建築図面の細部意匠(8)/彩色技法 近世神社本殿 第11回 伝統建築図面の納まり(1)/軒廻り 中世和様 第12回 伝統建築図面の納まり(2)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第13回 伝統建築図面の納まり(3)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第14回 伝統建築図面の納まり(4)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第15回 図面の提出 講評</p> <p>また授業では伝統建築特有の製図技法を学ぶために製図道具(烏口、面相筆、撓り定規等)の使用法も体験する。 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	すべての課題の提出図面によって成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	日本建築史基礎資料集成(中央公論美術出版)、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	毎回課題が提示されるため毎回の出席が望まれる。また毎回授業時間内に課題を完成させることに努め、完成しない場合は時間外に作図をおこなうこと。
予習・復習指導	一講義(2コマ)に対して3時間の予習復習をすること
関連科目	伝統建築専門実習への展開、履修することを薦める科目; 伝統建築図(基礎)・(発展)
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、数多くの文化財建造物の設計監理の経験がある。また伝統建築の図面(文化庁に提出する永久保存図)も多数調製しており、伝統建築の製図法については熟知している。したがって授業内容は、実際の社寺建築の納まりや伝統技法である規矩術までを演習としておこなっている。
科目ナンバリング	AAR-DE316S

講義名	34 伝統建築図		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 建築学部

到達目標	伝統建築特に社寺建築特有の納まりや細部意匠の製図法を学ぶとともに製図道具の使い方を習得する。特に詳細図を中心に演習をおこない伝統建築における設計基準、寸法決定の流れを理解する。本科目は、DP2-1~3に該当する。
授業概要	伝統建築の基礎的な納まりや寸法決定の流れを把握し、より高度な図面作成技術を習得するため、各回課題ごとに代表的な伝統建築の詳細図面を作図する。また伝統建築の彩色技法についても演習をおこなう。 授業は基礎的な作図法（√、黄金比他の作図法）に始まり、建具（蔀戸）の納まりと格子の割付け法を学び、六枝掛三斗組の作図法、墓股、木鼻（大仏様、禪宗様、近世の獅子頭）等のフリーハンドの作図法、そして軒の断面図、破風の作図法そして彩色法を経験する。最後に断面詳細矩計図の作図をおこなう。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 授業の目的、課題説明、製図道具の説明 第2回 伝統建築図面の基礎/√2~√4の作図 格子戸の割付け 第3回 伝統建築図面の細部意匠(1)/組物 中世和様 第4回 伝統建築図面の細部意匠(2)/墓股 古代本墓股 中世本墓股 第5回 伝統建築図面の細部意匠(3)/木鼻 中世大仏様 中世禪宗様 第6回 伝統建築図面の細部意匠(4)/木鼻 近世大工文書から 第7回 伝統建築図面の細部意匠(5)/破風板 近世神社本殿 第8回 伝統建築図面の細部意匠(6)/彩色技法 近世神社本殿 第9回 伝統建築図面の細部意匠(7)/彩色技法 近世神社本殿 第10回 伝統建築図面の細部意匠(8)/彩色技法 近世神社本殿 第11回 伝統建築図面の納まり(1)/軒廻り 中世和様 第12回 伝統建築図面の納まり(2)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第13回 伝統建築図面の納まり(3)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第14回 伝統建築図面の納まり(4)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第15回 図面の提出 講評 また授業では伝統建築特有の製図技法を学ぶために製図道具（烏口、面相筆、携い定規等）の使用法も体験する。 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	すべての課題の提出図面によって成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	日本建築史基礎資料集成（中央公論美術出版）、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	毎回課題が提示されるため毎回の出席が望まれる。 また毎回授業時間内に課題を完成させることに努め、完成しない場合は時間外に作図をおこなうこと。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、数多くの文化財建造物の設計監理の経験がある。また伝統建築の図面（文化庁に提出する永久保存図）も多数調製しており、伝統建築の製図法については熟知している。したがって授業内容は、実際の社寺建築の納まりや伝統技法である規矩術までを演習としておこなっている。
科目ナンバリング	AAT-DE321S

講義名	35 京町家再生論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義、まちづくり（コミュニティ・デザイン）に関する学理、方法、実践、社会システムを理解する。まちづくり（コミュニティ・デザイン）にかかわる実践的対応能力の開発を行う。</p> <p>【参考】 京町家の保全・継承の意義は、京町家が連担し、自然と調和し、洗練され落ち着いた統一的な「町並み景観」、また伝統的な住まいやまちでの職住共存の暮らし方の中で積み重ねられてきた工夫や知恵の「生活文化」、それらを基盤とする京町家の現代的価値を問い直すことにある。（引用：京都市京町家保全・継承推進計画 平成31年2月策定） 本科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。</p>
授業概要	<p>京町家を建物単体で取り扱うのではなく、それらが連担することや、集合体として形成している路地も含めて、それら関係性にも着目しながら、京都におけるまちの保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する講義を行う。また、フィールドワークやワークショップの方法を学んだ上でまちづくりの現代的課題と実践にかかわる演習を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全 15 回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 第2回 京町家の保全・継承（総論）①※高田先生 第3回 京町家の保全・継承（総論）② 第4回 町家見学・フィールドワーク 第5回 京町家における生活文化①※杉本先生 第6回 京町家における生活文化② 第7回 町家見学・フィールドワーク 第8回 京町家の改修・技術①※北岡先生 第9回 京町家の改修・技術② 第10回 町家見学・フィールドワーク 第11回 細街路の再生①※森重先生 第12回 細街路の再生② 第13回 フィールドワーク講評 第14回 京町家の再生まちづくり①※生川 第15回 京町家の再生まちづくり②</p> <p>※学習への理解、到達状況に加えて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合があります。</p>
成績評価	「小レポート＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	京都学演習 建築計画Ⅳ
課題に対するフィードバックの方法	演習ごとに講評・質疑応答などを行う
教員の実務経験	（公財）京都市景観・まちづくりセンターおよび京安心すまいセンター在籍時に京町家の保全・再生に係る業務を担当していた経験から、京町家の保全・再生に関する課題全般に精通していることに加え、自邸で自ら改修設計した京町家（京環境配慮建築物として京都市から2014年度優秀賞を受賞）を受講学生の見学対象として提供している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-DE322L

講義名	36 室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から総括的にインテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等について解説する。また現代の話題による日常生活とインテリアデザインとの関連性や考察を通じ、実践的でわかりやすい制作活動のヒントとなるトピックを提供する。また豊富な経験を通じたインテリアデザインの仕事や作家についてなど、インテリアデザインの最前線を紹介する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第2回 インテリア空間 第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第4回 インテリアスタイル 第5回 家具デザイン 第6回 ウインドトリートメント 第7回 ライティングデザイン、 第8回 インテリア設備 第9回 マテリアルコーディネート 第10回 カラーコーディネート 第11回 エルゴノミクス（人間工学） 第12回 室内環境 第13回 インテリア計画と発想 第14回 ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザイン 第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート</p>
成績評価	<p>評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（30%）、修得確認のためのファイナルレポート＜必須＞（30%）によって評価する。</p>
教科書	<p>図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子</p>
参考書 参考資料	<p>授業中に適宜紹介し、配付または掲示（クラスルーム）を行う。</p>
履修上の注意	<p>室内意匠・生活文化・環境技術・人間工学などデザインと技術の両側面から、日常での幅広い興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。</p>
予習・復習指導	<p>1回の講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。教科書の該当する章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。</p>
関連科目	<p>「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「造形材料論」「建築材料」「デザイン作図演習」「インテリア設計」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回のミニレポート課題、クラスルーム、メールにより質疑応答を行う。</p>
教員の実務経験	<p>一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による、実践を踏まえた解説による講義を行う。</p>
教員の实務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>COM-DE312L</p>

講義名	37 建築計画Ⅳ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 杉本 直子	KYOBI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>建築保存計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、建築空間の現代的再編・再生を目的とした、建築計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術の習得に加え、ストック時代に求められる建築マネジメントやコミュニティの再生など、地域まちづくりにつながる建築企画についても学ぶ。(建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得および新しい社会ニーズに対応する建築企画力の育成)</p> <p>本科目は、DP2-1~4に該当する。</p>
授業概要	<p>現代の成熟社会における日常生活の豊かな場、建築とはどのようなものなのか。本講義では建築保存計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、近代建築等の保存、修復、再生の計画・設計整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に解説し、保存改修について理解を深めるための演習課題として、近代建築のサーベイを行い、報告書を作成してもらう。</p> <p>また、フローからストックへ建築業界の大きな枠組みの変化が求められる中で、マネジメントやコミュニティといった新たな視点からみた建築のあり方を問う建築企画にも視野を拡げ、地域まちづくりの課題について理解を深めるための演習課題として大学周辺のフィールドワークを行い、その調査結果を報告書として取りまとめる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築保存計画学とは何か 第3回 建築の保存とは何か_その1 第4回 建築の保存とは何か_その2 第5回 近代建築の保存改修のサーベイ 第6回 現代における文化財について 第7回 近代建築の背景にあるもの 第8回 近代建築の保存改修の調査報告会と講評 第9回 マネジメント時代における建築企画とは何か 第10回 空き家の再生まちづくり 第11回 地域住宅まちづくり 第12回 大学周辺地域におけるフィールドワーク 第13回 団地マネジメント・団地再生 第14回 市民による建築文化まちづくり 第15回 フィールドワーク報告会と講評</p>
成績評価	近代建築の保存改修のサーベイ報告書(50点満点)と地域まちづくりに関する調査報告書(50点満点)の合計点が60点以上を合格とする。
教科書	なし(配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用)
参考書 参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して、4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画I、建築計画II、建築計画III
課題に対するフィードバックの方法	授業毎に小レポートを提出し、質疑応答があれば、次回授業でフィードバックを行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を活かし、新築、リノベーション、コンバージョンに関わる20年以上の設計実務経験を持つ。本授業では、各種建築物の保存と再生について、基礎知識と実例と関連付けて解説を行う。さらに、保存再生建築物や地域まちづくりに関するサーベイを行ってもらうことで、実践的な観点からより深い理解が得られると考えている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-DE318L

講義名	38 公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>デザインを単に造形や機能性の観点から捉えるのではなく、広義にわたる意義や役割について深く考察する。公共物に限らず、芸術作品、自然環境、社会、都市空間など、あらゆる領域におけるデザインの影響を理解し、国内外の事例を通じてデザインがもたらす価値や問題点を検討する。さらに、デザイナー・芸術家・建築家として、自ら問題意識を持ち、課題を設定し、解決に導く能力を養うとともに、デザインを通じた人生観の形成を目指す。</p> <p>主な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワードを理解する 2. キーワードについて自ら考察する 3. 自分のキャリアや人生に反映する <p>本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>公共物や公共空間が果たす社会的役割および文化的価値について深く掘り下げ、そのデザインがどのように社会へ影響を与えるのかを考察する。芸術、建築や都市計画、環境デザインの視点を変えながら、国内外の具体的な事例を通じて学ぶ。また、デザインが歴史的・社会的文脈の中でどのように形成され、変容してきたのかを分析し、受講生が自身の視点を持って批評できるようにすることを目的とする。</p> <p>授業で行うこと：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前の準備：思考の深化（各週） 2. 講義：キーワードと概念の理解（各週） 3. アウトプット：アンケート方式による意見共有（各週） 4. レポート提出：学期末に1回
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 人生のデザイン 第2回 発想のデザイン 第3回 思考のデザイン 第4回 プロセスのデザイン 第5回 見せ方のデザイン 第6回 認知のデザイン 第7回 記憶のデザイン 第8回 夢のデザイン 第9回 見せ方のデザイン 第10回 体験のデザイン 第11回 公のデザイン 第12回 景観のデザイン 第13回 再生のデザイン 第14回 循環のデザイン 第15回 生き延びるためのデザイン <p>*学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>授業態度（出欠）75% → 出席課題 15回×5点 レポート 25%（合計1回）</p>
教科書	<p>配布資料、映像等</p>
参考書 参考資料	<p>「LIFE SHIFT100年時代の人生戦略」アンドリュー スコット、他 「カミング・バック・トゥ・ライフ」ジョアンナ・メイシー、モリー・ヤング・ブラウン 「繊細さは、これからの時代の強さです」アニータ・ムアジャニー 「デザイン思考が世界を変える」ティム ブラウン 「実践 スタンフォード式 デザイン思考 世界クリエイティブな問題解決」ジャスパール・ウ 「突破するデザイン」ロベルト・ベルガンティ 「新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる」リチャード・フロリダ 「フリーエージェント社会の到来—「雇われない生き方」は何を変えるか」ダニエル ピンク 「幸福の「資本」論—あなたの未来を決める「3つの資本」と「8つの人生パターン」」橋本 隆 「10年後の仕事図鑑」堀江 貴文、落合陽一 「多動力」堀江貴文 「ハウ・トゥー アート・シンキング 閉塞感を打ち破る自分起点の思考法」若宮和男 「直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN」佐宗邦威 「リサーチ・ドリブン・イノベーション 「問い」を起点にアイデアを探究する」安齋勇樹 「ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する7つのステップ」寛裕介 「プロセスエコノミー あなたの物語が価値になる」尾原和啓 「アフターコロナのニュービジネス大全 新しい生活様式×世界15カ国の先進事例」原田 曜平 「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社 「認知バイアス辞典」情報文化研究所 「サステイナブルなものづくり」W・マクダナー 「里山の環境学」武内和彦、他 「発想する会社！」トム・ケリー 「生き延びるためのデザイン」ヴィクター・パバネック 「沈黙の春」レイチェル・カーソン 「つくる公共50のコンセプト」せんだいメディアテーク 「まちづくり幻想」木下齊 「コミュニティデザイン」山崎亮 「テンポラリーアーキテクチャー」OpenA 「人生を変える最強のコミュニティづくり」美宝れいこ 「シェアをデザインする」猪熊純、他 「ブルー・ゾーン」ダン・ビュイトナー 「人口減少社会のデザイン」広井良典 「コミュニティ・オーガナイズング」鎌田華乃子 「持続可能な地域の作り方」寛裕介 「ネイバーフッドデザイン」荒島史 他</p>
履修上の注意	<p>講義内容はオムニバス形式である。ゲストを招いた講義も予定。</p>
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 講義前に配布される資料をよく読み込むこと。 各回講義で扱う用語の概念をできるだけ調べ理解に努めること。</p>
関連科目	<p>建築計画Ⅱ 建築計画Ⅳ 京町家再生論 デザイン概論 色彩理論演習 等</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却するなど。授業時間外にも、担当教員への質問を随時受け付ける。</p>
教員の実務経験	<p>担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導を行う。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>COM-DE313L</p>

講義名	39 社寺建築論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 建築学部

到達目標	社寺建築を単に様式で捉えるのではなく、決定された寸法の根拠や意味まで深く考察できる知識と思考法を体得する。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	「日本建築史」で得た様式上の基礎知識のうえに、社寺建築の各部構造がどのような設計原理と様式によって決定がなされてきたかについて論じ、社寺建築の本質にせまろうとする。 特に前半は各時代の様式論を改めて確認し代表的な遺構の解説をおこなう。 後半は、各細部意匠について基礎から軸部、組物、軒、小屋、屋根葺き材料の順に開設をおこなう。 また、授業の進捗状況を鑑みて見学会も実施する予定である。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 社寺建築を理解するための基礎知識 第2回 古代の寺院建築 第3回 時代の神社建築 第4回 中世の寺院建築 第5回 中世の神社建築 第6回 桃山時代江戸時代の社寺建築 第7回 古建築の見学会 第8回 基礎廻りの構造と様式的変遷 第9回 軸部の構造と様式的変遷 第10回 組物の構造と様式的変遷 第11回 軒の構造と様式的変遷 第12回 小屋組みの構造と様式的変遷 第13回 屋根葺きの構造と様式的変遷 第14回 天井の構造と様式的変遷 第15回 授業のまとめ
成績評価	レポートで評価をおこなう
教科書	近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版
参考書 参考資料	滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、文化財建造物保存技術協会などが刊行した文化財建造物修理工事報告書
履修上の注意	「日本建築史」の既習を条件とする
予習・復習指導	日頃から文化財建造物の修理工事報告書に慣れ親しんでほしい。そこから常識ではなく、実物から復元することができる知識、能力を学びたい。また現地に赴き実際の社寺建築を見学する行動力と観察眼を身につけたい。
関連科目	「日本建築史」「伝統建築図」
課題に対するフィードバックの方法	提出したレポートに対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、とくに伝統建築のうちでも社寺建築について十分な経験がある。授業では社寺建築の様式的知識の伝達だけでなく、材料の見方、仕様や破損の捉え方、継ぎ手仕口など実際の工事実施に必要な基礎知識の講義をおこなう。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-DE324L

講義名	40 建築設計導入実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>①図面表現や模型制作の基礎的手法および道具の種類・使い方を正しく習得する。 ②図面描写や模型制作を通じて、建築の成り立ちについて理解できるようになる。 ③事例調査やダイアグラムの作成を通じて、建築空間がどのようなコンセプト（考え方）に基づいて設計されたのかを理解できるようになる。 ④この科目はDP2-1、4に該当する。</p>
授業概要	<p>本科目は、建築設計の基礎科目である。課題を通じて、建築製図や模型制作に用いる各種道具の適切な使い方、建築空間の見方、読み方を学ぶ。</p> <p>1) 線の太さ、強弱、濃淡の使い分けとともに、文字の記入方法を習得する。 2) 配置図・平面図・断面図・立面図など、基本的な建築の図面（一般図）および透視図（パース）など、2次元での立体空間の表現技法について学ぶ。 3) 模型制作を行うことで立体の表現技法を習得する。 4) 世界の名作建築を教材に、建築物の図面を読み取り、どのような考え方で空間が設計されているのかを理解するなど、建築学科の学生として身につけておくべき力を育む。</p> <p>各課題に取り組む上で、建築がどのようにつくられ、どのような部材で構成されているかを理解しながら取り組む。</p>
授業計画 授業内容	<p>週1回・3コマ（全15週）</p> <p>第1週：ガイダンス（用具の使い方、スケジュール、課題の説明） 第2週：線の練習 第3週：建具表 第4週：建築図面の描き方（1） 配置図・平面図1 第5週：建築図面の描き方（2） 配置図・平面図2 第6週：建築図面の描き方（3） 平面図3 第7週：建築図面の描き方（4） 立面図・断面図1 第8週：建築図面の描き方（5） 断面図2 第9週：建築の図法 建築の図法（軸測投影図法、中心投影図法） 第10週：建築模型の制作（1）（模型箱制作・型紙制作・ボードへの貼り付け） 第11週：建築模型の制作（2）（部材の切り出し・仮組） 第12週：建築模型の制作（3）（組み立て・完成） 第13週：建築空間の読み取り（1） 事例収集・ダイアグラムの作成 第14週：建築空間の読み取り（2） 作品紹介シートの作成 第15週：最終講評会（建築模型・作品紹介シート）、まとめ</p> <p>※課題の詳細および日程については、各課題の授業初回に指示する。</p>
成績評価	<p>受講態度（20%）、提出物（課題作品）や小テストなどの完成度（80%）によって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>【指定教科書】（履修者は必ず購入すること） 安藤直見・柴田晃宏・比護結子 著：「建築のしくみ 住吉の長屋／サヴォア邸／ファンズワース邸／白の家」丸善株式会社、2008</p>
参考書 参考資料	<p>1) 日本建築学会 編：「第4版コンパクト建築設計資料集成」丸善株式会社、2024 2) 垣田博之 著：「名建築のデザインに学ぶ製図の基礎」学芸出版、2021</p>
履修上の注意	<p>1) 各課題の条件および提出期限は厳守する。 2) 指定教科書「建築のしくみ」は随時ページを参照するので、開講までに必ず購入し、毎回持参する。 3) 特に指示しない限り、製図板など指定したものを除く製図用具一式は毎回持参する。 4) 授業にはノートやメモ等を毎回持参し、受けた説明をメモする。（随時ノートチェックを行う。） 5) 模型制作等で使用する道具に関する安全対策指導には必ずしたがう。</p>
予習・復習指導	<p>1) 実習課題はその都度出題するが、提出期限は厳守する。 2) 各週の授業について、2時間の事前学習、2時間の復習が必要である。 3) 事前学習としては、教科書や参考資料の熟読の他、建築書の読み込み、建築物の見学を自発的に行う。 4) 復習としては、各課題の振り返りと、製図練習の繰り返しを行う。</p>
関連科目	<p>構成基礎演習、建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題作品について、口頭発表、講評、質疑応答等を行う。</p>
教員の実務経験	<p>建築、インテリア、都市計画、景観設計、環境デザイン、プロダクト、グラフィックのデザインなど、広範囲にわたる実務経験を持つ教員が指導する。</p>
教員の实務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>AAT-SP001P</p>

講義名	41 建築設計基礎演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4、に該当する。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を習得する。第2課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査、コンセプト（設計意図）の立案、それを具体化する設計作業・表現を行うことで建築作品としてまとめあげていくプロセスを習得する。また、設計演習では制作スケジュール管理が重要であり、課題発表から課題提出までの流れを経験することで、制作スケジュールにおける時間管理を身につける。
授業計画 授業内容	全15週/週1日・3コマ 第1週 ガイダンス、課題A：<10mキューブ>：課題説明・課題分析 第2週 課題A：コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第3週 課題A：図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第4週 課題A：中間提出・作品修正 第5週 課題A：エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第6週 課題A：最終提出・優秀作品発表 第7週 課題B：<茶室のトレース>：課題説明・建物解説・現地見学 第8週 課題B：起こし絵図作成と建築図面の表現と理解（1） 第9週 課題B：建築図面の表現と理解（2）/断面図・最終提出 第10週 課題C：<小規模ギャラリー>：課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11週 課題C：コンセプトワーク・図面作成（配置図・平面図）・エスキース 第12週 課題C：図面作成（断面図・立面図）・模型制作・エスキース 第13週 課題C：中間提出・作品修正 第14週 課題C：エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第15週 課題C：最終提出・優秀作品発表
成績評価	授業態度（20%）、各課題の成果品の総合点（80%）で成績評価を行う。成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。
教科書	自作プリント、「第4版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画 I」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する事例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。「工芸実習導入」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。各課題共通で教科書のSection1,3を読み、かつ課題CについてはSection11も確認しておくこと。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習 II」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「建築CAD演習 I」、「建築概論」、「建築計画 I」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な設計教育を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP102S

講義名	42 建築設計基礎演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
助教	数下 和真	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 芸術学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>小規模な空間および住宅の設計により、基本的な建築空間の設計能力を身に付けるとともに、設計提案を図面および模型を用いて表現する方法を習得する。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。</p> <p>この科目は、DP2-1～4に該当する。</p>
授業概要	<p>初年度の建築設計基礎演習Ⅰに続く演習として、建築物の設計課題に取り組む。具体的な敷地を設定し、小規模かつ比較的シンプルな用途の建築物の設計を行う。第一課題としては、小規模なカフェ・店舗空間の設計を通して、建築や空間のプロポーション、動線の計画、光や影の演出、景色の切り取りといった基本的な空間造形および演出方法について学び、プレゼンテーションを行う。第二課題として、相互の関係を考慮する戸建て住宅群を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスをを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週 ガイダンス、課題A[観光地に建つブックカフェ]: 課題説明、敷地調査 第2週 ブックカフェ②: 事例分析、コンセプト立案 第3週 ブックカフェ③: コンセプト・基本構想報告 第4週 ブックカフェ④: 平面・断面・エスキス模型報告 第5週 ブックカフェ⑤: 中間発表 第6週 ブックカフェ⑥: 案の再検討、成果品作成作業 第7週 ブックカフェ⑦: 成果品作成作業 第8週 ブックカフェ⑧: 作品発表、講評</p> <p>課題B[相互の関係を考慮する戸建て住宅群]: 課題説明 第9週 戸建て住宅②: 事例分析、コンセプト立案 第10週 戸建て住宅③: コンセプト・基本構想報告 第11週 戸建て住宅④: 平面・断面・エスキス模型報告 第12週 戸建て住宅⑤: 中間発表 第13週 戸建て住宅⑥: 案の再検討、成果品作成作業 第14週 戸建て住宅⑦: 成果品作成作業 第15週 戸建て住宅⑧: 作品発表、講評</p>
成績評価	設計プロセス・中間時の発表も含めた受講態度、および成果品の内容により、総合的に評価を行う。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	<p>製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。</p> <p>敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。</p> <p>講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。</p>
予習・復習指導	<p>一講義(2コマ)に対して3時間の予習復習をすること。</p> <p>設計課題と類似する事例(複数)を日頃見学、視察し分析すること。</p> <p>課題AおよびBに当たっては、教科書のsection3「室と場面」を読み、行為と必要な空間の寸法について確認しておくこと。</p>
関連科目	<p>「建築設計導入実習」および「建築設計基礎演習Ⅰ」に続いてさらに発展した内容を扱う。</p> <p>同時期に開講する「建築CAD演習」は、設計提案の表現手法として本演習に活用できる内容を取り扱う。「建築計画Ⅱ」は特に住空間の計画上の考え方として本演習と関連がある。</p>
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。提出作品に対して、グループごと、および全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	担当する教員は、一級建築士の資格を持ち、建築設計・監理の実務経験を有している。設計教育の経験も豊富であり、実務経験を生かした実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有

講義名	43 建築設計演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
特任教授	小椋 吉隆	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>(建築デザイン) ①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。 この科目は、DP2-1~4 に該当する。</p> <p>(伝統建築) 製図用具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。 この科目は、DP2-1~4 に該当する。</p>
授業概要	<p>第1課題は共通課題、第2課題は建築デザイン・伝統建築の課題の選択制で行われる。</p> <p>(建築デザイン) 小・中規模の集合住宅、教育施設、商業施設、コミュニティ施設などの設計を行い、課題を通して、計画・構造・設備・デザイン・透視図など、建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な敷地に対してフィールドサーベイを行い、コンセプト(設計意図)を立て、それを具体化する設計を行う。各学生が分析・検討した成果品を個別にチェックを行い、最適解とするための指導を行う。</p> <p>(伝統建築) 伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図(縮尺=1/40 ~1/50程度)を制作する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全 15 週/ 週 90 分×4時間× 15 回</p> <p>共通課題 (第1課題) 第1週 ガイダンス、課題 A「集合住宅」: 課題説明・課題分析作業 第2週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第3週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第4週 基本構想発表<グループ別・全体> 第5週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第6週 プレゼンテーション作成・面積表 第7週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価></p> <p>建築デザイン課題 (第2課題選択制) 第8週 課題 B「保育園」: 課題説明・課題分析作業 第9週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第10週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第11週 基本構想発表<グループ別・全体> 第12週 平面・断面・エスキスチェック 第13週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第14週 プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第15週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価></p> <p>伝統建築課題 (第2課題選択制) 第8週 課題説明・図面作成 第9週 見学会 第10週 模型作成 第11週 模型作成 第12週 模型作成 第13週 模型作成 第14週 模型作成 第15週 模型作成・図面提出</p>
成績評価	学習状況 (20%)、提出作品 (80%) の完成度によって総合的に評価する。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善 「集合住宅 (建築設計テキスト)」 建築設計テキスト編集委員会編、彰国社 「保育施設 (建築設計テキスト)」、山田あずか・藤田大輔、彰国社 (第2課題で保育園を選択するもののみ)
参考書 参考資料	演習におけるレクチャー等で配布される資料及び下記の資料 「建築設計資料87 低層集合住宅2」 建築思潮研究所編、建築資料研究社 「ヒルサイドテラスで学ぶ建築設計製図」勝又英明、学芸出版社 「保育園・幼稚園・こども園の設計手法」仲 綾子その他、学芸出版社 『「新」建築設計資料(04) 地域シェア型保育施設—地域子育て支援・児童発達支援・学童保育・幼老併設—』建築思潮研究社
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	1 コマに対し2時間の事前学習をすること。 課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。
関連科目	「建築設計実習導入」、「建築設計基礎演習I」、「建築設計基礎演習II」、「建築計画II」、「建築計画III」、「建築設計演習IIA」、「建築設計演習IIB」
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン (第1課題・第2課題) 20名程度 (第2課題は10名程度) の学生に一人の教員指導によるスタジオ制とし、発表会において全ての学生の作品に対して講評を行う。さらに、すべての作品について教員・学生投票を行い、投票数を多く獲得した学生発表について講評を行う。 伝統建築 (第2課題) 最終回にて成果品に対し総評を行う。
教員の実務経験	担当教員は集合住宅及び保育所の設計、伝統建築の修復・新築設計において実務経験を有しており、設計演習においてより実務的な内容について講義及び設計指導を行うことができる。
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	AAT-SP204S

講義名	44 建築設計演習Ⅱ A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	竹脇 出	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	山田 滋也	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>オフィスデザインと構造デザイン（ストラクチャから建築を考える）の課題を通して、より専門性の高い設計手法を習得し、建築設計の根幹となる知識を獲得することを到達目標とする。</p> <p>この科目は、DP2-1～4に該当する。</p>
授業概要	<p>10週までオフィスデザイン課題、残り5週は建築構造課題に取り組むことで、建築設計に必要な基礎知識を習得し、後期課題に向けての準備を行う。オフィスデザイン課題では、小規模事務所ビルの設計と近年の新しい働き方に対応したオフィスインテリアに関する計画について、設備・内装材料等も含めた統合的なデザイン手法を身に付ける。計画段階の企画から外観デザインさらにはインテリアデザインに進化するプロセスを経験する。また、建築構造課題では各種構造形式を習得するための作図を実践することで建築構造の理解を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週1日・2コマ</p> <p>第1週 ガイダンス・「オフィス課題」課題説明、リサーチ、コンセプト</p> <p>第2週 エスキース1：コンセプト、ボリューム、ゾーニング</p> <p>第3週 エスキース2：プランニング、インテリア計画</p> <p>第4週 課題提出・班別講評会</p> <p>第5週 エスキース3：再提出、ワークスペース事例</p> <p>第6週 エスキース4：インテリア企画・計画</p> <p>第7週 エスキース5：インテリア設計</p> <p>第8週 エスキース6：全体調整</p> <p>第9週 課題提出・班別講評会</p> <p>第10週 課題修正確認・全体講評会</p> <p>第11週 建築構造課題説明、RC造(1)</p> <p>第12週 建築構造課題説明、RC造(2)</p> <p>第13週 建築構造課題説明、RC造(3)</p> <p>第14週 建築構造課題説明、S造(1)</p> <p>第15週 建築構造課題説明、S造(2)</p> <p>※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。</p>
成績評価	<p>授業態度(20%)、前10週および後5週の「成果品」(80%)から総合評価を行う。</p>
教科書	<p>「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善 「事務所建築(建築設計テキスト)」 建築設計テキスト編集委員会編、彰国社</p>
参考書 参考資料	<p>「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の講義の中で配布された資料等</p>
履修上の注意	<p>製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。</p>
予習・復習指導	<p>一講義(1コマ)に対して1時間の予習復習をすること。各週の課題や教員からのコメントを次週までに必ず修正するなど確実に履修を進めること。</p>
関連科目	<p>建築設計実習導入、建築設計基礎演習Ⅰ、建築設計基礎演習Ⅱ、建築設計演習Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築計画Ⅲ、卒業設計</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>グループ単位で教員が巡回する。各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。中間と最終の作品発表時は各班での講評と全体での講評・質疑応答を行う。</p>
教員の実務経験	<p>一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、設計に関する実務経験、及び設計教育の経験豊富な教員による演習指導を行う。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>AAT-SP305S</p>

講義名	45 建築設計演習 II B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 得敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
助教	数下 和真	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	設計課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得すると共に、各種の構工法、製図法の知識と表現技術を習得することを到達目標とする。 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	【建築デザイン・融合領域】 メディアテーク、社会教育施設、商業施設、展示施設、コミュニティ施設、駅前広場などの地域複合施設に加え、市街地住宅団地の再生など地域まちづくりの視座に立った設計を行う。そのことを通じてRC造などの建築の構工法、製図法の知識と表現技術を学ぶと共に、複合的な建築物の設計、リサーチによる課題の発見とコンセプトメイキング、プログラムの提案を習得する。(課題A、B共に小グループに分け各グループを各教員が指導するスタジオリートとする) 【伝統建築領域】 神社建築に対して現地調査を行い、調査報告書、実測図面を作成して報告を行う。
授業計画 授業内容	【建築デザイン・融合領域】 第1週 ガイダンス、課題A(1)＜メディアテーク(建築デザイン・融合領域共通)＞課題説明・班分け・作業 第2週 課題A(2)：サーベイプレゼン・提出(課題・敷地調査分析、事例研究) 第3週 課題A(3)：基本構想発表・提出(ブロックプラン、ゾーニング、コンセプト) 第4週 課題A(4)：スタディ模型等エスキス(平面構成、断面構成) 第5週 課題A(5)：中間発表 第6週 課題A(6)：エスキス(構造、空間構成、造形デザイン) 第7週 課題A(7)：作図(仕上げ)、提出模型製作 第8週 課題A(8)：制作発表・講評会・指摘内容の修正加筆(指摘作品) 第9週 課題B(1)：＜選択制①駅前広場と付帯施設(建築デザイン領域)、②堀川団地のまちづくりによる再生(融合領域)の内いずれか1つ＞課題説明・班分け・作業 第10週 課題B(2)：現地視察、課題・機能・社会的課題分析発表 第11週 課題B(3)：サーベイプレゼン・提出(課題・敷地分析、類似施設見学報告) 第12週 課題B(4)：基本構想発表・提出(平面構成、空間構成、造形デザイン) 第13週 課題B(5)：スタディ模型等エスキス(平面構成、空間構成、造形デザイン) 第14週 課題B(6)：作図(仕上げ)、提出模型製作 第15週 課題B(7)：制作発表・講評会・指摘内容の修正加筆 ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。 【伝統建築領域】全15週/週1日・3コマ 現地調査を行い、その情報を基に実測図、調査報告書を作成する。 第1週 ガイダンス、現地見学 第2週 現地調査、実測図作成(1) 第3週 現地調査、実測図作成(2) 第4週 現地調査、実測図作成(3) 第5週 現地調査、実測図作成(4) 第6週 現地調査、実測図作成(5) 第7週 現地調査、実測図作成(6) 第8週 現地調査、実測図作成(7) 第9週 現地調査、実測図作成(8) 第10週 現地調査、実測図作成(9) 第11週 報告書作成(1) 第12週 報告書作成(2) 第13週 報告書作成(3) 第14週 報告書作成(4) 第15週 報告書作成(5)
成績評価	授業態度(20%)、課題A・課題B・調査報告書「成果品」(80%)から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第3版 コンパクト建築設計資料集」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。現地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義(2コマ)に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例(複数)を日頃見学、観察し分析すること。
関連科目	「建築設計実習導入」、「建築設計基礎演習Ⅰ」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 作品発表時は全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、研究実績、及び、設計教育の経験豊富な教師陣を中心に、実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP306S

講義名	46 建築設計演習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 建築デザイン系		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOB I 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」や各種座学で得た知識を基に、建築・地域・都市の課題を通じて、卒業研究や卒業設計としての具体的な成果へとつながる資料収集力・調査分析力・構想力・発想力・デザイン力・スケジュール管理能力を身につける。</p> <p>本科目は、DP2-1～4に該当する。</p>
授業概要	<p>ゼミ制として各指導教官の研究室に配属し、卒業制作へと繋げることを念頭に置き、建築・地域・都市に関するテーマを各自設定し、建築デザインコンペの参加も視野に入れ、論文／設計の制作を行う。各自の進捗状況を把握するために中間報告会を行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、後期の卒業研究に向けての準備を行う。</p> <p>[建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等]</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日</p> <p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 ゼミ・チェック (制作方針について) 1</p> <p>第3週 ゼミ・チェック (制作方針について) 2</p> <p>第4週 ゼミ・チェック (敷地／資料調査) 1</p> <p>第5週 ゼミ・チェック (敷地／資料調査) 2</p> <p>第6週 ゼミ・チェック (制作コンセプト草案) 1</p> <p>第7週 ゼミ・チェック (制作コンセプト草案) 2</p> <p>第8週 ゼミ・チェック (中間報告草案)</p> <p>第9週 中間報告 (全体)</p> <p>第10週 ゼミ・チェック (図面・模型) 1</p> <p>第11週 ゼミ・チェック (図面・模型) 2</p> <p>第12週 ゼミ・チェック (図面・模型) 3</p> <p>第13週 ゼミ・チェック (図面・模型) 4</p> <p>第14週 ゼミ・チェック (図面・模型) 5</p> <p>第15週 最終プレゼンテーション・講評</p>
成績評価	授業態度 (出席等30%)、中間・最終「成果品」(評価等70%)から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第4版 コンパクト建築設計資料集」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	<p>「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等</p> <p>「建築設計資料集」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編]</p> <p>及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善</p>
履修上の注意	<p>製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業 (CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。</p> <p>敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。</p> <p>講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。</p>
予習・復習指導	<p>一講義 (2コマ)に対して3時間の予習復習をすること。</p> <p>設計課題と類似する実例 (複数)を日頃見学、視察し分析すること。</p>
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	それぞれの成果品を発表し、講評・質疑応答を行う
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP414S

講義名	47 卒業研究		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部
教授	安田 光男	KYOB I 建築学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 建築学部
教授	新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOB I 建築学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOB I 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 建築学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計／論文を制作する。 幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、指導教官の指揮の下で卒業研究を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教官及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通して習得した建築に関する知識や技術に基づき、建築分野の卒業論文あるいは卒業設計に相応しい課題を選定する。各自の進捗状況を把握するために中間発表会を行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展が出来るよう卒業制作の完成を目指す。
授業計画 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業制作ガイダンス 2. 卒業テーマ、敷地／資料分析の検討 3. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 4. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 5. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）3 6. 卒業研究中間発表 7. ゼミ・チェック（設計／論文草案）1 8. ゼミ・チェック（設計／論文草案）2 9. ゼミ・チェック（設計／論文草案）3 10. ゼミ・チェック（設計／論文草案）4 11. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）1 12. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）2 13. ゼミ・チェック（まとめ、最終プレゼンテーション） 14. 作品展示、提出 15. 講評会
成績評価	4年間の学びの集大成として、卒業研究（設計・論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができていくかを評価する。
教科書	自作プリント、「第4版コンパクト設計資料集」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集」「日本建築学会概観集・論文集」 「卒業制作作品集（各種）」「建築雑誌（各種）」
履修上の注意	成果物の提出締め切り日に必ず提出すること。 「卒業研究中間発表会」・「講評会」には必ず出席すること。 製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「伝統建築図（基礎）・（応用）・（発展）」、「伝統建築専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	ゼミ・チェック時に担当教員より質疑応答・講評を行う。 「卒業研究中間発表会」及び「講評会」時に建築学科の教員により質疑応答・講評を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な教育を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP418P